令和4年12月6日から

令和4年12月7日まで

標 茶 町 議 会
第 4 回 定 例 会 議 録

於 標茶町役場議場

令和4年標茶町議会第4回定例会会議録目次

第1号(12月6日)

開会の宣告	3
開議の宣告	3
会議録署名議員の指名	3
会期決定	3
行政報告及び諸般報告	3
施政方針	9
認定第1号 令和3年度標茶町一般会計決算認定について	12
認定第2号 令和3年度標茶町国民健康保険事業事業勘定特別会計決算認定について	12
認定第3号 令和3年度標茶町下水道事業特別会計決算認定について	12
認定第4号 令和3年度標茶町介護保険事業特別会計決算認定について	12
認定第5号 令和3年度標茶町後期高齢者医療特別会計決算認定について	12
認定第6号 令和3年度標茶町簡易水道事業特別会計決算認定について	12
認定第7号 令和3年度標茶町病院事業会計決算認定について	12
認定第8号 令和3年度標茶町上水道事業会計決算認定について	12

(令和3年度標茶町各会計決算審査特別委員会報告)

総務経済委員会所管事務調査報告	12
厚生文教委員会所管事務調査報告	13
標茶町議会議員定数等調査特別委員会調査報告	14
一般質問	15
本多耕平君	16
黒沼俊幸君	22
深見迪君	25
鴻池智子君	36
渡邊定之君	41
櫻井一隆君	46
鈴木裕美君	56
延会の宣告	67

第2号(12月7日)

開議の宣告	71
議案第71号 標茶町個人情報の保護に関する法律施行条例の制定について	71

議案第72号	令和4年度標茶町一般会計補正予算	79
議案第73号	令和4年度標茶町国民健康保険事業事業勘定特別会計補正予算	79
議案第74号	令和4年度標茶町下水道事業特別会計補正予算	79
議案第75号	令和4年度標茶町簡易水道事業特別会計補正予算	79
議案第76号	令和4年度標茶町病院事業会計補正予算	79
議案第77号	教育委員会委員の任命について	85
議員提案第3号	標茶町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について	86
議員提案第4号	標茶町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について	89
意見書案第8号	国の支援を強め、必要な介護を受けられるように制度の改善を求める意見書	90
意見書案第9号	インボイス制度導入の延期（中止）を求める意見書	91
閉会中継続調査の申し出について	（総務経済委員会）	91
閉会中継続調査の申し出について	（厚生文教委員会）	91
閉会中継続調査の申し出について	（広報委員会）	91
閉会中継続調査の申し出について	（議会運営委員会）	91
日程の追加		92
議案第72号	令和4年度標茶町一般会計補正予算	92
議案第73号	令和4年度標茶町国民健康保険事業事業勘定特別会計補正予算	92
議案第74号	令和4年度標茶町下水道事業特別会計補正予算	92
議案第75号	令和4年度標茶町簡易水道事業特別会計補正予算	92
議案第76号	令和4年度標茶町病院事業会計補正予算	92
	（議案第72号・議案第73号・議案第74号・議案第75号・議案第76号審査特別委員会報告）	
閉議の宣告		93
閉会の宣告		93

令和4年標茶町議会第4回定例会会議録

○議事日程（第1号）

令和4年12月6日（火曜日） 午前10時00分開会

- 第 1 会議録署名議員の指名
- 第 2 会期決定
- 第 3 行政報告及び諸般報告
- 第 4 施政方針
- 第 5 認定第1号 令和3年度標茶町一般会計決算認定について
認定第2号 令和3年度標茶町国民健康保険事業事業勘定特別会計決算認定について
認定第3号 令和3年度標茶町下水道事業特別会計決算認定について
認定第4号 令和3年度標茶町介護保険事業特別会計決算認定について
認定第5号 令和3年度標茶町後期高齢者医療特別会計決算認定について
認定第6号 令和3年度標茶町簡易水道事業特別会計決算認定について
認定第7号 令和3年度標茶町病院事業会計決算認定について
認定第8号 令和3年度標茶町上水道事業会計決算認定について
(令和3年度標茶町各会計決算審査特別委員会報告)
- 第 6 総務経済委員会所管事務調査報告
- 第 7 厚生文教委員会所管事務調査報告
- 第 8 標茶町議会議員定数等調査特別委員会調査報告
- 第 9 一般質問

○出席議員（13名）

1番 渡邊定之君	2番 櫻井一隆君
3番 長尾式宮君	4番 松下哲也君
5番 熊谷善行君	6番 鈴木裕美君
7番 齊藤昇一君	8番 深見迪君
9番 本多耕平君	10番 黒沼俊幸君
11番 鴻池智子君	12番 後藤勲君
13番 菊地誠道君	

○欠席議員（0名）

なし

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した人

町 長	佐藤 口彦 君
副 町 長	牛崎 康人 君
総 務 課 長	齊藤 正行 君
企 画 財 政 課 長	長野 大介 君
税 務 課 長	齋藤 和伸 君
管 理 課 長	山崎 浩樹 君
農 林 課 長 兼 農 委 事 務 局 長	村山 尚 君
住 民 課 長	村山 新一 君
保 健 福 祉 課 長	浅野 隆生 君
建 設 課 長	富原 稔 君
観 光 商 工 課 長	三船 英之 君
水 道 課 長	油谷 岳人 君
育 成 牧 場 長	若松 務 君
病 院 事 務 長	伊藤 順司 君
や すら ぎ 園 長	穂刈 武人 君
教 育 課 長	青木 悟 君
教 委 管 理 課 長	常陸 勝敏 君
指 導 室 長	秋山 豊 君
社 会 教 育 課 長 兼 中 央 公 民 館 長	服部 重典 君

○職務のため出席した事務局職員

議 会 事 務 局 長	中 島 吾 朗 君
議 事 係 長	中 嶋 禎 之 君

(議長 菊地誠道君議長席に着く。)

◎開会の宣告

○議長(菊地誠道君) ただいまから、令和4年標茶町議会第4回定例会を開会いたします。
ただいまの出席議員13名であります。

(午前10時00分開会)

◎開議の宣告

○議長(菊地誠道君) 直ちに会議を開きます。

◎会議録署名議員の指名

○議長(菊地誠道君) 日程第1。会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第123条の規定により、

2番・櫻井君、 3番・長尾君、 4番・松下君

を指名いたします。

◎会期決定

○議長(菊地誠道君) 日程第2。会期決定を議題といたします。

お諮りいたします。

本定例会の会期は、本日から12月7日までの2日間といたしたいと思えます。

これに、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(菊地誠道君) ご異議ないものと認めます。

よって、本定例会の会期は、12月7日までの2日間と決定をいたしました。

◎行政報告及び諸般報告

○議長(菊地誠道君) 日程第3。行政報告及び諸般報告を行います。

町長から、行政報告を求めます。

町長・佐藤君。

○町長(佐藤口彦君) (登壇) さきの臨時会から昨日までの一般事務及び行政執行上の経過につきましては、印刷配付のとおりでありますので、それによりご理解をいただきたいと存じます。

なお、次の点について補足いたします。

1点目は、陸上自衛隊と在沖縄米軍による矢臼別演習場における実動訓練の実施につきまして、北海道防衛局から通知がありましたので、その訓練規模並びに対応を含めましてご報告いたします。

本年度につきましては、9月2日に北海道防衛局から訓練実施の通知を受け、その規模な

どは、10月1日から10月14日までの期間、人員は約750名で、航空機を使用したダイブ射撃訓練、人員・物資の輸送訓練を行うもので、自衛隊はAH-1、UH-1、米軍はMV-22、CV-22等が参加して行うという内容でありました。

このことを受けまして、9月12日に北海道知事との連名で、国による十分な説明、安全管理を徹底し、移動や訓練中の事故防止及び規律の維持並びにコロナウイルス感染防止対策の徹底に万全を期し、地域の実情に留意し、道民の生活に不安や支障を与えることがないように北海道防衛局に対し要請書の提出を行いました。また、9月22日には関係4町による矢臼別演習場周辺自治体協議会として、オスプレイを使用した訓練を実施することから、その高い性能による有事の際の軍事活動のほか、大規模災害発生時には被災者救助や物資輸送などへの活用に大きな期待がある一方、開発段階からの事故の発生や故障等の報道、また、騒音振動等に対する住民の不安はいまだに払拭できていない状況にあり、固定化・常態化することは受け入れがたいものですが、訓練を行う場合、安全対策はもちろんのこと、住民生活等に支障を来すことのないよう、次の5項目について要請を行ったところでございます。

1項目目は、訓練内容の公表について、地域の実情に配慮の上、早期に行うこと。

2項目目は、夜間訓練の有無を事前に公表するとともに、詳しい飛行経路の情報提供を行うこと。

3項目目は、訓練に当たって、地域住民の安全・安心の確保を図るとともに、国の責任において徹底した安全対策を講じること。

4項目目は、矢臼別演習場及び計根別場外離着陸場周辺では、多数の酪農家が営農しており、これまでも回転翼機の飛行により、大動物の暴走等が発生し被害が生じていることから、オスプレイの演習場外での低空飛行は行わず、飛行経路についても酪農家等に配慮した経路を選定すること。

5項目目は、計根別場外離着陸場周辺でのオスプレイの飛行は前例のないことであり、周辺住民に与える影響については予測できない状況であることから、国の責任において騒音測定を実施し、その分析等を行うこと。

とする要請を北海道防衛局に対し、行ったところであります。

町としましては、前段の要望活動に加えて、訓練状況の把握や関係機関との連絡調整を図り、住民に対する今回の訓練内容の情報提供についても、町ホームページや新聞折り込み並びに農家ファックスにて行いました。

続きまして2点目は、本町とひがし北海道クレインズとの包括連携協定の締結について、ご報告いたします。

本町とひがし北海道クレインズは、アイスホッケーによるスポーツ活動を通じて、スポーツ活動の振興及び青少年の健全育成を図るとともに、ひがし北海道クレインズへの支援及び応援活動を推進することを目的に包括連携協定を締結いたしました。

ひがし北海道クレインズは、本年1月11日に標茶町アイスホッケー協会が主催したアイスホッケー講習会に監督を初め、選手3名が来町したことがきっかけとなり、本年7月18日～22日の5日間、本町で初めての夏合宿が行われました。

この夏合宿期間には、ひがし北海道クレインズの選手・関係者が講師となり、町内の子供たちを対象としたスポーツ交流会が開催され、また、市街の小・中学校の玄関前において、あいさつ運動が行われたところであります。

また、本年7月には町内の有志により、「ひがし北海道クレインズを応援する会」が立ち上げられ、来年2月にはスペシャルマッチデーとして、本町のPRなども兼ねたイベントも計画されております。

今回締結した、ひがし北海道クレインズとの連携協定につきましては、自治体としては釧路市に次いで2番目、町村では初めてとなり、今後もひがし北海道クレインズと連携して、住民スポーツ活動の振興並びに子供たちの健全な育成に取り組んでまいります。

以上で、今定例会に当たっての行政報告を終わります。

○議長（菊地誠道君） 続いて、教育長から行政報告を求めます。

教育長・青木君。

○教育長（青木 悟君）（登壇） 令和4年第4回定例町議会に当たり、教育委員会が所管する業務につきましては、別紙印刷物をもちまして詳細にご報告しておりますが、以下9点について補足し、ご報告申し上げます。

初めに、塘路中学校の休校措置について報告します。

令和5年度の中学校の在籍生徒数が1名という推移であり、塘路地域振興会、塘路小中学校PTAとも協議を重ね、令和5年度は休校措置をとることを決定したものです。なお、令和6年度以降においては、毎年度生徒数等を踏まえ、地域、PTAとの協議の上決定することとしておりますので、あわせてご報告申し上げます。

2点目は、児童・生徒のいじめの問題に関する状況調査についてであります。

本町は、「いじめはどの地域、どの学校でも起こり得る」という認識のもと、年2回の調査により、きめ細かく実態を把握し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に役立てております。

11月に実施いたしました、今年度第2回目の結果についてご報告いたします。

「4月から調査日までに、いやな思いをしたことがある」と回答した児童生徒は、小学生で約19%（60名）、中学生では約4%（8名）でした。

また、「どんなことをされたか」の問いに対しては、「冷やかしかからかい、悪口」が小・中学校ともに最も多い状況です。

そして、「いやな思いをしたとき誰にも相談しない」と回答した小学生が約7%（22名）、中学生が約11%（21名）となっており、6月の第1回調査と比較すると小学校で若干減少し、中学校はほぼ同程度でした。引き続き、家族や教師、友人、相談窓口など、自分に合った相談方法で、困ったらいつでも相談できることを繰り返し周知してまいります。

「いじめはどんなことがあっても許されないことだと思いますか」の問いに対して、小・中学校ともに90%以上の児童生徒が「そう思う」と回答しており、児童生徒のいじめ問題に対する正しい理解や意識が醸成されていると捉えています。

この調査では、本人が「いやな思いをした」と感じたものは全て取り上げ、指導や相談の

対象としており、調査結果については、全家庭に配布し、家庭と情報を共有してまいります。

今年度も町内の各小中学校では「児童生徒によるいじめ根絶1学校1運動」に取り組むとともに、「標茶町いじめ根絶子ども会議」を各学校の交流の機会として位置づけ、児童生徒による主体的な活動を育てる取り組みを行い、いじめの未然防止・早期発見、早期対応に努めてまいります。

3点目は、令和4年度全国学力・学習状況調査についてであります。

全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に、小学校においては国語、算数、理科、質問紙調査、中学校においては国語、数学、理科、質問紙調査が実施されており、理科は平成30年度以来、4年ぶりの実施でした。

本町の調査結果の概要について申し上げます。

国語と理科は、小学校、中学校ともに全国正答率を上回り、算数・数学は小学校、中学校ともに全国正答率をわずかに下回る結果となりました。

小学校、中学校共通して、どの教科においても「思考力・判断力・表現力」にかかわる設問に対して、高い正答率となっており、町全体として「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が進んでいると捉えております。

次に児童生徒質問紙の結果についてご説明いたします。

自己肯定感の高まりに関係する「自分には良いところがある」との回答が、小学校で約81%、中学校で約86%となっており、2年続けて上昇しております。子供たち一人一人のよさや可能性を見つけ、適切に評価する取り組みを学校が組織的・継続的に行っている成果がうかがえる結果となりました。

さらに、「授業の中でタブレット等のICT機器を週に1回以上活用している」との回答が、小学生・中学生ともに約92%となっており、一人一台端末が日常的に授業に取り入れられ、児童生徒の学力向上のために効果的に活用されていることが明らかになりました。

以上、結果概要についてご報告いたしました。この調査において測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつ、課題について真摯に向き合い、児童生徒の学力向上に向けて改善を図ることが肝要だと考えております。

なお、今後実施予定の町独自の学力調査を含め、調査結果で明らかになった本町の傾向や課題をもとに、学力向上プランを作成し、「確かな学力」を育むための取り組みを推進してまいります。

4点目は、第50回の記念大会である標茶町駅伝競走大会の開催についてであります。

9月18日、参加18チーム、選手147名の参加により第50回標茶町駅伝競走大会が開催されました。町外からも4チームが参加し、区間新記録が出るなど力走が繰り広げられました。

また、ゴール手前の町道常盤・開運公園通りの一部を通行どめにさせていただいたことで、車道を走行してのゴールとなり、選手と観戦する住民が一体となった様子が大会を盛り上げたところでありました。

5点目は、標茶町スポーツ表彰についてであります。

令和4年度標茶町スポーツ表彰式を、11月3日、令和4年度標茶町総合表彰式の中で行い

ました。

この表彰は、令和3年度にスポーツ大会等で優秀な成績を収めた方やスポーツの振興に寄与された方に対し、表彰するもので、本年度の被表彰者は、3団体6個人であります。

「全国、全道大会において優秀な成績を収めたもの」に対する被表彰者として、第55回北海道社会人卓球選手権大会、2021年北海道卓球選手権大会（マスターズの部サーティ）男子シングルスにおいて第3位となりました浅野勇人さん。第55回北海道社会人卓球選手権大会、2021年北海道卓球選手権大会（マスターズの部サーティ）女子シングルスにおいて優勝されました土屋有貴さん。第30回北海道ジュニア空手道選手権大会、高校女子組手において優勝、高校女子形において第3位となりました標茶高等学校3年渡邊穂乃香さん。第52回北海道中学校スケート大会男子500メートルにおいて第4位、男子1,000メートルにおいて第7位、第42回全国中学校スケート大会男子500メートルにおいて第5位となりました白樺学園高等学校1年の加藤礼門さん。第52回北海道中学校スケート大会女子500メートルにおいて第6位、女子1,000メートルにおいて第6位、第42回全国中学校スケート大会女子500メートルにおいて第6位、女子1,000メートルにおいて第5位となりました虹別中学校2年の加藤夕李さん。第49回北海道中学校柔道大会女子63キロ級において第3位となりました標茶中学校3年浦川雪菜さん。第49回北海道中学校柔道大会女子団体において第3位、第28回横井七之助旗争奪北海道中学校新人団体優勝大会女子団体において優勝されました標茶中学校2年柳田真緒さん、3年浦川雪菜さん、3年矢島優芽さん。第51回北海道中学校バレーボール大会男子において第3位となりました釧路広域クラブ、標茶中学校3年加藤大雅さん、標茶中学校3年筒渕凌空さん。高松宮賜杯第65回全日本軟式野球（1部）北北海道大会において準優勝されましたM's（エムズ）サポート華月倶楽部アクトさん。

今回、受賞された皆さんが、今後もさらに精進され活躍されることを期待するものです。

6点目は、令和4年度標茶町文化講演会についてであります。

この事業は、町内の有志による実行委員会の主催で、11月6日に、標茶町コンベンションホールういずにおいて開催されました。

講師には医師で作家でもある鎌田 實氏を招き、「“がんばらない”けど“あきらめない”～命を支えるということ」と題して、健康であることの大切さ、95歳になっても毎日温泉に通えるよう、貯金より貯筋、お金より筋肉が大切であることなど、貴重な講演をいただき、会場に訪れた皆さんの心に響く講演会となりました。

また、講演終了後には、標茶町酪農振興会による牛乳消費拡大運動として、しべちゃ牛乳1リットルの無料配布が行われ、来場者に喜ばれたところであります。

7点目は、第41回標茶町少年の主張大会についてであります。

この事業につきましては、次代を担う児童生徒の健全な育成を図るとともに、日常生活での体験や見聞を通して、日ごろ考えていることについて主張していただくことを目的に実施しているものであります。

今年度については、昨年度同様、新型コロナウイルスの影響により「小学生の部」を中止し、「中学生の部」のみの実施といたしましたが、関係機関、団体の協力を得て11月12日に

標茶町コンベンションホールういずにおいて、保護者、教職員、応援の児童生徒ら約50名の来場をいただき開催いたしました。また、今年度も大会運営の一部を標茶高校生徒会の皆さんに委ね、好評をいただいたところです。

発表者については、中学生の部、3校4名により行われ、最優秀賞には、標茶中学校2年の中井緋椰さん、論題は「普通」が選ばれました。

最優秀賞の中井さんには、来年行われる釧路総合振興局地区大会に標茶町代表として出場していただくこととなります。今回出場された皆さんの今後の健闘を期待するところです。

8点目は、児童生徒が全道・全国大会において、好成績を収めましたので、ご報告いたします。

9月10日に札幌市で開催された、なの花薬局カップ第41回北海道小学生バドミントン大会6年生以下男子シングルスにおいて、塘路小学校6年鷺見元春さんが第5位入賞と健闘いたしました。

10月2日に深川市で開催された、第21回北海道小学生地区対抗バドミントン選手権大会兼第31回全国小学生バドミントン選手権大会北北海道地区予選会団体の部に、釧路地区メンバーとして同じく塘路小学校6年鷺見元春さんが出場し、準優勝となりました。

11月12日に岩見沢市で開催された、ショパン国際ピアノコンクール I N A S I A北海道地区大会において、塘路小学校4年佐瀬優斗さんが銀賞を受賞され、1月5日に神奈川県で開催される全国大会出場を決めました。また、11月13日に旭川市で開催されたブルグミュラーコンクール地区大会において、優秀賞を受賞され、12月4日に札幌市で開催される札幌ファイナルへの出場を決めました。

9点目は、標茶町図書館への図書寄贈であります。

標茶町古本市の会から児童図書27冊（8万8,480円相当）の寄贈をいただきました。

この会は昭和59年より古本市を開催して、その益金で図書館に図書寄贈をしていただいております。子供たちの読書推進を願っての寄附であります。今年で累計1,564冊（総額266万円相当）となりました。

心より感謝の意を表すものであります。

以上で、今定例会に当たっての教育行政報告を終わります。

○議長（菊地誠道君） ただいまの口頭による行政報告に対して、簡易な質疑を認めます。ご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） なければ、次に議長から諸般報告を行います。

諸般の報告は、印刷配付のとおりであります。

以上で、行政報告及び諸般報告を終わります。

休憩いたします。

休憩 午前10時25分

再開 午前10時26分

○議長（菊地誠道君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

◎施政方針

○議長（菊地誠道君） 日程第4。施政方針を行います。

町長から町政執行方針を求めます。

町長・佐藤君。

○町長（佐藤口彦君）（登壇） 令和4年標茶町議会第4回定例会の開催に当たり、町政運営の所信を申し述べ、議員各位を初め、町民の皆さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

はじめに

10月2日に行われました標茶町長選挙におきまして、町民の皆様を初め多くの方々のご支援と心温まるご厚情を賜り、引き続き町政を担わせていただくことになりました。ここに、心から感謝を申し上げますとともに、その使命と責任の重さを改めて痛感しているところであります。

1期目を振り返りますと、いまだ収束に至らない新型コロナウイルス感染症や、ヒグマによる家畜被害など、多くの期間をその対応に奔走してきた状況の中で「しべちやの未来へ、まち・ひと・役場の元気をとりもどそう！！」をテーマに、各種施策の実現に向けて全力で取り組んでまいりました。特に子育て環境の充実に力を注ぎ、大学生までの医療費の無料化を実現しました。保育料の無料化も国に先行して、令和元年4月から全面無料化を導入しました。教育施設の整備にも力を入れ、標茶中学校の改築、給食共同調理場の改築など、教育環境の充実に取り組んでまいりました。また、茅沼温泉宿泊施設の改修にも筋道をつけ、ふるさと納税も開始しました。私はこれまで、10年先、20年先を見据えて、持続して発展するまちをつくり上げることに全力で取り組んでまいりました。この2期目におきましても、元気なまちであり続けるために、引き続き先頭に立って、全力で取り組む所存であります。

自治体を取り巻く環境

今もなお、世界的に猛威を振っている新型コロナウイルス感染症、世界秩序の根幹を揺るがすロシアのウクライナ侵攻、円安などによるエネルギーや食料品を初めとするさまざまな物価高騰など、酪農を初めとする生産現場や町民生活のあらゆる場面においても大きな影響を受けています。

こうした中、岸田首相は経済再生には、新しい資本主義の旗印のもとで「物価高・円安への影響」「構造的な賃上げ」「成長のための投資と改革」の3つを重点分野として取り組んでいくと述べていますが、私たちのまちで経済の再生が実感できる日が果たしていつになるのかわからない状況で、収入の多くを地方交付税や国庫補助金に依存せざるを得ない現行の地方財政制度の中で、今後も引き続き厳しい財政運営が予想されます。

近年、世界各地で深刻な自然災害が頻発しています。その大きな要因として、地球温暖化が指摘されています。国は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボ

ンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。このような状況から、本町においても今年3月にゼロカーボンシティ宣言をし、脱炭素化や再生可能エネルギーの活用などを考慮したまちづくりを進めてまいります。また、安全で安心なまちづくりを実現するために、町内会・地域会との連携を強化し、防災・減災対策に努めてまいります。

主要な施策等

このような中、私は、これからの新たな4年間に標茶町総合計画の基本目標である「みんないきいき みんなでつくる ～自然とともに生きるまち しべちゃ～」の実現のため、次の3点を基本方針として町政を推進いたします。

I 町民が主役の、公平でわかりやすい行政を推進します。

II 環境循環型の、元気なまちづくりをめざします。

III 元気で創造性豊かな標茶人を育むまちづくりをめざします。

さらに、次の5つを大きな柱としてまちづくりに取り組んでいく所存です。

1. 元気な、交流ステージ標茶へ

令和元年6月から始めた、地元特産品を返礼品として送るふるさと納税については、まだまだ伸びしろがあると思っていますので、引き続き積極的な活用を図るとともに、返礼品となる新たな特産品開発の支援制度を創設します。ふるさと納税は単に寄附を集めるだけのツールではなく、本町の魅力を全国各地の方々に知ってもらい、一人でも多くのファンを獲得するなど知名度アップを図ります。これまでもふるさと納税の返礼品を通じて地元特産品の魅力を全国に発信してきましたが、特産品を地元で直売する場所がない、地元の特産品を購入できる場所がないという声もあることから、(仮称)ではありますが、物産センターの開設を目指し、将来の道の駅につなげる拠点整備を引き続き検討いたします。現在、本町では2名の地域おこし協力隊の方に本町の観光・魅力発信などを行っていただいておりますが、さらに積極的に活用し、外部からの人材導入による新たな地域資源の発掘を図り、起業化、商品化、イベントの支援などを通じ地域振興を推進します。人口減少対策として移住政策を継続して強化し、塘路地区に移住者向けの住宅地の整備を検討します。釧路市からの通勤圏であると同時に、釧路湿原国立公園に隣接する地域であり、大自然の中で生活や子育てを希望する人を全国から誘致します。また、タウンプロモーションを充実して、まちの魅力発信を行います。

2. 環境に配慮した、元気な産業の創造をめざして

標茶は酪農・畜産が基幹産業のまちであります。これまで以上に、経済団体のJAしべちゃ、森林組合、塘路漁業協同組合との連携強化により酪農、畜産、林業、水産業の振興を図るとともに、これらを下支えする商工会とも連携し、元気な産業の創造を図りたいと考えております。本町の酪農家が生産された良質な生乳からつくられる、しべちゃ牛乳の生産拠点を整備するため、ミルクプラントの建設について議論されてきましたが、酪農の生産に必要な飼料、肥料、燃料などの高騰や新型コロナの影響による生乳の生産調整などにより、少し遅れることとなっていますが、ミルクプラントの建設する環境が整ったときにはしっかりと支援したいと考えています。本町では大規模な酪農家が増える中で、スタンダードとなっ

ている大型農業機械に対応する町道の改良、農地の均平を検討します。流域全体の環境保全が急務であります、バイオガспラントの整備促進を図ります。育成牧場の羊の飼育については、既に地元の人気ブランドとしてふるさと納税の返礼品を中心に好評を博していますが、さらに安定して増産し、供給できるよう体制の強化を進めます。安全安心な牛づくりを進めるためには家畜の疾病対策が重要であります。そのために、家畜検査センターを本町に設立するための支援を行います。町内の豊かな森林資源については、地球温暖化を防ぐため、CO₂吸収量の最大限確保に向け、森林施業を推進し林業振興を図ります。また、森林資源の持つ水源涵養や流入河川の保全、漁場の再生などにより、塘路湖など内水面の漁場環境を保全し、ワカサギなどの水産資源の安定的な確保を図り、ブランド化を推進します。新たな地元特産品の商品化などの開発・研究に支援を充実します。茅沼地区宿泊施設等の整備を推進するとともに、観光振興策との連携を深め、JR釧網線の路線維持に努めます。

3. 未来を切り開く、元気な子どもたちのために

子供は、将来の標茶を担う大切な宝であります。その子供たちを育てるための経済的負担をさらに軽減するため、小中学校の給食費の無料化を実施いたします。本町の基幹産業であります酪農・畜産などの理解や将来にわたり自然環境を守り育てるため、ふるさと教育、食育教育、環境教育を推進します。また、地域全体で子供たちを育てるという視点に立ち、幼稚園・保育園・小中学校・高校の一貫した連携強化を図り、質の高い教育環境づくりに努めてまいります。今年7月に本町全てのエリアで光回線網が整備されましたが、その回線を有効に活用し、ICT環境整備を行い情報化教育の推進を行います。

4. 安全、安心な暮らしを守る

人口減少と少子高齢化が同時進行する中で、安全・安心な暮らしを守ることは喫緊の課題であります。老朽化しているみどり保育園の改築を進めます。安心して暮らせる環境づくりの一つとして合葬墓を建立いたします。町立病院ややすらぎ園は、将来人口や今後の高齢者の推移を見ながら、改修について総合的に検討してまいります。障がいがあっても、地元で安心して働き、暮らせるよう、社会参加の機会や就労支援の充実に取り組んでまいります。高齢化社会に対応した交通体系を継続して検討していくとともに、町内会・地域会単位での高齢者のサロンなど居場所づくり、利用者の視点に立ったサービスについて検討してまいります。本町においても台風や季節外れの降雨と融雪への対策が喫緊の課題であるため、内水対策を強化いたします。

5. 町民が主役の、元気な行政をめざします

行政の拠点施設である役場庁舎について老朽化が進んでいることから、町民開放型でコンパクトな役場庁舎の建設を検討します。町内全てのエリアで整備された光回線網を生かした産業の支援や町民生活の向上を目指す視点から研究を進めます。人口減少、少子高齢化の影響により残念ながら廃校となっている施設が複数ありますが、それらの利活用、とりわけ旧阿歴内小中学校について、公民館などの複合的な施設利用について検討いたします。

むすび

以上、2期目の町政運営に当たり、基本的な考えを述べさせていただきましたが、町議会

を初め、町内会・地域会、J A、商工会、町社協など諸機関、諸団体との連携を一層密にし、職員と一丸となって、お互いを尊重し思いやりに満ちた、自由闊達な議論の起こる、風通しのよいまちづくりに全力を傾注してまいる所存であります。

町民の皆様、議員の皆さんのご支援、ご協力を切にお願い申し上げ、2期目の町政運営に当たっての所信表明とさせていただきます。

○議長（菊地誠道君） 以上で、施政方針を終わります。

◎認定第1号ないし認定第8号

○議長（菊地誠道君） 日程第5。認定第1号、認定第2号、認定第3号、認定第4号、認定第5号、認定第6号、認定第7号、認定第8号を一括議題といたします。

お諮りいたします。

認定8案に関し、付託いたしました、令和3年度標茶町各会計決算審査特別委員会委員長から会議規則第75条の規定により、審査報告書が提出されております。

会議規則第39条第3項の規定により委員長の報告を省略いたしたいと思っております。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） ご異議ないものと認めます。

よって、委員長の報告は省略することに決定いたしました。

これより委員長報告に対する質疑を行います。

ご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 質疑はないものと認めます。

質疑は終結いたしました。

これより討論を行います。

討論ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 討論はないものと認めます。

これより認定8案を採決いたします。

認定8案に対する委員長報告は、いずれも認定すべきものであります。

認定8案を委員長報告のとおり、決定してご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） ご異議ないものと認めます。

よって、認定第1号、認定第2号、認定第3号、認定第4号、認定第5号、認定第6号、認定第7号、認定第8号は、委員長報告のとおりいずれも認定されました。

◎総務経済委員会所管事務調査報告

○議長（菊地誠道君） 日程第6。総務経済委員会所管事務調査報告を行います。

本件に関し、委員長の報告を求めます。

総務経済委員会委員長・松下君。

○総務経済委員会委員長（松下哲也君）（登壇） 総務経済委員会所管事務調査報告書について。

本委員会は、所管の事務調査を下記のとおり終了したので、標茶町議会会議規則第75条の規定により報告いたします。

調査事項については「町内主要観光施設の現状等について」であります。

調査日時は令和4年11月11日、調査場所は標茶町役場議員室、塘路・茅沼地区であります。調査事項、町内主要観光施設の現状等について。出席者につきましては記載のとおりであります。

調査の経過及び内容については、提示された資料の説明を受け、質疑の後、サルボ・サルルン展望台、茅沼地区の蝶の森の視察を行いました。

主な説明内容、主な質問については、記載のとおりであります。

委員会の所見

観光施設の維持管理については、年間1,230万円で各委託業者に委託して管理されております。観光客の入込状況はコロナ禍の中で落ち込んでいるのは事実ではあるが、野外活動に関しては落ち込みはなく横ばいを維持しております。イベント・PR活動では釧路総合振興局を初め町村会、町、観光協会、各実行委員会等、数多く開催されていることに対して敬意を表します。また、各情報誌、インターネットを活用して情報提供もされております。

特に地域おこし協力隊によるY o u T u b e への投稿は36本を数え、登録者数が1,100人を超えたことは評価すべきものであり、今後の活動に大いに期待したいと思えます。今後、多くの観光客に本町を訪れていただくために、案内表示板の整備など、親切な対応と安全確保上の老朽化箇所の整備、自然環境に配慮し、それを生かした施策を行うことを期待したい。

サルルン展望台については、北海道の事業により安全対策上の整備が行われたが、サルボ展望台は老朽化が進んでいる。改修に向けた検討を進めるべきと考えます。

蝶の森については、非常に環境にすぐれたところであると認識しております。現在閉鎖中の茅沼キャンプ場の関係も含め、キャンプのスタイル、運営の方法、湿原特有の蚊の対策等、議論、検討を重ねていくべきと考えます。

以上をもって、総務経済委員会の所管事務調査の報告を終了いたします。

○議長（菊地誠道君） これより委員長報告に対する質疑を行います。

ご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、質疑を終結いたします。

以上で、総務経済委員会所管事務調査報告を終了いたします。

◎厚生文教委員会所管事務調査報告

○議長（菊地誠道君） 日程第7。厚生文教委員会所管事務調査報告を行います。

本件に関し、委員長の報告を求めます。

厚生文教委員会委員長・深見君。

○厚生文教委員会委員長（深見 迪君）（登壇） 厚生文教委員会所管事務調査報告を行います。

本委員会は、所管の事務調査を下記のとおり終了したので、標茶町議会会議規則第75条の規定により報告します。

厚生文教委員会所管事務調査報告

調査日時は令和4年11月1日午前10時から、調査場所、標茶町役場議員室で行いました。出席者はここに書いてあるとおりであります。調査事項は「小中学校の現状と今後の課題について」でありました。

主な資料説明が8点にわたってありました。その中で塘路中学校において、数学と英語を免許教科外申請したという報告、それから学校教育上の問題について、教職員不足について欠員、代替職員の補充ができない状況にあるという実態も報告されました。質疑応答の中では、教職員は全体的に少ない実態にあるのかという質問に対して、全道、管内とも相対的に教員不足で、年度途中、欠員が生じた場合の補充ができないという問題が生じているということが答えられました。また、働き方改革により、部活動の地域移行の状況はどうなっているかとの質問に対しては、令和5年から7年の3年間で実施することになっているが、今年中に協議会の設立に向け準備を進め、課題を調査し、協議会の中で協議していくとの説明がありました。

委員会の所見としましては、

- ・学習用具の軽量化については、さらに十分な配慮をするべきである。
- ・デジタル教科書の導入による健康被害に十分配慮し、過度の使用がないよう、また、紙の教科書のメリットも活かした教科書の在り方に配慮すべきである。
- ・免許外教科担任の解消と、教職員の過重労働解消についてさらなる努力を期待する。
- ・何よりも児童、生徒が健康で安全に教育が受けられる環境づくりに一層の努力を期待する。

以上が委員会の所見であります。

以上で、厚生文教委員会の報告を終わります。

○議長（菊地誠道君） これより委員長報告に対する質疑を行います。

ご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、質疑を終結いたします。

以上で、厚生文教委員会所管事務調査報告を終了いたします。

◎標茶町議会議員定数等調査特別委員会調査報告

○議長（菊地誠道君） 日程第8。標茶町議会議員定数等調査特別委員会報告を行います。

本件に関し、委員長の報告を求めます。

標茶町議会議員定数等調査特別委員会委員長・後藤君。

○標茶町議会議員定数等調査特別委員会委員長（後藤 勲君）（登壇） 特別委員会調査報告について。本特別委員会は、下記調査事項について調査を終了したので、標茶町議会会議規則第75条の規定により報告します。

調査事項は「標茶町議会議員定数等に関する調査」であります。

次ページ報告書へまいります。

標茶町議会議員定数等調査特別委員会報告書

1 調査事件、2 調査の経過につきましては、下記のとおりであります。

3 調査の結果であります。本委員会は、主に議員定数と報酬について、3回にわたって委員会を開催し検討を重ねてきました。

議会議員定数につきましては、能率的で効率的な議会機能の維持、町民の負託に応える体制のあり方など、議員の責務を執行するに当たり、適正な定数について議論を重ね意見集約にも努めたが、本町人口減少が続く中、定数減を望む町民の声は多く、そのことは民意であると受けとめるべきとの意見が大勢を占め、結果、1名減の定数12名との結論に至りました。

その中では、町民にもっと説明が必要ではないのか、また、時期尚早ではないかという意見もありました。そしてまた、来年度に任せたいのではないかという意見もありました。我々がやっぱり、今の時代で決めなければならないだろうというような意見に達したわけです。

また、報酬については、報酬増額や現状維持などの意見が出されましたが、地方議会議員の社会保障制度の充実や、兼業禁止などの規制緩和なども検討、研究が必要ではとの意見が出され、協議の結果、精査の要ありと認められ、結論を出すまでに至りませんでした。

この中では、報酬を1万円ぐらい上げてもいいのではないかというような話も出ました。また、教科書みたいなすばらしい、報酬に関係ないからいいのではないかと、こういうような意見も出ました。

以上で、標茶町議会議員定数等調査特別委員会報告を終わります。

以上です。

○議長（菊地誠道君） これより委員長報告に対する質疑を行います。

ご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 質疑はないものと認めます。

これをもって、質疑を終結いたします。

以上で、標茶町議会議員定数等調査特別委員会報告を終了いたします。

◎一般質問

○議長（菊地誠道君） 日程第9。一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

本多君。

○9番（本多耕平君）（発言席） それでは、私は、ふるさと納税持続向上を目指す政策を構築すべきという主題をもって、なるべく通告に沿って町長の所見を伺いたいと思います。

ふるさとを離れた方あるいは第2、第3のふるさとを求める方が標茶の振興と発展を願い、みずからの一助として納税を寄附金として行っているものと、私は理解をしております。少子高齢化、事業者の本町からの撤退、離農者の拡大あるいは国の交付金の減税などさまざまな要因の中で、本町財政が厳しいにもかかわらず、町民理解のもと、官民一体となり町の発展に努力されております。

佐藤町政も2期目に入り、重点政策として5項目の主な政策があります。その中で私は、今回ふるさと納税のあり方について検証し、そして総括をし、次年度からの持続性を持った向上できる政策を構築することを、受け身のまちづくりではなく躍動的な攻めの行政、まちづくりの要となることを確信し、次の点について町長の所見を伺います。

過去5年間の年度ごとの寄附金は、幾らになっているでしょうか。

本町の返礼品は、何種類あるのでしょうか。

その中で返礼品のベストファイブは何でしょうか。

令和3年度でよろしゅうございますが、各月ごとの寄附件数はどのくらいになっているでしょうか。

また、返礼品事業者との細やかな打ち合わせを、あるいはまた会議を開催しておりますか。

さらに、直接返礼品とは現段階では位置しておりませんが、ペットフード向け肉事業者が本町から撤退した理由は何でしょうか。

以上の点について、前段でお伺いをしたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 4番、本多議員のふるさと納税維持向上を目指す政策を構築すべきのご質問にお答えいたします。

本町におけるふるさと納税は、平成30年9月から「馬と共に暮らせる町…標茶」事業に対するガバメントクラウドファンディングを利用したふるさと納税を開始したのが始まりで、当初は本町におけるアクティビティを利用するという返礼品で、12品目から始まり、令和元年6月からは特産品を利用した一般的なふるさと納税を始め、現在5年目となっております。

お尋ねの1点目の過去5年の年度ごとの寄附額は幾らかについてですが、平成30年度が400万5,000円、令和元年度が2,182万円、令和2年度が1億1,355万円、令和3年度が1億6,356万6,000円、令和4年度は年度途中ですので、11月末までの集計となりますが、現時点で1億750万9,000円となっております。前年度の11月末までの集計と比較しますと、128%の伸び率、金額で2,366万9,000円の増加となっております。

2点目の町の返礼品は何種類かという質問ですが、現在184品目となっております。

3点目の返礼品のベストファイブは何かですが、牛肉製品、木製品、羊肉製品、チーズ、宿泊券となっております。

4点目の令和3年度の各月ごとの寄附件数についてですが、4月322件、5月292件、6月463件、7月572件、8月408件、9月591件、10月601件、11月480件、12月3,424件、1月172件、2月178件、3月229件となっております。

5点目の返礼品事業者との細やかな打ち合わせ会議などを行っているかとお尋ねですが、年度初めには、事業者全体を対象とした打ち合わせ会を行っているほか、事業者訪問なども定期的に行っております。ふるさと納税の事業については、ふるさと納税ポータルサイトの運営などを委託しております中間事業者と町が連携をしながら、在庫の確認や価格の調整などの確認も行っております。

6点目のペットフード向け肉事業者が本町から撤退した理由は何かにつきましては、まずはふるさと納税の返礼品としては、これまでもペットフードの取り扱いはしていないことを前提にお答えをいたします。有害駆除対策において獲得したエゾシカを地域資源として最大限活用していくことを目的として、平成26年度からペットフード向けエゾシカ肉加工事業者に本町及び北海道猟友会標茶支部において売り払いを行っていたものであり、これまでおよそ1,500頭分のエゾシカ肉を有効に活用しておりましたが、事業者より令和4年度以降ペットフード向けエゾシカ肉加工事業を中止するとのお話を受け、現在に至っているところであります。事業中止の理由としましては、エゾシカ肉加工施設の賃借料や、肉以外の不要部位の他市町村における処分料金の負担が大きいことのほか、担い手の不足などにより事業の継続が難しくなったことが理由と伺っておりますので、ご理解を願います。

すみません。先ほど月ごとの寄附件数なのですが、11月を480件と、私、報告いたしましたのが、実際には1,480件の誤りだということで、訂正させていただきます。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

本多君。

○9番（本多耕平君） 私は、前段で持続可能な、あるいはまた向上できるような、ふるさと納税の確たるものという意味で質問いたしました。その中で、6項目についてお伺いいたしましたけれども、これは、これから私が町長にお伺いする、いわゆる基礎となる数字ということで捉えていただきたいと思うのです。

まず、返礼品というあり方、これはまた以前から本会議においてもいろいろ賛否両論がございました。しかしながら、私申し上げましたように、今は管内的にも、あるいはまた全国でも、このふるさと納税に対する考え方、思いというのは、初段階よりもかなり変わってきているのではないかと、私、実は思っております。

いずれにいたしましても、本町においても佐藤町政が始まって5年目に入るわけですがけれども、それからいろいろなふるさと納税のあり方ということで、今、年度ごとの寄附金額を提示していただいたわけですが、年々納税者の理解、あるいはまた、ふるさとを離れた人たちがふるさとへの郷愁、あるいはさらにまた第2、第3のふるさとを求め、いろんなことでの納税者の気持ちがあるかと思うのですけれども、ここで、実は私も本町のこの取り扱いについての要綱を先般、企画のほうよりいただきました。「寄附者は、自らの寄附金を町長が次に定める事業のうち何れに充てるかをあらかじめ指定できる」というふう

に実は書いてございました。確かに寄附なさる方々が、標茶のために何に使っていただきたい、あるいはまた、どのように使っていただいているのかということが、はっきり申し上げまして、実は私も不勉強でありまして、ふるさと納税が5年たちますけれども、このようなペースでもって理解を得てきているのかなということを改めて思いましたし、あるいは納税者の方々が改めて自分たちのまちづくりへの思いを寄附行為にしたことが、本当にどのように使われているのだろうか、それに答えるのがやっぱり行政でないかと思うのです。その中で、返礼品というのは、納税者に対してあなた方の寄附行為がこのように使われて、さらにまた、このように町が充実し発展しているのですよという一つのあかしということに私は理解したいのです。寄附された方、納税された方々が、自分たちの一助が、このような返礼品というのは、事業の充実ですとか町の発展に使われているのだ、そのあかしとして私は、返礼品を素直な気持ちでもって納税者に届けるというのが一つの役目というふうに思っております。

さらにまた、私が申し上げたいことは、2点目ですけれども、先ほども申したかと思うのですけれども、納税者を私は待つのではなくて、やっぱり攻める、どうすれば国民に、あるいは町民に、あるいはまた寄附していただける方々に理解を得られるかという、町としての取り組みが果たしてこれでいいのだろうかということで、2点目、3点目に、項目ごとに出しておりますけれども、いわゆる事業者との連携が密にとれているのかどうか、そんな体制が、町長、事実とられているのか。

さらにはまた、いま一度繰り返しますけれども、返礼品の中ででも月ごとに変わっていますね。例えば4月から3月まで返礼の数にいたしましても、あるいはまた納税される方々についても、かなり12月あるいはまた11月に集中しているというようなことから、その辺のふるさと納税に対する寄附者の、どの程度理解をされているのか。

あるいはまた、繰り返しますけれども、先ほど申した返礼品のベストファイブは幾らというふうに聞いたのですけれども、そのベストファイブの例えば課長、昨年3年度でもいいのですけれども、ベストファイブでも牛肉、木工製品あるいはまた乳製品等々ありますけれども、その金額がどのくらいになっているのか、通告にないのですけれども、もしお手元であれば、ちょっとお知らせ願いたいのですが。

○議長（菊地誠道君） 企画財政課長・長野君。

○企画財政課長（長野大介君） お答えしたいと思います。

まず、1点目の寄附いただいた方からの目的ですね。先ほど議員、寄附記念品贈呈事業取扱要綱第3条でいずれに充てるかをあらかじめ指定できるというようなお話だったのですけれども、今年、令和4年度事業で活用した事業について、まずはお示しさせていただきたいと思うのですけれども、令和4年度事業で活用させていただいております事業につきましては、1つは「馬と共に暮らせる町…標茶」に対して寄附いただいた方の部分については、引退預託馬の支援と、この事業全般的に1,381万1,000円活用させていただいております。そして、もう一つが「子どもたちの教育環境の充実のために」ということで、教育関連事業ということで、ふるさと教育推進事業と特別支援教育推進事業合わせて696万6,000円活用させて

いただいております。もう一点が「将来を担う次世代の育成に」ということで、子育て応援チケット事業と、ブックスタート事業合わせて201万9,000円活用しております。そして、「関係人口や交流人口の拡大に」ということで、標茶町のPR事業ということで36万4,000円活用させていただいております。続いて、「基幹産業の発展に」ということで、学校給食牛乳供給支援事業、消費拡大ですね。それと新規就農者支援事業合わせて154万8,000円活用させていただいております。続きまして、「安全安心な暮らしのために」ということで、AED設置事業等で163万9,000円活用させていただいております。それと、「指定しない」部分につきましては、茅沼地区の観光宿泊施設改修事業で610万円活用させていただいております。残りの部分は、令和2年度にいただいた寄附金の部分については、基金の部分で残しているような状況でございます。

続きまして、事業者との連携の部分になりますけれども、先ほど町長からもお答えいただいた部分で、年度初めにまずは事業者全体を対象にした打ち合わせ会をやっております。スケジュール的にも合わない方とか結構いらっしゃいますので、その方は別途1件ずつ、中間事業者さんと一緒にうちの担当のほうで訪問させていただいております。それとともに随時定期的に電話だとか、あるいは直接対応してというようなところで連携を持ってやっていると、特に在庫の確認だとか、商品の発送時期だとか遅れるようなことがあれば、随時ふるさと納税のサイトのほうに発送時期とかを明示するような関係もございまして、そういったところでそういった確認というのを、特に気を遣ってやっているような状況でございます。

それと、月ごとの数が年末に集中しているというような状況でございますが、昨年で言うと、令和3年度は12月に1年間の4割ということで、本町の部分、11月と12月の2か月で6割弱が集中しているような状況でございます。令和2年度は全体的に金額が少し少なかったものですから、11月、12月の2か月に7割弱が集中しているような状況でございます。これは全国的にも同様の傾向でございます。

というのが、やっぱりふるさと納税というのは、寄附金額に応じて所得税、住民税の控除を受けられるということなのでございますけれども、控除できる寄附金額というのは上限額がございまして、年間の上限というのが寄附を行う人の1月から12月の所得の金額によって変わるといったような状況ですので、その所得というのが12月に確定するというところで年末に集中するということと、あとは駆け込みで入れる、納税をされる方がすごく多いということもございまして、そういった部分についてはやはり日本全体的にもうそういった傾向でございまして、寄附をいただく機会が年末に集中するというところで、その機会を逃さずにどのように商品を平準化するかということが、今、取り組んでいるところでございますけれども、一つ寄附サイトに発送時期の明示を行うということで、先ほど事業者訪問だとかということで、細やかな対応をしていきたいというふうにしてやってございます。

それと、もう一つは、返礼品を定期便というようなことで、1年間何回かに分けて発送するというようなことで、分散するというような取り組みもやっているところもあります。そういった部分でどうしても年末に集中する、だけれどもその機会を逃さないというためには、

やっぱりそういった形で今後もさらに細やかな部分で事業者訪問などを定期的に行っていき
たいなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（菊地誠道君） 本多君。

○9番（本多耕平君） 総括的な答弁だったり、あるいはまた質問だったりいたしますので、
先に話を私もう少し戻したいと思いますが、本論に入りたいと、これから本文に入りたいと
思うのですけれども、今、課長のほうから、より具体的な説明がございました。それを受け
て、私は次の点について町長にお伺いいたしたいと思うのです。

先ほど町長の施政方針の中でも、特に元気な交流ステージのまちへという、3ページでお
話をなされました。その中でも目立つことは、いわゆる道の駅というのはハードルが高い、
したがって物産センター的なものをつくりたいのだということと、実は私は、このふるさと
納税の関係も含めて、いま一度検討していただきたいことは、返礼品の中で5項目というの
が挙げられましたけれども、その中には残念ながら鹿肉が入っていなかったのもちょっと意
外だったのですけれども、実は鹿肉業者あるいはまたチーズの方々との、私、実は話もして
まいりましたし、彼たちの苦しみなり、あるいは何で事業から撤退したかというようなこと
も実は聞いてまいりました。

その中で特に私は、鹿肉の場合、先ほどペットフードの問題もちょっと出しましたけれど
も、年間で本町では2,500頭強のいわゆる有害駆除がなされております。その有効活用という
のは、なかなか厳しいもので、全体的には自家消費、さらには埋没、さらには焼却処分とい
う程度でもって、本当に2,500頭強の肉が、あるいはまた鹿が有効活用されていなかったり
ということが非常に残念なわけで、ペットフードに向けた業者との関連も期待していたわけ
ですけれども、撤退をしたということで、これも含めて、私、実は何で鹿肉の事業者が撤退し
たかということについてお話を伺いましたところ、先ほど課長のお話にもありましたように、
一気に集中してしまうと。したがって、その中ではとても処理できないのだ。したがって、
この件については私も年だし、何らかの方法を考えれば、まだ私たちの知恵なり技術は提供
できるのだということを実はお聞きいたしました。

そこで、町長に1つ提案したいのですが、特産品の物産センターをつくりたいということ
も含めて、返礼品の鹿肉の有効活用ということも鑑みるときに、いわゆる公設での加工場は
つくれないものかというよりも、ぜひつくっていただきたい。持続的向上ということを私は
そこで求めるのです。民間だけに任せておくのではなくて、一番最初に申しあげましたよう
に、持続的に向上するのはやはり行政として攻める施策が必要だということから鑑みるとき
に、私は、ぜひとも加工センターというものをつくっていただくことによって、ある意味で
一気に集中する返礼品についても対応できる能力の持った施設は十分可能だということを実
は業者からも伺いましたし、さらにはまた、それと絡めて物産センターを考えるときに、標
茶高校生がやっている乳製品の加工ですとか、あるいは本町で農家がやっているチーズ加工
ですとか、そういうもろもろをふるさと納税と絡めて、その事業と絡めて物産センターのや
っぱり設立を私は切に希望いたしますし、それが本町にとっての経済振興あるいはまた地域

発展、町の発展の相乗効果になっていくと思うのです。

一番最初に申し上げましたように、ふるさと納税をする方々は、やっぱりふるさとへの郷愁あるいは第2、第3のふるさとを求める方々が標茶に頑張っていたいただきたいということであれば、当然それは標茶で応えなければならぬ、受け身であってはならないということから考えて、やっぱり攻めのまちづくり、ふるさと納税制度を利用したまちづくりをいま一度考えていただきたい。ぜひ、町長が5つの重要項目に出したのものにも書いてあります。思いもあるでしょう。したがって、私もそれについては町長に賛同いたしますし、ぜひともふるさと納税、私、時々監査の月例報告を見ますけれども、先月も先々月も1億1,000万円強の基金がなされておりますけれども、どういうふうに使われているのかと、私知らなかったものですから、今回初めて私自身も勉強になりましたけれども、町民の方々がどういうふうに納税件数がある、どう使われているのか。あるいは納税した方々が、寄附された方々が、本当に有効に利用していただきたい。持続性を持ったやっぱり寄附行為であったということを立てるためにも、一つの手段、方法として、加工センター等々をつくることによって、物産センターも含めた、いわゆる道の駅の第一歩になっていくと、私はそのように理解いたします。私自身はそういうふうにいるのです。

それで最後に、長くなりましたけれども、町長に先ほどの「元気な、交流ステージ標茶へ」ということでの5項目の中に前段で入っています。ふるさと納税を活用する、どうのこうのと出ております。町長の目玉であると思っております。それと同時に足すこと、ふるさと納税事業と絡めて、これの取り組みをぜひともお願いしたいということ、長くなりましたけれども、これが私の希望であり意見であります。町長のご答弁をいただいて終わりにしたいと思いますが。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） 今、本多議員のほうから、ふるさと納税について、これについては、返礼品をつけてふるさと納税を行うということについては、令和元年の6月から、私が町長になってから始めて、非常に大変な状況で、地元の事業者の皆さんのご協力をいただきながら、先ほど説明したように、最初は35品目くらいの返礼品だったのですが、それが今現在百八十幾らまで返礼品が増えて、これはやはり地元の皆さんがふるさと納税に対する思いが、物づくりも含めて形に徐々になってきたのかなと思っていますので、これはさらに拡大していきたいということで、第2期の中でも公約の中で位置づけをさせていただきました。その拠点になるのが、やはり物づくり、物を売るための拠点施設として、そういう物産センターとか、そういったものが町民の多くの皆さんが、できるだけ早く欲しいということの意見がありましたので、それをまず目指したいと思いますが、あわせて今回、ふるさと納税の例えば返礼品の研究開発とか、支援制度についても、あわせて創設をしたいというふうに考えています。ただ、その中に加工施設に対する支援とか、そういったものをどこまでどういうふうにやるかとか、誰がやるかとか、そういった部分については、まだ形が見えていない部分がございますので、いろいろな方々の意見を聞きながら、現在これまで例えば鹿肉加工をやってきた方とか、ペットフードの事業者の皆さんの意見とか、そういったものをお聞きしながら

ら、標茶にふさわしい形ができないか、研究してまいりたい、そんなふうに思いますので、皆さんのご支援をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（菊地誠道君） 本多君。

○9番（本多耕平君） 最後に、今、町長のふるさと納税に対するお考えは、十分理解いたします。念を押すわけではございませんけれども、ぜひ、行政だけの力では、これは私は無理だと。長続きしないのですよ。民間の知恵と技術を信じて、今まで行ってきた業者との、もう一度この事業、政策に対してのやっぱり密なる会議を持っていただいて、やっぱりお互いの立場を理解しながら、あるいはまたさらには、お手盛りではないですけども、ここに猟友会の支部長もいらっしゃいます。やはり鹿肉の有効利用等々も考えながら、ふるさと納税についての、今後ますます向上することが町の産業の発展につながっていくということを、私は偉そうなことを言うわけではないけれども、町長にぜひ進言をして、私の発言を終わりたいと思ひます。ありがとうございました。

○議長（菊地誠道君） 以上で9番、本多君の一般質問を終わります。

黒沼君。

○10番（黒沼俊幸君）（発言席） 私は、通告に従ひまして、件名、二本松橋の竣工時期とカヌーの発着場についてということをご質問いたします。

塘路とコッタロ展望台をつなぐ釧路川にかかる二本松橋は、完成に近い様子であります。一般車両が通行可能な時期はいつになるのか。

橋が開通いたしますと、鶴居村方面から観光の流れが増えると予想されます。主要な観光の柱であるカヌーを楽しむ人がこの橋を通過して塘路を訪れると思ひますが、現在の二本松橋付近のカヌー発着場の利用はどうなるのでしょうか。

カヌーガイドラインにある、カヌーポート駅とカヌー発着可能場の違いはどこにあるのでしょうか。

河川敷内の発着可能場所は標識を立てるなど、危険防止策をとるべきと思ひますが、どうでしょうか。

また、町内の業者は、町と連携してカヌーを運航していると思ひますが、町外の業者は、カヌーポート駅以外で利用されているというふう聞いております。実態はどうでしょうか。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 10番、黒沼議員の二本松橋の竣工時期とカヌーの発着場についてのお尋ねにお答えいたします。

1点目の二本松橋の一般車両が通行可能な時期はいつになるかのお尋ねですが、道路管理者である北海道釧路建設管理部によりますと、工期が令和5年1月20日までであるが、早期開通できるよう努力しており、時期は明言できないが、工事が竣工し、引き渡しを終了したら通行可能になるとのことです。

2点目の現在の二本松橋付近のカヌー発着場の利用はどうなるかのお尋ねですが、令和2年6月の定例議会においても、議員よりご質問いただき、お答えしておりますが、二本松橋が通行どめの期間、スガワラ川発着可能箇所を利用する場合には、大きく迂回することとな

り、利用者の減少が懸念されることから、釧路川カヌーネットワーク協会から、二本松橋を利用できない期間は、二本松橋左岸上流側を仮設の発着場として利用させてほしいとの要望があり、環境省、釧路開発建設部、釧路建設管理部のご協力により仮設の発着場を設置していただいております。仮設の発着場ですので、二本松橋が通行可能となった際には設置者において撤去することで、釧路川カヌーネットワーク協会及び事業者からもご理解をいただいております。

3点目のカヌーガイドラインにあるカヌーポート駅とカヌー発着可能場の違いはどこにあるかですが、ガイドラインにつきましては「釧路川保全と利用のカヌーガイドライン」として国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課で所管しております釧路湿原自然再生協議会において、2004年、平成16年に最初のガイドラインが策定され、2022年、令和4年3月に自然環境の保全とカヌーの安全利用を両立するルール、マナーをよりわかりやすく伝えるため改訂されております。本ガイドラインにおきましては、釧路川全体でカヌーポートが8か所、発着可能箇所として5か所指定されており、そのうち標茶町内には、それぞれ4か所と3か所が掲載されております。

お尋ねのカヌーポートと発着可能箇所の違いにつきましては、所管している釧路開発建設部によると、どちらもガイドライン作成時に登録されておりますが、カヌーポートが、本ガイドライン作成時において既に釧路開発建設部において標識や注意看板を含めて整備されている場所。発着可能箇所については、実態として利用されているが、基本的に整備を行っていない場所とのことでございます。

4点目の河川敷地内に発着可能場所の標識を立てられないかのお尋ねですが、地域や利用者からの要望により、釧路湿原自然再生協議会がその必要性を認識した場合、設置することができると聞いているところでございます。

5点目のカヌーポート駅以外での利用の実態はどうかのお尋ねですが、釧路川でのカヌー利用状況につきましては、釧路川流域でのカヌー事業者数は現在35事業者があり、個人でカヌーを楽しんでおられる方もいることから、町としては誰がどこのカヌーポートを利用しているのか、どこの発着可能箇所を利用しているのか、全て把握はできておりません。ガイドラインにもうたわれておりますが、利用者のマナーや共通ルールを理解していただいて、多くのカヌー利用者が釧路川や釧路湿原の自然に親しみ、安全に楽しんでいただきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

黒沼君。

○10番（黒沼俊幸君） 一番心配していた二本松橋が、行って本当にアーチ型の美しい橋が、今、完成しようとしているのを目の当たりにして、非常に立派な橋だなと思っております。私が見たところ、あと最後の表層を工事すれば、それができれば完成するのだなということですが、北海道釧路建設管理部が1月20日まで工期だからなるべく早くということで、私は、ちょっと情報は言えませんが、年内完成という話を伺っていたものですから、12月に完成すればいいなというふうに思っておりました。年度内ということになったら3月

ですけれども、なるべくこの時期は、例えば12月30日に通れるようになったら、そのようなPRというのを、ぜひ知らせてほしいと思います。

それから、カヌーの観光に携わる人たちが、釧路川のよさが理解されてどんどん今年あたり、コロナが少し減退したせいもありますけれども、カヌー客が大勢塘路の町を訪れて、すばらしいなというふうに思っておりますが、一方、皆さんも記憶にあると思いますけれども、知床遊覧船の事故が全国に知られて、大変なことになったということが思い出されます。カヌーも私、何か所か発着可能場も見学いたしました。この5か所については、誰でも愛好者はカヌーを運んで乗ったりできるという、規則がないのです。それで、このカヌーポートというのは開発も認めていますから、標識もあるし、塘路の業者もちゃんと営業していますから問題ないと思いますが、この発着可能場というところが問題でないかと思っております。場所によっては、例えば五十石のような緩やかな川の岸もあれば、塘路に行くときすごい蛇行していますし、深いのです。そして、倒木というか寝木というか、川に木が埋もれ木になっているし、そういうところを通称、私たちはガンケと言っていますけれども、ガンケの場所がありまして、そこを自由に今は乗り降りできるのですが、このブームがどんどん盛んになりますと、来年あたりはあそこへ行って乗ろうという、地図にも載っていますから簡単に訪れることができるわけで、このことを、やっぱり幾ら自然国立公園の中でもそこに行く道路は町が管理していますから、町も大いに責任があると思いますので、開発局と本町と両方で、この発着可能場所については、乗れない場所は柵をすとか、きちっと標識を立てるようなことは考えてほしいと思いますが、このことについて再度お伺いします。

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） お答えいたします。

まず、橋の供用の部分なのですけれども、先ほど町長の答弁、工期が1月20日までということですので、年度内というよりは、よほどのことがない限りは、事故がない限りは1月20日からこちら側の間に完成して引き渡しが行われるというふうな理解しておりますので、議員についてもご理解いただきたいというふうに思います。

それから、カヌー発着場の整備の件なのですけれども、いろいろな視点があろうかというふうに思っております。議員のように現行のカヌー発着場をちゃんと整備すべきだという声、あるいはもっとたくさんのカヌー発着場的なものをつくるべきだという声もあるかとは思いますが、一方で自然を大事にしていく、特に国立公園内ではそういう発想が必要で、これまでも賢明な利用、ワイズ・ユースという、そういう概念で、むやみやたらな開発整備はしないという、そういうところもあったというふうに理解しております。現に釧路川においては、環境省、釧路開発建設部、町も含めて協議しながら、できる範囲でやってきたという経過があるかというふうに思っております。

また一方、議員から、町道が整備されていて、そこを使う以上、そのカヌー発着場等の利用についても責任が発生するのではないかという、そういう発言がありましたけれども、基本的には自然の中で自然を楽しませてもらう私たちについて、原則、自己責任という部分が尊重されるというのが、海外でそういう発想だということが、釧路湿原国立公園になると

きに、そういう情報もたらされたという記憶があります。先ほど申し上げました賢明な利用と兼ね合わせて、実際多くの人が使っているところについては、危険防止措置を講じるというのは、当然のことだと思えるのですが、先回りをして行政がそこに手を加えることについては、この先も環境省あるいは河川であれば開発建設部、湿原再生委員会等々で議論され、協議され、そして形をなしていくものだというふうに考えておりますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（菊地誠道君） 黒沼君。

○10番（黒沼俊幸君） 少し今、説明いただいたのだけれども、わかっていないのではないかとこのように私が思いますので、もうちょっと突っ込んでお話をいたします。

塘路駅からちょっと上流に行きますと二股という、鉏路川が急角度で、ここは遺跡もあって、縄文会の人たちも、恐らく全員ここは遺跡があった場所で知っていると思います。ここについては、さっき私が述べたガンケがあって、線路も近いですから、非常に新しい、いい場所だというふうに、私は理解しております。やっぱりここら辺は、さっき言ったように危険箇所だというふうに、足を滑らしたら、大人だったら救命胴衣をあれしてすぐ泳いで岸に行けるかもしれないけれども、子供だったら乗り降りするときに危ないです。だから、そういう場所は、これは開発が管理すればいいとおっしゃるかもしれないけれども、やはり事故防止のために、警察や何かにも巡回してもらって、1年に1回でも2回でもそういうのをみんながわかり合って、朝早く来ていつの間にか下っていて、誰が誰だかわからない。そんな自然公園だから仕方ないと言わないで、やっぱりこれからカヌー人口がどんどん増えるというふうに私は予測していますので、それをお願いしたいと思うものだから、もう一回お話しできる人は答弁してください。

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） お答えしたいと思います。

繰り返しの答弁にはなってしまうかと思うのですが、全く考えていないとか、考える意思はないとか、そういった答弁をしたつもりではなくて、現状に合わせながら相当な利用がある、そういった場合については、当然私どもとしても、所管外のことであっても、ご意見をお願いしながら整備に努めるというふうな考えでおります。一方で、例えばそこは危険だから違う場所から乗ったほうがいいのではないかと、そういった発想も利用者の側では必要ではないのかなというふうに思います。ここから乗るからここを全部整備しろというのは、ちょっとむちゃな話なのかなというふうに思っていて、その辺の兼ね合いについて、私どもとしましては、安全対策等々の部分で関係する所管庁とも協議しながら、適切な整備について努めていきたいというふうに考えているところであります。

○10番（黒沼俊幸君） そのように、今答弁あったように、前向きに注意をしながらやっていただくよう要望して、質問を終わります。

○議長（菊地誠道君） 以上で10番、黒沼君の一般質問を終わります。

深見君。

○8番（深見 迪君）（発言席） 私は、サルボ・サルルン展望台の史跡を中心とした説明

看板の設置をということを求めて質問したいと思います。

今年の4月、サルボ・サルルン展望台改修工事が無事終わり、連日、観光客が上って楽しんでいきます。サルボ・サルルン展望台は本町にとっても貴重な観光施設と考えますが、改修を終えての町長の所見を伺いたいこととあわせて、今後の課題等があればお聞きしたいと思います。私も4月と11月に上ってみました、幾つか気になるところがありましたので質問し、町長のご所見を伺いたいと思います。

気になったことの一つは、貴重な史跡についてです。改修前は説明看板がありましたが、今はなくなっていました。例えば、チャシコツというのか、チャシ跡などはわかりやすく大きな説明看板がありましたし、縄文住居史跡についても説明看板がありました。ぜひ設置してほしいと考えますが、いかがですか。

さらに、貴重な原生林や草木などの説明も必要と考えますが、いかがですか。

また、4月に上ったときは、サルボ展望台に行く階段の下がぬかるんで大変でした。ところどころビリ砂利、ビリ砂と言うのですか、ビリ砂利が敷いてありましたが、観光客の安全も考えて全面的に敷くべきと考えるが、いかがでしょうか。

展望台入り口に駐車禁止の看板が設置されていますが、駐車していることがあります。看板を大きくしてはどうでしょうか。

また、入り口等の看板も極めて小さいと思いますが、これも大きくしてはいかがでしょう。

以上です。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 8番、深見議員のサルボ・サルルン展望台の史跡を中心とした説明看板の設置をののお尋ねにお答えいたします。

1点目の改修を終えての所見、今後の課題等のお尋ねですが、議員ご承知のように、シラルトロ塘路線歩道につきましては、急勾配の歩道や春の融雪期や大雨の際には、土砂の流出、木柵やサルルン展望台の損傷が激しいことから、管理者である北海道が事業主体となって、令和元年度から2か年で再整備を行っていただきました。本町の貴重な観光資源であるサルボ・サルルン展望台、シラルトロ塘路線歩道は、塘路湖やサルルン沼を初め、湿原風景やJR釧網線も眼下に見られる場所として、年間を通じて多くの観光客の方にお越しいただいておりますので、施設改修、歩道改修していただいたことに大変感謝をしております。引き続き環境保全、環境整備に努めてまいります。

今後の課題としましては、町で設置管理しておりますサルボ展望台が建設後25年経過し、毎年、部分的な補修を行っておりますが、老朽化が激しく、更新時期を迎えていることから、財源確保を含め、改修に向けて検討してまいりたいと考えております。また、駐車場については、長年の課題として受けとめており、引き続き関係機関と協議を進めてまいります。

2点目のチャシ跡や縄文住居史跡の看板を設置してほしいとのお尋ねですが、議員ご指摘のとおり、以前にはサルボチャシ及びサルボ遺跡について、その内容を記した木製の遺跡看板が設置されていましたが、何者かによって赤色のスプレーによって汚されてしまったこと

もあり、看板の劣化が目立っていたため、修復はせず撤去して現在に至っているところで

す。
特にサルボチャシについては、保存状態のよいアイヌ文化のチャシであり、アイヌ交付金の活用も期待できることから、新たに計画に加えるなど、看板の設置について検討してまいりたいと考えております。

また、縄文住居遺跡については、サルルン展望台へと向かう散策路の道脇にあり、非常に観察しやすい場所に所在しております。こちらについても、観光客を対象としたわかりやすい新たな看板の設置を、関係機関と協議しながら周辺環境に配慮した形で検討いたします。

3点目の原生林や草木などの説明も必要ではないかとお尋ねですが、シラルトロ塘路線歩道だけではなく、シラルトロ湖キャンプ場奥の蝶の森についても経年劣化から破損していることから、今後エリア全体として改修を進めたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。

4点目の全面的にビリ砂利を敷くなどのお尋ねですが、管理者である北海道において、環境省の自然環境整備交付金を活用して整備を進めたい、来年度の実施に向けて要望したいとお話をいただいているところでございます。

5点目の駐車禁止看板と入り口看板を大きくしてはどうかのお尋ねですが、駐車場入り口看板、展望台、歩道入り口看板、駐車禁止看板、無届樹木伐採禁止看板等につきましては、今後、環境省、北海道開発局、釧路総合振興局と協議しながら、看板が煩雑にならないよう景観に配慮した看板の設置について検討してまいりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

深見君。

○8番（深見 迪君） おおむね答弁をいただきました。

時期については、いつまでということは、今、多分言えないかと思えますけれども、その点についてもちょっと伺いたいというふうに思います。

それから、先ほどサルボ展望台に行く階段の下がぬかるんで大変なので、ビリを全面的に敷いてはどうかということについて、来年度の実施について検討していくというような答えのように聞こえたのですが、この点はもう一度答弁していただけますか。

○議長（菊地誠道君） 観光商工課長・三船君。

○観光商工課長（三船英之君） お答えいたします。

まず、看板の設置時期なのですが、町長からも答弁させていただいたのですが、茅沼地区の奥の蝶の森の看板の関係もかなり傷んでおりまして、担当課としましては、一緒に、あの辺エリア一体となった、統一したデザインを採用しながら再設置したいと考えているところでございます。時期につきましては、まだいつというところはまだここではお答えできないのですが、来年、再来年にかけて関係機関と協議しながら進めていきたいというふうに考えているところであります。

それから、ビリ砂利の設置なのですが、北海道さんが管理しておりまして、聞いているところでは、来年度の予算要望に上げたいということでお聞きしていますので、予算がつけば

やっていただけということでお話をいただいているところでございます。

○議長（菊地誠道君） 社会教育課長・服部君。

○社会教育課長（服部重典君） お答えいたします。

アイヌ交付金を活用した看板の設置について、現在、サルボチャシ以外にも、本町には虹別のポンチャシ及び国指定の釧路川流域チャシ跡などがございます。こういったものも含めて、新たにアイヌ交付金推進計画に加えながら実施していく予定なのですが、現在、令和5年度につきましては、事業が集中するということがなかなか難しいという説明を受けております。ですから、予定的には、令和6年度に向けて新たに計画を加えながら実施していくという形になろうかと思えます。

以上です。

○議長（菊地誠道君） 深見君。

○8番（深見 迪君） わかりました。

2つ目の質問に入ってよろしいですか。

○議長（菊地誠道君） 休憩いたします。

休憩 午前11時53分

再開 午後 1時10分

○議長（菊地誠道君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続行いたします。

深見君。

○8番（深見 迪君） それでは、介護の問題について質問いたします。

令和4年9月に開催された社会保障審議会介護保険部会では、要介護1、2の高齢者に対する訪問介護と通所介護を市町村の総合事業へ移す案が出ました。要介護度は、介護が必要な段階によって、非該当、要支援1～2、要介護1～5の8段階に分けられていますが、要介護1とは、食事などは自分でできるが、歩くときやトイレや入浴など、身の回りのことで一部手助けが必要な状態で、要介護2とは、食事、トイレ、入浴など日常生活の多くの面で介助が必要な状態になると認定されます。また、要介護2では、立ち上がること、歩くことなどの身体能力が低下しているため、利用者が動くときに支えをする必要があり、理解力や思考力が低下している状態にもなっています。この要介護1、2を事実上、介護サービスから外し、市町村の総合事業へ移す案について、町長のご所見を伺います。

もしこの案が通ったら、本町では今まで行ってきた介護サービスが大きく後退すると思いますが、いかがですか。

また、本町の総合事業については、再三質問に対してそのような体制はとれないと町理事者は答弁していました。この点についても所見を伺いたいと思います。

さらに、要介護1、2の介護サービスが全て介護制度本体から切り離されて介護事業所の予防事業となると、本町の小規模介護事業所の経営は成り立たなくなると考えますが、いか

がですか。

ケアマネジメントの利用者負担導入（ケアプラン作成の有料化）についても提案審議されていますが、実施されれば介護サービスを必要とされている人の負担が一層重くなると考えますが、いかがですか。本町においては、このような負担増については利用者の負担にしないようにすべきと考えますが、町長の所見を伺います。

介護保険料の自己負担額を現行原則1割から2割負担にする案も出ていますが、これでは介護を必要とする利用者が介護利用を控え、一層介護度を上げ、自立した生活ができなくなると思いますが、町長の所見を伺います。

施設や介護事業所等でのコロナ対策と実情はどうなっていますか。

介護保険料は制度ができてから22年になりますが、今の第8期で国の平均で、できたときから比べて2.1倍に介護保険料が上がっています。これに対し年金は20年間下がり続けてきました。9期を迎えるに当たって、これに対する施策など考えはありますか。

つけ加えますけれども、この質問を書いたときはかなり早くに書いたものですから、今の実情と審議会の答申の実情と、ちょっと離れているところもあるかと思しますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 8番、深見議員の介護内容の後退が行われないような計画をのぞねにお答えいたします。

介護保険事業計画につきましては、現在、令和3年度から令和5年度までの第8期計画でありまして、令和6年度からの第9期計画につきましては、令和5年度中に策定を予定することとなっております。

1点目の要介護1、2を事実上介護サービスから外し、市町村の総合事業へ移す案について町長の所見を聞くとのぞねにつきましては、社会保障審議会介護保険部会の中でもさまざまな意見が出されておりますが、全国町村会行政委員でもあります東京都瑞穂町長の杉浦委員から、「軽度者の生活援助サービス等の地域支援事業、総合事業への移行については、時期尚早であると考えております。もう少し議論をしっかりと制度的に組み上げてから着手すべきと考えております」との発言があり、本町においても同様に考えているところでございます。

2点目の、もしこの案が通ったら本町では今まで行ってきた介護サービスが大きく後退すると思うがどうか、総合事業については体制がとれないと答弁してきたが、この点についての所見を聞く、介護事業所の予防事業となる小規模の介護事業所の経営が成り立たなくなると考えるがどうかのぞねですが、平成28年度に総合事業が導入された際におきましては、町としては、従前の訪問介護に相当するサービスとして、そのまま現行のサービスを維持する形で移行した経過も踏まえて、今回の移行も平成28年度と同様の対応がとれるかどうか、今後の動向についてしっかりと情報収集をし、制度の中で現在のサービス低下をさせない形で対応したいと考えているところでございます。また、どのような形で、要介護1及び2の

方の、国の見直し案で言うところの要介護軽度者の独自サービスの枠組みを行うことができるか、引き続き本町の実情に合わせた形で検討してまいりたいと考えているところでございます。要介護1、2の方が現在の総合事業にそのまま移行する形となった場合、議員ご指摘のとおり事業者への影響は大きいものと思われまます。さきに申し上げました平成28年度に総合事業が導入された際におきましては、報酬単価を国の定める上限として設定し、結果として従前どおりの単価としたところでありますが、今回、国がどのような方針を示されるかを注視しながら、できる限り事業者への影響を少なくするよう進めてまいりたいと考えているところでございます。

町における要支援・要介護認定者は、令和4年10月末現在において549人、そのうち要介護1及び2の要介護軽度者に該当する方は192人で、認定者全体の約35%を占めております。そのうち、訪問介護における生活援助を利用されている方は50人であり、要介護軽度者の約26%の方が生活を営む上で欠かせない必要なサービスであると捉えております。

3点目のケアマネジメントの利用者負担については、利用者の負担にしないようにすべきと考えるがどうかのお尋ねですが、社会保障審議会介護保険部会の中でもさまざまな意見が出されているとおり、先ほど申し上げました杉浦委員からは、「市町村の行政現場では、これ以上の高齢者負担の増加は、生活保護に移行する人口も増加し、いずれ社会保障財源が別途必要になってしまいます」との発言がございます。本町においても同様に考えているところでございます。また、ケアプランの有料化となった場合、利用者の利用控えが起きる懸念もあることから、現制度の維持が必要と考えるところでございます。

4点目の自己負担額を1割から2割負担にする案も出されているが、介護利用を控え、一層介護度を上げて自立した生活ができなくなると思うが、町長の所見を聞くところのお尋ねにつきましては、先ほど申し上げましたが、負担増により利用者の利用控えが懸念される場所であり、この場合、議員ご指摘のとおり、介護度がさらに高くなる場所が懸念される場所でございます。2024年の負担割合の改定趣旨が、「現役並み所得」「一定以上の所得」の判断基準の変更と考えておりますが、今後の動向についてしっかりと情報収集を行ってまいりたいと考えているところでございます。利用者負担が一定の限度額を超えた場合、高額介護サービス費として給付される支援制度などもございますので、今後も引き続き、利用者や事業者の皆さんに周知の徹底を図ってまいりたいと考えているところでございます。

5点目の施設や介護事業所等でのコロナ対策と実情はどうなっているかのお尋ねにつきましては、日ごろから各事業所での感染対策について呼びかけを行っており、感染防止策を講じたサービスの提供に日々ご尽力をいただいているものと認識しております。また、陽性者が発生した場合の状況については、地域包括ケア会議などを通じ、各事業所へ情報提供の協力を依頼しており、感染状況を逐一共有しております。今後も感染防止対策の徹底を呼びかけながら、事業所との情報共有に努めてまいりたいと考えているところでございます。

6点目の介護保険料は制度ができてから22年であるが、第8期で国の平均で2.1倍になっている。これに対し年金は20年間下がり続けている。9期を迎えるに当たって、これに対する施策などの考えがあるかとお尋ねにつきましては、令和5年度中に策定を予定している第

9期計画の中で、介護給付費準備基金を活用しながら、できるだけ保険料の上昇を招かないような対応をしてみたいと考えているところでございます。いずれにいたしましても、介護保険制度の改正部分につきましては、引き続き社会保障審議会介護保険部会の議論や国の動向を注視してみたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと存じます。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

深見君。

○8番（深見 迪君） 今の町長がおっしゃった社会保障審議会介護保険部会でのある方の発言、これは現場から出た審議委員の発言であったり、あるいは学者の発言であったりもするのですが、この保険部会でのそういう前向きの発言は極めて少数なのです。審議会の議論の様子を見ていくと、今、私がこの質問の中で言ったような方向に、どうもまっしぐらに進んでいるような気がします。来年の通常国会で決まってしまうわけですから、そうなると実施時期は、第9期は令和6年度からではありますけれども、もう待ったなしの状況にきているというふうに思います。現在でも、これは帝国データバンクの資料ですが、毎年3桁を超える廃業が続いているというふうに言われています。人口はどんどん減ってきているのですが、人口減でも要介護者は17%増となっているというデータもあります。だから、そういう点では、注視していきたいというふうにおっしゃいましたけれども、予断を許さない状況なのです。標茶の特別養護老人ホーム、現在7割でしたか、100人のところ70人しか受け入れることができないという状況。これはもう既に民間の企業で言えば倒産ですよ、はっきり言って。そういう状況にきて、さらにこういう状態が出てくるという。確かに前向きの審議会での意見を述べている方もいますけれども、私が見た点では、もうほぼそういう方向で進んでいくのではないかとこのように、私は思っているのです。

それで、先ほど言われていた幾つか、例えば準備基金を使って保険料を抑えるとか、あるいはケアプラン作成の有料化についても、もしそうなった場合にはいろいろ考えていきたいというような町長の答弁がありましたけれども、具体的には現状からどのぐらい厳しい状況になっていくのかと。先ほど私が申し述べたとおり、このとおりにいけば間違いなく、介護保険料は払うけれども、必要になったときにサービスは受けられないという状態が必ず第9期には出てくる。今でも出ていますけれども、そういう状況がもっと多くなっていくというふうに思います。だから、そういう点では見通しの点でもう少し、第9期審議会の動き、どういう見方をしているのか、まだ変わる要素はあるのか、それとも先ほど私が申し述べたような内容が間違いなく来るのではないのかというようなことについて、もう一度、9期を見通した考え方と言いますか、状況について説明願いたいなというふうに思います。

○議長（菊地誠道君） 保健福祉課長・浅野君。

○保健福祉課長（浅野隆生君） お答えをいたしたいと思えます。

第9期の保険料の部分についてでございますけれども、現状まだ計画のほうに着手しておりませんのでちょっとはっきりしたことは申し上げられないのですが、先ほど町長答弁したとおりに、介護給付費準備基金を活用しながら、できるだけ保険料の上昇を招かないような対応をとらせていただきたいというような基本方針で、今後、計画の策定を進めてまい

りたいというふうに考えております。

それから、社会保障審議会介護保険部会の中の議論のほうのお話もありましたけれども、ケアプランの有料化の部分と要介護1、2の人が使う訪問介護等の生活援助サービスの移行の部分につきましては、見送る方針だというような一部報道等もございますので、その部分もあわせて今後の動向を注視してまいりたいというふうに考えているところでございますので、ご理解いただければというふうに思います。

○議長（菊地誠道君） 深見君。

○8番（深見 迪君） 今、全国的に事業所を含めて大きな運動が起きています。それで、その反映がケアプランの有料化あるいは要介護1、2を要支援並みにしていく、そういうことは見送るような空気も少しずつ出てきているというのは、私も感じています。それはどこまで確かなのかというのを本当は聞きたいのですけれども、現状ではわからないと。最初に課長がおっしゃった、計画は着手していないというのは町の計画のことを言っているのですよね。

それで、そのことをちょっと答えていただきたいのと、それから、いわゆる総合事業にしていこうという案なのですけれども、結局のところ、国の言う総合事業のようなスタイルではなくて、今、事業所に丸投げしているのが実態なのだと思うのです。ボランティアの人たちがかわって総合事業という形でという、そういう形は標茶ではできないということをもう何回も町長答弁されているわけですから、結局は事業所にそれを丸投げしてしまうと、事業所はやりくりに困ってしまうというようなことになるのだと思います。

最初に、計画着手していないというのは町のことなのかという質問と、それはいつごろから着手するのか。もちろんこれは国の9期の事業計画案がはっきりした上から始めるというようなことなのだろうと思うのですけれども、その点答えていただきたいということと、それから総合事業に対する見方。最初は、要支援1、2を総合事業にした。それで介護事業所は本当に困った経営を余儀なくされました。今回は、要介護1、2、今、見送る案がちらほら見えているということで、そのとおりいけばいいのですけれども、この総合事業を本町では実施できる力はあるのかという点について言えば、今まで要支援1、2も総合事業だったわけなのですけれども、事業所に丸投げしたわけですから、結局はまた要介護1、2がそうなったとしたら、これはやっぱり事業所に負担がかかるということになるのではないかとこのように思うのですが、その点の見解をちょっと述べていただきたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 保健福祉課長・浅野君。

○保健福祉課長（浅野隆生君） お答えをいたしたいと思います。

まず、計画の部分ですけれども、先ほど、現在着手していないというようにお答えをさせていただきました。国のこちらの方針が決まりましたら、新年度速やかに計画の着手に入りたいというふうに考えております。いずれにいたしましても、令和5年度中には計画を策定いたしまして、お示しできるような形をとりたいというふうに考えております。

それから、総合事業の部分で丸投げというようにお話もありましたけれども、決して私どもそのように考えているわけではございません。前回移行の際も、町長答弁したとおり、従

前の介護予防に相当するサービスということで、報酬も引き下げないような形で移行させていただいております。その辺はご理解をいただければなというふうに思っております。

それから、町のほうで総合事業の体制は難しいのではないのかというようなご質問ございましたけれども、今回の町長の町政執行方針の中で「町内会・地域会単位での高齢者のサロンなど居場所づくり、利用者の視点に立ったサービスについて検討してまいります」というふうに述べさせていただいておりますので、これによりご理解をいただければなというふうに思いますし、令和3年度に6公民館共同事業として、地域シニアサロンを塘路公民館で3回実施しております。令和4年度につきましては、塘路、茶安別、阿歴内公民館でそれぞれ2回ずつ実施及び実施をする予定というふうになっておりますので、ご理解をいただければというふうに思います。

○議長（菊地誠道君） 深見君。

○8番（深見 迪君） 計画についてはわかりました。改めてまた質問したいというふうに思います。

丸投げではないというふうにおっしゃいましたけれども、町内会・地域会単位でこれを取り組むというか、可能なのかというふうに思います。さっき要介護1、2の状態、私、言いましたけれども、かなり要介護2、食事、トイレ、入浴など日常生活の多くの面で介助が必要な状態になる、そういうときに要介護2に認定。トイレ、入浴など日常生活の多くの面で、立ち上がること、歩くことなどの身体能力が低下しているため、利用者が動くときに支えをする必要がある。こういうプロではない人たちが、町内会・地域会単位でこれをフォローできるのかと。私は、できないと思うのですよ。だから、その点どうですか。

○議長（菊地誠道君） 保健福祉課長・浅野君。

○保健福祉課長（浅野隆生君） お答えをいたしたいと思っております。

ただいまご指摘いただいた部分については、現実問題はそのような形かなというふうには思っておりますけれども、仮に今回の要介護1、2の方が総合事業に移行になった際につきましても、前回同様、改正前の介護予防に相当するサービスというような形をとれるとすれば、基本的に現状とは変わらないような方向で、進めさせていただくことができるのかなというふうには考えております。ただ、現状ははっきりしたものございませんので、今後の国の動向等を注視しながら判断をしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（菊地誠道君） 深見君。

○8番（深見 迪君） それはちょっと認識が違うのですけれども、仮に要介護1、2が本体から切り離された場合に、依然、要支援1、2と同じように現状と変わらないサービスを続けることはできるのではないのかということにはならないですね。これは絶対ならないですよ。そういう点では、ちょっと認識が違うかなというふうに思うのです。

介護保険というのは、2000年に制度ができたときに、家庭だけが引きこもって介護が必要な人を見るのではなくて、社会が見るのだと、はっきりそう言ったですよ。無理ではないかという意見もたくさんあったけれども、社会が見るのだから、みんなで金を出し合ってやりましょうよということで始まったものです。それが要介護1から5まであったものを、今

度、1の人たち、2の人たちを切り離して、要支援1、2を落としていったのですよね。そして、だから、そこでもまたサービスが低下している。今度は要支援1、2を総合事業にすると、介護サービスの本体から離していくということで、要支援1、2の人たちのサービスも、要支援1にすることで、介護サービスを本体から切り離していくと。

今回出てきた審議会の案は、要介護1、2を本体から切り離すという案ですから、今のところそれはどうも実現しそうな話で、それが本当だったらほっとするのですが、今、特別養護老人ホームを含めて我が町の介護の実態を見れば、本当に介護が必要な人たちが介護から見放されていると、受けたくても受けられないと。ましてや利用料が上がったり、それから実際に介護をする人がどんどん減っていくという実態の中では、極めて厳しい状況だというふうに私は思います。2000年から始まって22年たちましたけれども、どんどん介護のサービスの内容が低下してきているのだと私は思うのです。そこぐらいは同じ認識でいたいなというふうに思うのですが、いかがですか。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） お答えしたいと思います。

議員からいろいろあった総合事業の経過については、私も十分承知していますし、ただ当時、総合事業の担い手として、では標茶町にそういう方、組織なり方々、団体等がほとんど皆無だという状況の中で、苦肉の策として国の猶予できる部分の範囲を利用させていただきながら国の単価の上限を設定して、さらに結果として、従来どおりの単価で町内のこれまでの事業所の皆さんにサービスをお願いしてきて、今に至っているというのが現状だと思うのです。そういう意味では、私どもが思っているより、先生はサービスが低下したと思っているかもしれないですが、私どもは町内のいろいろな社会保障、社会福祉関係の財産を有効に活用しながら、今、町内でやれる体制をつくってきている、そんなふうに思っています。

ただ、これから将来を考えたときに、例えば新たに、今、公民館でいろいろなふれあい関係、サービス事業の、今、実験的にいろいろなことをやってもらっています。それから、ふれあいカフェという形で町内の中でもそういうのが始まっています。それは新たに、例えば福祉事業までいかななくても、健康づくりとして、閉じこもりとかそういったことを少しでも避けるために、少しでも出る機会をつくるために、新たな居場所づくりとして、そういう事業を、今、少しずつ始めているということです。それが将来、町内会、地域会によっても全く状況は違うと思うのですが、例えば、そういう地域によって主体となる組織があって、そこは総合事業が可能だとか、そういったふうになれば、今言ったような形の総合事業の受け皿としてそういうものを活用しながら、わざわざ標茶まで出てこなくても、デイサービスの一部の機能が公民館でできるように展開できるとか、そんなふうな、今はまだ実験段階だと思っておりますけれども、そういったことをそれぞれ地域にお願いしながら、新たな居場所づくりを少しずつ始めているということです。

ですから、今回の国の見直しも、これからどんな状況が展開されるかまだわかりませんが、現在のいろいろな福祉施設の事業所等に可能な限りで活躍してもらい、それがなけ

れば町内のこの福祉事業は成り立たないと、そんなふうに思っていますので、そこは今これから国の法律改正がどんなふうになるのか枠組みを注視しながらというのは、先ほどの答弁のとおりですので、その辺はご理解をいただきながらお互いに知恵を出していきたい、そんなふうに思っていますので、よろしくをお願いします。

○議長（菊地誠道君） 深見君。

○8番（深見 迪君） 町長が先ほど来から答弁されているように、足りない部分を町がいろいろな形で努力してそれを補っていくのだという、そういう姿勢、それから、保険料についても準備基金を使って、もうできるだけ抑えるというようなご答弁。これはもう前向きな答弁で、ケアプラン作成の有料化についても前向きな答弁をいただいているわけですが、私が今回質問したのは、これでもうやめますけれども、国の介護保険制度、これが9期に大きく変わるのではないかと。介護サービスが一段とまた、以前のように後退していくのではないかとという危惧を非常に持っているものですから、国の介護保険制度についてのご見解を伺いたいなというふうに思っていましたし、今のところまだよくわからないという、審議会の介護保険部会を続けている最中だと思うので、まだよくわからない部分があると思うのですが、国の介護保険制度は今までの22年間をずっと見てきても、後退しているのではないかと。言ったら理事者の方は後退していないと言いますけれども、私は後退しているのではないかと、その点での所見を聞きたかったなというふうに思っています。当然といえば当然ですが、国が後退した部分を凶らずも町が何とかそれを埋めようと、介護サービスをきちんとやろうとしているということは、私、努力は認めたいと思うのですが、私がここで今回質問したのは、この介護保険制度そのものが今どうなろうとしているのかという、低下しつつあるのではないのかということを知りたいのです。もしその点で見通しというか、国の動向を注視したいというのは答弁にならないと思うのですけれども、見通しというか、物すごく心配しているのですよ、これがもし審議会の介護保険部会のとおりに進んでいったら。そういう点で国の介護保険制度、これが9期にどう変わろうとしているのかという点についての見解を最後に聞いて、質問を終わりたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） お答えしますが、先ほど最初の答弁で申し上げたとおり、現在、具体的な改正内容について、明確にこうなるということはまだ示されておりませんので、審議の途中だと思っています。それらについて今ここでこれはと言われても、なかなか明確な答弁ができて、その対応はこうですということは今できないということだけのご理解いただきながら、ただ、これまでもやはり介護保険制度が、なかなか国の社会保障制度総額を国が一定程度抑えていくという、かなり毎年伸びていますので、そこを抑制しながら何とか維持していくというか、そういう方向に流れているのかなというのを意識しながら、ただ、そこで内容的なもの、実態としては、実は質を下げない、そういう努力を何とか自治体の中でできないのかな、ただ、それは個々の自治体の中では限界のあることも十分あると承知していますので、そこを見極めながら次の9期については、国の方向が見えた段階でしっかり策定していった皆さんにお示しをしていきたい、そんなふうに思っていますので、ご理解いただき

たいと思います。

○議長（菊地誠道君） 深見君。

○8番（深見 迪君） これは待ったなしの内容なので、しかも9期の内容が来年の通常国会で決まってしまうということなので、ぜひまた私も質問したいと思いますし、国の動向についてもキャッチしたら早めに教えていただきたいなということをお伝えして、質問を終わりたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 以上で8番、深見君の一般質問を終わります。

鴻池君。

○11番（鴻池智子君）（発言席） では、通告に従い質問させていただきます。

まず1つ目は、救急救命率の向上と対象者への配慮ということで、現在、町の公共施設にあるAEDは屋内にあると思います。それは閉館時には使用できないということだと思えます。救急救命率の向上を図るためにも屋外への設置も必要と考えます。

また、AEDを用いる場合、対象者が女性であるということで使用をためらうケースもあるとのこと。疾病者の胸部を覆うために、三角巾を収納ボックス内へ配備することも考えるべきではないか。また、プライバシーに配慮しつつ迅速な救命活動につなげるためにも必要と思います。

関連して、衛生用品も一緒に配備との声もあるが、町としての考えを伺います。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 11番、鴻池議員の救急救命率の向上と対象者への配慮をのご質問にお答えいたします。

本町公共施設におけるAEDの設置状況ですが、学校、保育園、体育施設、公民館等の施設に44台のAEDを全て屋内に設置しております。

平成30年12月に一般財団法人日本救急医療財団から出された「AEDの適正配置に関するガイドライン」内に、AEDの効果的・効率的設置に当たって考慮すべきこととして4つの項目が挙げられております。1つ目は、心停止の発生頻度が高い場所に設置すべきということで、人が多い場所に設置すべきとされています。2つ目は、心停止のリスクがあるイベントが行われる場所に設置すべきであるということで、例えば、心臓震盪のリスクがある球場、マラソンなどリスクが高いスポーツが行われる競技場などに設置すべきであるとされています。3つ目は、救助の手がある、あるいは心停止を目撃される可能性が高い場所、人が多い、または視界がよい場所に設置すべきであるとされています。4つ目は、救急隊到着までに時間を要する場所、遠隔地や山間等に設置すべきとされています。本町のAEDを設置している公共施設等は、この要件は十分満たしていると認識をしております。

ご質問の1点目の野外へのAED設置についてですが、設置については温度、湿度、直射日光、防じんの機能を備えた収納が必要とされ、特に屋外では気温が低下するとバッテリーの放電が起きてしまうことから、道内で屋外に設置されている事例は限りなく少ないとされています。前述のガイドラインでは、可能な限り24時間誰でも使用することができることが望ましいとされていますが、現在、公共施設に設置しているAEDを屋外に設置することは

課題がありますが、屋外へ設置した場合に、どの程度の費用が必要か、あるいは24時間稼働している場所での設置の可能性について研究をさせていただきたいと考えております。

2点目のプライバシーにも配慮した救命活動についてですが、救命時においては、一刻も早い救急要請や心臓蘇生法の実施が最優先であることはご理解いただけるものと思いますが、その中でもプライバシーにできるだけ配慮をすることが望ましいものと考えます。三角巾などをAEDボックスに収納すべきとの議員からのご提案ですが、現在の収納ボックス内に配置できるか、どのようなものを配置することができるかについて標茶消防署などにも照会しながら検討をさせていただきたいと考えております。

3点目のご質問の生理用品も一緒に配備とのご質問ですが、現在配備しているAED専用のキャリングケースは、AED装着時に必要とされるタオル、はさみ、感染防止用ゴム手袋、人工呼吸用シート、T字カミソリが収納されております。このほかに生理用品の収納は難しく、収納ケースの外部に備えることは今後検討いたしますが、資器材一式がリース契約であり、AEDを使用することを目的に設置していますので、なるべくシンプルに保管したいと考えているところであります。

さきのガイドラインには、AEDの設置や内容を充実するだけでは必ずしも救命率の改善は望めなく、いざというときにAEDが機能するよう効率性を考え、戦略的配置と管理と教育、訓練を日ごろから準備し、さらに充実させていくことが必要と記述されております。本町としては、救命率の向上について標茶消防署の協力もいただきながら、心肺蘇生法を実施する人材育成のための救命講習会による普及活動を優先し、同時にAEDの有効な設置について検討を進めていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

鴻池君。

○11番（鴻池智子君） 今回の私の質問の町長の答弁の中で、私、関連して衛生用品というふうにしたのですが、町長、ここを生理用品というふうに言ったのではないかと思います。ちょっとこのところ、訂正とまでは言いませんけれども、私は衛生用品というふうに質問したところであります。

AEDの屋外への設置については、北海道は寒いということでバッテリー等の容量が減るとかということで、ちょっと難しいということでもありますが、もしそういう適切な場所があったのであれば、ここは屋外にも置く必要も出てくるときもあるのではないかとこのように考えております。

また、三角巾につきましても、AEDのパットを装着した上から三角巾で覆うと。そして、人工呼吸等、これをするのですけれども、やっぱり年齢に問わず、女性であるということで、胸部に手術痕があるとかそういうものもあり、そういうものが救急時のときに、周りに人がいる、本人は意識がなくても、周りでそういうところを見られるのがやっぱり恥ずかしいとか、そういうところのプライバシーに関しても、ここはしっかりと取り組んでいただきたいというふうに、三角巾を入れる、収納ボックスの中とか、設置する箱の横にでもそういうものが備えつけられるような空間があるのであれば、そういうところにも、ぜひと

もここは設置していただきたいなというふうに考えておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（菊地誠道君） 総務課長・齊藤君。

○総務課長（齊藤正行君） お答えしたいと思います。

まず、衛生用品のご質問の答弁ですけれども、衛生用品ということで訂正をさせていただきたいと思っています。

それから、屋外の設置状況の可能性についてですが、町長答弁にもありました現在のAEDは屋内用でして、AEDの設置基準で使用可能な温度が0度から50度の範囲内ということがAEDの設置の基準ということで、0度以下になると放電ということがあって環境的にもよくないということで、いざというときに使えなかったらだめですので、やはりその基準内に置くことが望ましいというふうなことは言われているところでございます。44台を町で設置している中で、現在のものを外に置くというのはなかなかハードルが高いかというふうに思っています。屋外に設置している例は、私が知る限りは道内1例でございます。それは専用のボックスに入れて通電、電気を入れて保温をかけて、夏には温度管理をしっかりとやっていると、かなり投資をしながら設置しているという、これは札幌市にある大きなドーム型球場内というふうに記憶してございますけれども、それ以外の事例というのは私どもでも承知をしてございません。

今、そういったことができるのか、あるいは私どもが考えているのが、今現在のAEDは、令和3年度に導入した5年間のリース契約を締結して導入しているものでございます。この次の改定時に、例えば24時間営業されておりますコンビニエンスストアに町のAEDを置かせていただけないかとか、そういったことは検討できるかなというふうに考えてございます。

それから、町長から答弁ありました町内のAED44台のほかに、民間さん、町以外が設置している台数が、消防さんで調べていただきましたところ、14台ございます。ただ、これも閉館時というか、ずっと開いているというところは私の知る限りでは見たところはありませんので、そういった中で、ホームページ等々では、今、AEDのマップということで調べれば、AEDがどこにあるかというのは、地図上でポイントで落としてわかるようになっていますから、そういった普及活動と一緒にAEDの設置については検討していきたいというふうに考えてございます。

それから、三角巾の話でございますけれども、これは以前に京都大学のほうで調査をしまして、やはり高校生以上になると異性への装着に一定程度ためらいが生じるという、これは調査研究がされておまして、全く議員ご指摘のとおりだというふうに考えております。救急救命が1分遅れると救命率は10%減少するというデータがありますから、まずは心肺蘇生、救急要請が一番というのは、これはおわかりいただけだと思います。ただ、その中で議員ご指摘いただきましたそういった部分に配慮したほうがいいという、例えばほかにも妊娠中の方、そういった方についてはやはり配慮することが望ましいとされております。ただ、これも余裕があればという枕言葉がつく部分でございます。まずは命が大事ですよというのは、これはご理解いただけだと思います。

その中で、議員ご指摘いただきました三角巾について、これはちょっと時期については、

まだ現在のリース契約しているボックスに入るのかどうか、内側に入るのか、やはり内側に入らないと、いざというときに一緒に持ち出すことが難しいのかなということもありますので、消防署さんに照会、また、知見をお聞きしながら、検討させていただきたいというふうに考えております。具体的な時期についてただいま申し上げることができませんけれども、大変貴重なご提案をいただいたというふうに考えておりますので、どういったことが可能なのか研究させていただきたいというふうに考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 鴻池君。

○11番（鴻池智子君） ありがとうございます。

三角巾につきましては、ここを覆うというだけではなく、もし対象者がけがをしていた場合は、そこは止血のときに使えるとか、腕を折ったとかというときには、こういうふうにするすとかという用途にも使えることにもなりますので、できれば三角巾の収納というものは前向きに考えていただきたいなというふうに思います。

衛生用品につきましては、先ほどの使い捨て手袋というのも入っておるというふうに聞きましたけれども、もし可能であれば除菌シート等もあればうれしいかなというふうに思うのです。それは消防隊員が皆さん来る時点で、もうちゃんと装備してゴム手をはいてきますけれども、私たち一般市民がそういう場所に立ち会った場合は、私たちは素手でその人に対応しなければいけないということもあり、常日ごろ私たちがゴム手を持参して歩くかというの、またそれもあまりちょっと考えられないことですので、できれば除菌シートまたは使い捨て、感染防止という意味からも、このところもちょっと検討していただければなというふうに思います。

あともう一つ、救命講習につきましては、今現在、本当に消防で夜、講習を毎週のように行っております。先ほど町長もおっしゃいましたけれども、かなりたくさんの方が講習を受けているのではないかとこのふうには思いますけれども、特にスポーツ関係のサークルをやっている代表者とかという人にもお声かけをしていただいたりして、救命率を上げるための周知等というの、もししていただければいいかなというふうに考えているのですけれども、ちょっとそこのお聞きしたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 総務課長・齊藤君。

○総務課長（齊藤正行君） 前段の除菌シートのお話ですけれども、町長答弁でもありましたけれども、町で設置している44台のAEDの中には、感染防止用のゴム手袋は収納しております。一応これは衛生用品ということで、使う人がゴム手袋を装着してということで収納しておりますので、お答え申し上げたいと思います。

除菌シートにつきましては、感染対策ということで、これにつきましては、今の中に入れるかどうか、ちょっと研究をさせていただきたいというふうに思っております。

それから、救急救命講習の関係でございますけれども、これまでも消防さんで積極的にやっていたというふうに思っています。民間の事業者さん、一般の事業者さん、それから例えばプールの管理者の方ですとか、PTAの方ですとか、そういった研修の場で、

統計は出していないのですけれども、かなりな件数でやられています。これはいわゆる法人格の農家さんでも、その従業員の方皆さんでということもやっていますし、高校生ですとか教職員の先生方、そういった方もかなりな数で、合計数字は出していないのですけれども、毎年行っています。ちょっとコロナの関係もありまして、ここ数年は数字が低い状況ですけれども、本町の職員も含めて、かなりの人数、機会でもって救急救命講習が開かれている状況ですので、今後、消防さんと連携させていただきながら、コロナの状況もありますけれども、多くの方にこの救急救命講習、AEDの使用も含めて、ほかの救急救命の講習会ではメニューたくさんあるというふうに伺っていますので、多くの方にこういった機会を設けていただいて、AEDの使い方ですとか、ほかの救急救命の方法ですとか、そういったことを周知、訓練していただければというふうに考えていますので、消防さんと協力しながら進めていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（菊地誠道君） 鴻池君。

○11番（鴻池智子君） では、本当に前向きに取り組んでいただけるということでちょっと安心しましたので、次の質問に移ります。

町民の外出への足の確保をということで、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、町で行っていたデマンドタクシーの利用が中止しています。町民の中には、買い物を含め外出する機会が減少したと口にする方が多くなっています。特に高齢者の方々は買い物に行けなく、宅配を使うことが多くなったとのこと。今は外出制限も緩和されてきています。町としてデマンドタクシーの再開に向けて、どのように考えているか伺います。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 11番、鴻池議員の町民の外出への足の確保をとのお尋ねについてお答えいたします。

現在、町が提供するサービスとしましては、路線バス6路線に加え、スクールバスの混乗方式により、町立病院通院者と70歳以上の高齢者の料金無料化を行っており、ご利用いただいております。

標茶市街地の循環バスにつきましては、平成29年度と30年度に路線方式、さらに令和元年度にはデマンド方式の巡回バスとして試行運行し、利用者数や満足度について調査しましたが、実施期間など課題が残ったことから、令和2年度には期間を拡大し、本格実施に向けた試験運行を実施する予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策を優先するために実施できず、今年度につきましても、試験運行に向けて準備を進めておりましたが、新型コロナワクチン接種の受け入れ業務のため、委託先の業者が運行を行えないということになりましたので、試験運行を中止いたしました。

高齢者を含む交通弱者の方々の交通手段の確保につきましては、町政執行方針にもありますように解決すべき課題と捉えており、環境が整い次第、取り組みを再開したいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

鴻池君。

○11番（鴻池智子君）　ということは、今の感染状況が収まるまでは、この運行はないというか、できないという考えなのでしょうか。

○議長（菊地誠道君）　管理課長・山崎君。

○管理課長（山崎浩樹君）　お答えいたします。

この間、委託先になるであろう業者の方とも打ち合わせをさせていただいているのですが、現状におきましては、コロナワクチンの接種の輸送をしておりますので、それに加えてこのデマンド方式を運行することはちょっと難しいと。ただ、その中でも、今後に向けてワクチンの接種のやり方が変わってきたりですとか、あるいはその中でも違った形でできることはないかということで打ち合わせを進めておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

○議長（菊地誠道君）　鴻池君。

○11番（鴻池智子君）　できれば、早めにこの運行を再開していただきたいなというふうに思っております。私が伺った中の町民の方々は、今年1年間、一度も標茶町の町のお店に買い物に行ったことがないという方もおりました。そして、せめてお正月に向けての買い物、それは自分の目で見て直接その商品を手にとって、それでお正月用品を買いたいのだと。そして、先ほども言いましたけれども、今この外出制限が大分緩和されてきているときに、なぜ自分たちはそこに、わずかちょっとしたお店に買い物に行けないのだろうかという、町民というか、年配さんの方たちの声がありました。そして、本当におかしな話、頭の先から足の先まで全て宅配で買っているということで、本当に橋から向こう側のお店からこちらのお店に渡ってきたことが今年一度もないという方もおりましたので、そういう町民の思いもぜひとも酌んでいただいて、早めの再開に向けて取り組んでいただきたい。できれば、私は1回ぐらいは年内にと考えてはいたのですけれども、そこはちょっと無理なのでしょうか。そこだけお答えをお願いしたいと思います。

○議長（菊地誠道君）　管理課長・山崎君。

○管理課長（山崎浩樹君）　お答えいたします。

高齢者の方々、それからご自分の運転の状況から免許を返納された方、状況、非常に気持ちも含めて、できれば町としてもやりたいということで進めております。しかしながら、現状は先ほど申しました状況のとおりで、なかなか事業者においては難しいということになっております。

ただ、議員おっしゃるとおり、なるべく早期に実施に向けて進んでまいりたいと思いますので、ご理解をお願いいたします。

（「では、質問を終わります」の声あり）

○議長（菊地誠道君）　以上で11番、鴻池君の一般質問を終わります。

渡邊君。

○1番（渡邊定之君）（発言席）　私は、給食費の無料化の実施時期について質問いたします。

令和4年10月2日執行の町長選挙では、両候補が「給食費の無料化」を公約に掲げました。当選を果たした佐藤町長は、選挙前の第3回定例会で給食費無料化早期実施についての質問

に対して、釧路管内の市町村状況にも触れ、給食費無料化の実施については、財源等の財政面の課題が発生しますが、管内では過半数の自治体を実施していることを踏まえ、前向きに検討すべき課題と認識しているところであると答弁されました。

現在、コロナの影響などがあり、物価高騰等で家計が大変な状況にある中、給食費無料化は一日も早く実施すべきと考えますが、その時期はいつか、町長の所見を聞きます。

財源等の財政面での課題も発生しますが、どのように財源を考えていますか。

また、無料化にすると、どの程度の支出を必要としますか。

標茶高校にも給食を提供しています。標茶高校の存在は、その貢献においても本町にとって大変重要であると考えます。管内のほかの町でも高校の給食費無料化を実施しているところもありますが、本町も高校の給食費無料化を実施してはどうですか。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 1番、渡邊議員の給食費無料化の実施時期はいつからかのご質問にお答えいたします。

1点目のお尋ねの給食費の無料化の実施時期についてでございますが、子育て世代の経済的負担をさらに軽減するために、令和5年4月から町内の小中学校の児童生徒を対象に実施できるよう進めているところでございます。

2点目のお尋ねの無料化した場合の財源と支出額についてですが、基本的にはふるさと納税を財源に充てていこうと考えています。

また、無料化に伴う支出でございますが、今後も再値上げが予定されている食料品等もありますので、現在の原材料費、児童生徒数で試算しますと2,570万円ほどでございます。

3点目のお尋ねの標茶高校の給食費無料化を実施してはどうかについてでございますが、現時点では無料化の実施は考えておりません。現在、道内179市町村のうち本町を含めてわずか34市町村の高校でのみ給食を提供している状況でありますので、給食を提供すること自体が保護者の負担軽減につながる取り組みであり、標茶高校の魅力向上に寄与し、今後の生徒数確保にもつながっていくものと期待しておりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

渡邊君。

○1番（渡邊定之君） 1点目の質問には、具体的なお答えをいただきました。この給食費の件で、コロナ禍で国からも交付金なるものが出ていると思うのですけれども、その部分というのはどの辺に充てられているのですか。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） 国からの今回コロナ関係の給付金については、例えば資材高騰によって給食費を値上げするとか、そういった場合については標茶町でも財源充当として対応していますが、来年度以降の財源について、国から交付金等については、現在、情報はございませんので、あくまでも自主財源で、先ほど申し上げたように、ふるさと納税を財源としながら、これから新年度予算の編成が始まりますので、最終的にその中で、できれば来年の5月から実施に向けて検討していきたいということでございますので、ご理解いただきたいと

思います。

○議長（菊地誠道君） 渡邊君。

○1番（渡邊定之君） すみません。今ちょっと町長の、最初、来年の4月からとお答えあったのが今5月からという。どっちがあれなのですか。最初の答弁では4月からとお答えになって、今の答弁で5月からという。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） 失礼しました。来年、令和5年の4月からを予定しています。

○議長（菊地誠道君） 渡邊君。

○1番（渡邊定之君） 高校の給食費については、ちょっとよい返事がいただけませんでしたけれども、本町にとって標茶高校の生徒さんも、非常に本町の発展のためには貴重な役割を果たしてくれているというぐあいに思いますので、ぜひこの給食費の無料化の実現のために努力していただきたいというぐあいに思います。

次の質問に移ります。

酪農危機を打開する施策を。

本町の基幹産業である酪農を含めて国産食料生産現場は、今、最大の危機を迎えています。第3回定例会でも同様の質問をしましたが、生産現場ではますます深刻な状況になってきているので再度質問します。建設的な町長の所見をお聞きしたいと思います。

1番目に、生産資材の暴騰。肥料、飼料、燃料高など。2番目に、農産物の販売価格は低迷し、生産コストが暴騰しても価格転嫁ができない。3番目に、副産物収入の激減。乳雄子牛価格の暴落。4番目に、大量の乳製品の輸入などが生産現場を直撃しています。

このような深刻な状況の中で、本町では搾乳をやめたという農家もあると聞いていますが、農家の深刻な経営実態について、どのように実態を把握しているのか伺います。

また、酪農の危機はそのまま本町の地域全体の埋没の危機となると考えますが、その影響についてお伺いいたします。

今年の11月1日のNHKでは、酪農の危機について報道していました。その中で、「国は2014年、生乳の生産基盤を強化するため、施設整備費や機械導入費を最大で半額補助する『畜産クラスター事業』を開始しました。さらに、2018年には、当時730万トン足らずだった生乳生産量を10年後までに780万トンに増やすという目標を掲げました」として、「国が呼びかけた『増産』が農家をさらに追い詰める」と報道しています。

報道にあるクラスター事業は、現在ストップしていると聞いています。このことから、町は関係団体ともよく協議し、低投入型経営や牧草を主食とした酪農経営など、時間をかけても今の酪農経営のあり方を再検討する必要があるのではないですか。

また、乳業メーカーや国に対し、この危機に際し離農するようなことがないよう、早急に働きかける必要があると考えますが、いかがですか。

以上の点について、町としても積極的に行動すべきと考えますが、当面どのようなことを考えているのか伺います。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 1番、渡邊議員の酪農危機を打開する施策をとのお尋ねにお答えします。

1点目の農家の深刻な経営実態の把握と町への影響はとのお尋ねについてですが、議員ご指摘のとおり、10月末に公表されました9月の農業生産資材価格指数は、飼料、肥料価格の高騰などで、前年同月比9.8%上昇しており、ウクライナ情勢などによる資材高騰に伴う生産者の厳しい状況が続いています。

また、11月1日から酪農家から乳業メーカーへの飲用向け生乳の販売価格が引き上げられ、道内では飲用向け乳価が1キロ当たり10円上がりましたが、加工向けが大半を占める北海道においては、実質的に農家が受ける恩恵は1キロ当たり約2円にとどまる状況であるほか、初生ホル雄相場についても、8月以降、価格が大きく低迷し、現在も相場は低く推移しており、生産資材高騰の影響を強く受けているものと推察しております。

乳製品の輸入の状況につきましては、国内の牛乳・乳製品の総供給量、生乳換算で1,234万トン、うち国産765万トン、輸入469万トンとなっており、約4割が輸入となっている状況ですが、その状況下で生産調整が行われていることは矛盾する状況ではないかと認識しており、いずれにしましても、生産現場や農業団体の経営努力のみでは対応し切れる状況ではないものと理解しております。

次に、農家の深刻な経営実態についてどのように実態を把握しているかのお尋ねについてですが、経営を続ければ続けるだけ赤字になる状況だという声も寄せられております。また、JAしべちやからの情報では、来年の営農計画を策定する時期になっているが、高齢で後継者がいないなどの農家の中には、もうやめどきだと判断する農家も出てくるのではという情報をいただいております。

コロナ禍以前より本町の搾乳農家は年々減少しておりますが、今後もこの状況が続けば、離農はさらに加速し、例えば生乳生産量は維持できたとしても、地域コミュニティーを維持することが困難となることが予想されます。また、町内には農機具メーカーや輸送業、さらには個人農家ヘルパーなど関連事業所も多く存在することから、基幹産業の酪農の衰退は本町経済全体に悪影響を及ぼすものと考えております。

2点目の低投入型経営や牧草を主食とした酪農経営のあり方の再検討をとのお尋ねについてですが、地域全体の収益性向上を目的に、クラスター事業の継続的な推進を図ってきたところではありますが、これまでも本町では放牧酪農が実践されており、飼料生産や給与、家畜排せつ物処理等において省力的で低コストな飼養管理が可能であることから、引き続き導入可能な経営体に推奨してまいりたいと思います。

また、家族経営の持続的な発展に向けて、労働負担の軽減やICT・IoT技術を活用した省力化機械導入、営農支援システムの充実、低コスト生産につながる基本技術の徹底など、生産性の向上とゆとりある畜産経営を実現する取り組みをJAなどと連携し、推進してまいりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

次に、乳業メーカーや国に対し、この危機に際し離農することがないよう早急な働きかけをとのお尋ねについてですが、今年7月の釧路管内期成会中央要望の場におきましては、酪

農経営の安定対策について要請を行っているほか、10月末に開催されました北海道町村会政策懇談会の場においても、輸入チーズのかわりに国、JA、メーカーが力を合わせ、国産原料チーズの生産拡大に取り組み、酪農家の生産意欲を持続する施策が必要であることを共有しているところであります。さらに、11月16日には、道内の酪農を基幹産業とする町村で構成される北海道酪農振興会議においても参加したところであります。

また、11月25日の臨時会で提案させていただきましたが、国の飼料高騰に伴う緊急支援事業では不足しているとの認識から、JAしべちやと連携し、経産牛1頭当たり2,800円の助成をさせていただくこととしております。

今後につきましても、酪農情勢は非常に厳しい状況が続くと思っておりますが、町として何ができるのか、何をすべきかについて、引き続き各種団体との情報交換を図る中から効果的な施策を研究してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

渡邊君。

○1番（渡邊定之君） 今、答弁の中で先般の臨時会等で予算づけしていただいた部分もありますけれども、今後、さまざまな形で農家経営の悪化が懸念されるわけですが、その際においても予算を伴う対策を講じる考えはありますか。

○議長（菊地誠道君） 農林課長・村山君。

○農林課長（村山 尚君） 担当課のほうからお答えしたいと思います。

まずは、さきに開かれた臨時会での支援の内容につきましては、その場でご説明させていただきましたので、詳細についての説明は省略させていただきますが、今後の支援というところで、どのようなことを考えているかということでございしましたが、今回、肥料ですとか、あるいは飼料の高騰に対して、まずは町としては、やはり本町は広大な面積の草地を有しておりますので、これまで以上にその草地、生産基盤を活用することが重要であると認識しております。

議員ご指摘のとおり、今般の情勢を受けた対応の中で、短期的な緊急対策につきましては、まずは国や道が主導して支援策を講じるべきと考える一方で、中長期的な対策につきましては、草地更新や土壌分析に基づく適切な製品など、自給飼料の品質向上及び生産向上に取り組むなど酪農家の自助努力も必要と考えているところでございます。

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） 今、担当課長から答弁をさせていただきましたけれども、特に予算を伴うという部分についてお答えをさせていただきたいと思っております。

この間、関係団体とも、どのような支援が必要かという点について相談をさせてもらってきております。その中で、先ほど来出ております、国の飼料対策に上乗せをする支援ということ JAさんと一緒に取り組むということで、まず決定をしております。

この先の悪化につきましては、状況を見ながら、あるいは財源等を十分検討しながらということにはなると思いますが、本町基幹産業の苦境について、できる手を打っていく、そういう必要があったときには当然予算を伴う措置についても検討、実行する、そういう考

えは持っておりますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（菊地誠道君） 渡邊君。

○1番（渡邊定之君） この危機を乗り越えるのに、とにかく一番必要な対策というのは、農業生産基盤を支える財政出動が重要だというぐあいに、新聞の記事で記載されているのも読みました。それとあわせて、ガット・ウルグアイ・ラウンドの時代に、大きな予算を伴って農業を守ろうというような大きな運動になっていったわけでありませけれども、今回のこの事態に際し、それぞれの団体等があるのですけれども、その団体との横の連絡といいますか、そういうものの体制はできているのでしょうか。

○議長（菊地誠道君） 農林課長・村山君。

○農林課長（村山 尚君） 関係機関の横との連携にかかわるご質問だったと思いますが、本町にも酪農振興会議という会議がございます。JAを初めとする関係機関、例えば乳業メーカーさんですとか、あとは普及センターさん、それにNOSA Iさん等で組織している酪農振興会議というものがあるのですけれども、そちらの中でも今回の情勢にかかわる情報交換については綿密に行っているところでございます。

○議長（菊地誠道君） 渡邊君。

○1番（渡邊定之君） 本当に日本全体、酪農家にとっても酪農の団体、その現場で営農を続ける私たちにとっても、非常に危機的な状況であるということをテレビでも新聞でも報道していますし、これを乗り切るためにやっぱり地方自治の力、町長を先頭として、何としても標茶の酪農を守るために力を注いでいただきたいということをお願いし、質問を終わりたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 農林課長・村山君。

○農林課長（村山 尚君） 先ほどのお答えした中で、組織の名前を「酪農振興会議」と、僕、説明しましたが、正しくは「農業振興会議」の間違いですので、訂正させていただきます。

○議長（菊地誠道君） 以上で1番、渡邊君の一般質問を終わります。

櫻井君。

○2番（櫻井一隆君）（発言席） まず、町長に答弁を求めます。

質問の内容でございます。「憩の家かや沼」の開業及び排水計画についてお伺いしたい。

質問の内容でございます。建物が完成して約1か月が経過しましたが、来年度の営業に向けて準備は予定どおり進んでおりますか。既に11.6億円以上の金を投入し建設したからには、もう後戻りは許されない状況にあります。前に進むしかないと思うのであります。町は、標茶町民の財産として責任を持って維持管理に努めなければならないと。しかしながら、現状を見ると、まさに「仏作って魂入れず」であると私は痛感いたします。そのようにならないためには、町は、ここが大事なのです、町は、議会と町民に現状をありのままに、ありのままに説明をして、理解と協力をしていただくよう努力する必要があると思います。それについて、以下について質問をいたしたいと、このように思います。

まず、1つ目です。施設の排水はどのような計画になりますか。地権者との折衝の結果は

どうなったのか、お伺いしたい。

2つ目でございます。シラルトロ湖の水質調査を環境コンサルタント会社に依頼し、実施したと思いますが、シラルトロ湖も温泉水を排水する選択肢の一つと考えておられるのか、お伺いいたします。

施設が完成して1か月がたちましたが、維持管理費は幾らほどになりましたでしょうか。また、これ以外についてもちょっと質問したいと思います。

4番目でございます。運営団体である永寿優企画から、4社のうち2社が辞退したいという話があったと思いますが、間違いはないですか。また、それ以上に増えましたか。辞退の理由については何でしょうか。お伺いいたします。

5番目、町長は、今でも来年6月に営業を開始できると思っておられますか。さらに延びるのではないのでしょうか。具体的に説明を求めたいと、このような内容でございます。

よろしく答弁をお願いいたします。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 2番、櫻井議員の憩の家かや沼の開業及び排水計画について伺うのお尋ねにお答えいたします。

1点目の排水計画、地権者との折衝の結果のお尋ねですが、既存の排水経路の利用のほか、新たな排水経路の確保について検討しているところです。既存の排水路の利用に当たり必要な地権者との折衝については結論に至らず、引き続き重ねてまいりたいと考えております。

2点目のシラルトロ湖への排水も選択肢として考えているのかのお尋ねですが、排水先を検討する中で選択肢のうちの一つとして考えておりますが、現状の排水先の交渉を優先したいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

3点目の維持管理費は幾らになったかのお尋ねですが、今後、開業までにかかる経費といたしましては、消防設備、24時間換気、監視カメラ、機械警備の稼働電気代として月額3万円程度を見込んでおり、現在、無人であることから機械警備を委託しており、その業務委託が月額3万800円となっております。また、11月2日の全員協議会でお示ししておりますが、施設運用開始前に給水設備、給湯設備、温泉設備の試運転調整費として概算で650万円。運用後に浄化槽設備保守点検、消防設備点検、電気保安点検、自動ドア保守点検、給湯設備点検、暖房設備点検、エレベーター保守点検等の各種保守点検料が、概算ですが毎年470万円程度。周辺施設の草刈り、ごみ拾い等の環境整備費が45万円程度となっております。

4点目の永寿優企画から2社が辞退し、その理由は何かとお尋ねですが、ご指摘のあった構成員の変更ではなく、12月2日付で指定管理者の辞退届の提出を受けております。理由につきましては、今後の対応ともかかわることから、別途説明の機会を設けさせていただきたいと考えておりますので、ご理解願います。

5点目の来年6月に営業開始できるか、さらに延びるのではないかのお尋ねですが、現在、排水先を検討しているところであり、地権者との交渉が不調に終わった際には新たに排水経路の確保が必要となることから、先ほど申し上げた指定管理者の辞退を受けて、改めて指定管理者の選定作業が必要になってくるので、来年6月の営業開始は非常に厳しい状況にある

と考えております。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） ここにだらだらと5点並べてしまったので、大事なことなので、一つ一つ私は確認をしながら進めたいと思います。

まず1番目の項目、この排水施設、どのような計画になっているかということでございますが、以前に町は、シラルトロ湖に関して調査いたしましたよね、水質調査。その結果について、シラルトロ湖も排水路の一部に考えておられるのかなと思って伺うのですが、シラルトロ湖の水質についてはどのような結果になったのか、どのような認識を持っておられるのか、ちょっとお伺いしたいのですが。

もっとさらに詳しく言いましょうか。シラルトロ湖の調査、これについては以前に、9月に調査依頼して、結果が5日ぐらいかな、出てきていると思うのですよ。それで、シラルトロ湖を3分割して、深いところは上と下、2点ですね。それを2か所、浅いところは上の部分だけ1か所と、こういう調査をしたはずなのですよ。それで、その結果を皆さんお持ちでしょうから、何も隠すことないですから、ざっくばらんにお話し願いたい。まず、そこからちょっといきたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 観光商工課長・三船君。

○観光商工課長（三船英之君） シラルトロ湖の水質調査の関係でお答えをさせていただきます。

今回、調査、現状のシラルトロ湖の水質を確認したいということで、観光商工課のほうで発注いたしまして、8月26日に実施しております。調査項目でございますけれども、「生活環境の保全に関する環境基準」として環境省が湖沼に設定している項目ということで、pH、COD、SS、DO、大腸菌群数、全窒素、全リン、この7項目に加えまして、塩化物イオンとクロロフィルの2項目を追加して全部で9項目実施しております。実施した場所ですが、議員おっしゃるとおり、北部と中央部と南部、それぞれ3か所から取ってございます。表層部分と低層部分でやっている状況でございますが、検査の結果なのですが、検査を実施した事業者から近隣の湖の値も参考ということでいただいて比較したところが、全部が悪いわけではないのですけれども、特にひどいのは、CODの値がほかの湖と比べると数値が高かったということで、汚れているのかなというふうには認識しているところでございます。

○議長（菊地誠道君） 櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） CODとかDOとかSSとか、いろいろ専門用語で言っても、我々昭和の人間はなかなか理解できないのですよ。それで、なるべく私は専門用語を使わないでお話ししたいと思うのですが、まずCODというのは化学的酸素の要求量と、こういうことですね。それから、DOというのは溶存酸素量と、SSというのは水の中に浮かんでいるごみというようなことです。

そういうことで理解して聞いていただきたいのですが、結局このシラルトロ湖というのは非常に水質が悪いと。アオコも発生し、そして水の華といいますか、藻類が大量発生いたす

懸念があると。そういうところですから、こういうところにさらなる環境負荷を与えるということはいかなものかなと。ですから、なるべくならば、このシラルトロ湖について、調査したのはいいですけども、ワカサギもちょっとすめないような、全窒素ですか、それからいったら0.6ミリグラム・パー・リットル以下、そういう悪い水質なものですから、ワカサギもちょっとせつないなど、そういうところですから、まずその結論を出すのは早いですけれども、シラルトロ湖についてはちょっと横に置いておいて、次のことに入っていったほうが、選択肢を選んだほうがいいのではないかと私は思うわけです。町長はどう思いますか。

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） お答えいたします。

今の段階で、放水先の選択肢からは除外していないという趣旨の答弁をさせていただいております。ただ、やはり前提条件としては、櫻井議員おっしゃるように、現状の水質よりも数値として悪いものについては、環境保全を大切にしてきた本町の姿勢を立場として考えるのであれば、なかなか難しいのかな。そういう意味では、検討している浄化方法等の中でコストパフォーマンス的にも合致して、なおかつ水質の浄化結果が今の湖の水質よりも良好な結果が得られるものがもしあるとすれば、再度検討に値するのかなというふうには思っておりますけれども、現実問題はかなり厳しさがあるのかなというふうには思っております。水質調査をしたからといって湖に出すことを考えているとか、そういう短絡的なものではなくて、まず現状、湖がどういうものなのかを押さえておきましょうというところで、やらせてもらったところであります。

ご指摘のように、湖以外のところで考えたほうがいいのではないかと、今はまずそういう方向で、現在の排出先との交渉をまずこの先も続けていきたい、それから、それ以外の新たな排水路についても検討しているというところでありますので、ご理解いただきたいというふうに思います。

○議長（菊地誠道君） 櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） シラルトロ湖はあくまでも選択肢の一つとして横に置いておくけれども、排除はしないということになりました。

それで、3番目の維持経費、これについてお話をしたいと思うのですね。

これは、今、電気代とかそういうものを含めて、実際に営業していけばいろいろな保守点検その他、結構かかるよという話ですが、現時点での話をしますと、実は数日前、夜に行ってきたのですよ。それで、ある業者が今、外装工事をやっているところだったのですが、その業者が、雨の中行ってみたら、まだ仕事もやっていました。それで、言うには、いろいろな人が来るのだと。建物がどこまでできたか、そういうことで見たこともない人が常に多く来ると。でも、私が行ったのは6時過ぎ、7時近かったものですから、建物があって、真っ暗なのですよ、奥のほうが。中には確かに町が設置したのですが、誘導灯、これは法律で定められていますから、こっちに逃げるのだよというような誘導灯がありました。中には、その人の話によると監視カメラもつけていると。こういうことなのですが、そこはいいですよ。ただ、街路灯も防犯灯もないと。それで、監視カメラがあっても、センサーは働いて

も、火をつけられたり物を盗まれたり、そういうときにジリジリと鳴って駆けつけるまでに20分、30分かかると。そうしたら十分な保守管理ができていないのではないのかと、安全対策できていないのではないかと私は思ったのですよ。できることも、これは予算の関係もあるでしょうけれども、何とか施設を管理するような警備会社とか、そういうところを委託はできないものか、そうして町の大事な町民の財産であるそういうものを守るような処置はできないものか、そこはどうでしょう、至急できますかね。お伺いしたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） お答えいたします。

以前の建物のとき、公社が破産をして経営を中断したころだったと思うのですが、そのときにも保守管理といいますか、警備のことについてご質問いただいた記憶があります。いろいろな、いろいろなというか、人を配置して警備をするのか、あるいは今のように機械による警備をするのかというところ、選択肢があったわけですが、機械警備の選択をそのときもたしかさせてもらったということでもあります。今現在実施しているのがそのときと同じ機械警備なのですが、ご指摘のように前回とちょっと環境が違うのは、外の照明が外構整備で整えられるというところのほうですので、指摘のように今行っても暗いというところは、ちょっと違っているのかなというような気もいたしております。ちょっと現状を再度確認させてもらって、皆様からご心配されないような形をどのようにできるか、検討させてもらいたいなというふうに思っております。

○議長（菊地誠道君） 櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） しつこいようですけれども、私は現場に何回も行っているわけです。そして、今、牛崎副町長がおっしゃった街路灯というのは、はるかかなたというかな、入り口のほうにあるわけです。僕が言っている街路灯というのは、施設周りのそういう防犯上の明かりをともしはどうかということなのです。無人において、そのまま放置しておくことは危ないのではないかと。今の業者、前を整備している会社は来年の2月20日かそこらがたしか期限だということですから、恐らくこのまま進めば1月中には終わるのではないかと。したがって、撤退するということですから、今はそういう事務所があるから明かりはついてはいるのですが、それがなくなると全くの真っ暗闇と。それで、その業者いわく、いや、実はねと、作業用に置いておいた車のバックミラーが割られたのよと、そういう被害も実際あったのだと。だから、このまま置いておくのはちょっと危険だよと。これから冬が来て除雪はどうするのだろうか。何かあったときに消防も駆けつけられないような状態で置けませんでしようから、当然除雪もせんとならないでしょう。そうすると人も入りますよね。だから、そういうこと、先々のことを心配しながら、いかがなものかと、こういうお話をさせてもらっているわけです。どうでしょう、どのような答弁をもらえますか。誰でもいいですよ。

議長、暫時休憩とってください。いいですよ。

○議長（菊地誠道君） もうちょっと待ってください。すぐ出ないの。

休憩いたします。

休憩 午後 2時58分

再開 午後 3時05分

○議長（菊地誠道君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） お答えいたします。

まず、除雪の関係なのですが、道道からその先、シラルトロ自然情報館までは、冬期間、自然やSLの写真を撮る観光客の方等がおられましたので、これまでも除雪をしております。これからもその予定でありますので、今の建物の前の人の流れは想定されるわけでありませす。

ご指摘のように、防犯対策上の照明の設置についてなのですが、既存の建物、それから外構の計画の中では建物に照明を照らすというものがあるのですが、まだそれができておりませんので、手法として物が無い状態であります。ご指摘にあったように、防犯対策上、何らかの明かりが必要だというふうに考えられますので、こういった方法で対策がとれるのかお伺いしたところ、まだ今、業者がいる状況でありますので、不在になる前に手法等を確立して実施をするような方向で考えたいというふうに思っておりますので、ご理解いただきたいと思ひます。

○議長（菊地誠道君） 櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） 大事なものは、町民の財産である憩の家というのか、建物であるということなのです。だから、それを町の責任においてしっかり守ろうねと。だから、設計では、建物をライトアップする、そういう施設、電気工事のときに設置しましたよね。30センチなのを1メートルの高さにしてライトアップすると、それはわかっているのです、私も。ですけれども、その前の話ですからね。どうかひとつ私の気持ちもしんしゃくしながら防犯対策に努めていただきたいと、こう思ひます。よろしくお願ひいたします。

それで、議長、いいですか。はい。

一番頭が痛い4番目の、運営団体のことについてお伺ひいたします。

これでもう一度伺ひますが、永寿優企画から2日の日、どのような書類が上がりまして、ちょっと聞き忘れたので、もう一回尋ねます。

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） お答えいたします。

表題は辞退届というふうになっております、辞退ですね。茅沼地区観光宿泊施設の指定管理に関して管理指定を辞退いたしますという、そういう文面でいただいております。

これに関しましては、指定管理の制度上、こういった辞退に関しては私ども町と、それから指定管理者の間で協議を行い決定するというふうになっておりまして、この辞退届の提出で協議の開始という考え方をして受理したところでありませす。

（「聞こえない」「もう少し大きい声で言つて。聞こえないわ」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） 聞こえないですか。

すみません、今ちょっと言い方に間違いがありました。辞退届という書面をいただきました。それで、内容も確認させてもらいながら受理をさせていただきました。

○議長（菊地誠道君） 櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） まさか辞退届が出るとは自分も思っていなかったのですが、辞退届が出た以上、今後どのようにするか、これまた大きな問題になりますよね。

それで、先走ってしまうかしらんけれども、もう時間がないので、はっきりとリセットし直すと。町内だけに限りまた参加者を募集しようとするのか、あるいは町外も含めて選考していくのか、そういうことも含めてこれから協議されていったらどうかと私から提案したいと思うのですが、町長のお考えはどうですか。あくまでも町内を軸に選考していくと、企業を募集していくということでしょうか。

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） お答えいたします。

辞退届を先週金曜日にいただいて、多少時間はあるのですけれども、この先の見通しについて確たる結論までは至っておりませんが、この先、これまでもお答えしているとおり、指定管理者が撤退等をしたときどうするのだという似たような質問を受けたときには、再度公募選定をしていくというお話をさせてもらっております。今回、まさしくそのような状態でありまして、改めて公募選定という作業をしなければいけないのですけれども、今の段階では、そのときに地域の条件については設けることはできないのではないかとこのように考えているところであります。

○議長（菊地誠道君） 櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） 昨日今日の話で、町としても動揺していることはわかるのですよ。ですから、この件については可及的速やかに方向づけを出してスタートすると、こういうことでお願いしたい、こう思います。

5番目になるのですけれども、6月に営業できるかということを確認したわけですが、僕は、実は昨日、おとといか、茅沼の谷地をずっと歩いてきました。それで、大きな明渠もわかってきました。その明渠は、鉏路川の蛇行化したところに直接流れ込んでいるということも確認してきました。それを何とか使えればなと思ったのですけれども、誰の土地だかわからないので確認だけということなのですが、流すとしたらその鉏路川に出ている、これは環境省の所管になりますから、各省庁とよく話しして、そういう排水路も選択肢の一つ、あるいはそこらをうまく利用できるか、そこらも考えていただきたいと、こう思って現地を見してきました。現地報告ということですね。そのとき感じたのは、その管を利用するのだったら、これは老婆心から言うのですけれども、鉏路川に直接、大きな黒いパイプで出ているわけです。ですから、鉏路川の水位が上がると逆流してその管に入ってくるという、そういう自然現象が起きると。行ったり来たりですね。そういうこともあるので、ひとつ何か、そういううまい方法があったときには、そういうことも参考にしながら考えてみていただきたい。

ですから、そういう谷地を掘削するとなれば、これから、今はしばれていますから谷地を渡ることも川を渡ることも僕はできたのですけれども、春になると、もう長靴を履いても埋まるような状況ですから、これはやっぱり1年、1年半はかかるのではないかと思うのですよ。ですから、もう最善の策をつくるためには、どうしてもそういう時間が必要だと、どうしてもタイムロス、思ったようにいかないと。タイムロスが生じる。そういうふうには、町長、あまり慌てないで、これ、長い目でやっていきましょうや。少々遅れたって、潰すわけにはいかないのですから。そういうことでお願いしたいなと、こう思います。町長、何か言うことありますか。

(何事か言う声あり)

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） 櫻井議員から、元気をつけられたというか、応援をいただいたのかなと思うのですけれども、かや沼については、本当に私、町長になってすぐ公社の経営状況が悪化して、公社を閉じなければならぬ、そういう状況になって、さらに環境が整って再開まで、建物の改修までこぎ着け、ようやくここまで来た。非常に、町長になってから4年間、ずっとかや沼のことがテーマにあった、そんな4年間だったと思っていますが、ここに来てまたさらにいろいろな課題が登場していますので、それらをやはりしっかり解決しながら、これから未来永劫、しっかりかや沼が安心して営業できる、町民の皆さんに利用できるような形の施設を皆さんと、皆さんのご協力、ご支援いただきながら、情報をいただきながら、道筋をしっかりとつくっていききたいと、そんなふうに思っていますので引き続きご支援をお願いしたい、そんなふうに思っていますので、よろしくをお願いします。

○議長（菊地誠道君） 櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） それでは、今、町長の前向きな答弁をいただいたところで、2つ目の問いに進めさせていただきたいと思います。

2つ目は、クリーンセンターについてお聞きしたいという項目であります。

質問の内容は、施設内にある町のパッカー車は、もう既に30年が過ぎ、老朽化が進み、傷んでいます。来年度の予算化をして更新してはどうかというお話。

それから、2つ目は、同施設内に設置されているペットボトルと空き缶の圧縮機、これもかなり古いもので部品もなく、もしくは生産中止となっているものもあります。これも早急に更新すべきでないかという提案でございます。

3つ目は、グラスウールや石膏ボード、この外壁材、内壁もそうですけれども、そういう石膏ボード等が建築廃材、これがバッグ、これはフレコンバッグとかいろいろな言い方があるみたいで、ここではバッグとしか表示していませんが、そういう大きな工業用バッグに入って放置されているのですよ。今、ご承知のとおりしばれてきています。下が凍りついたフレコンバッグを持ち上げると、弱いですから抜けてしまう。だから、早くこれは町の責任において撤去してください。これはクリーンセンターに置けるものではないということです、少々金がかかっても速やかに撤去をお願いしたい、こういうお話でございます。

以上です。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 2番、櫻井議員のクリーンセンターについて問いたいとお尋ねにお答えいたします。

1点目の老朽化が進んでいるパッカー車を来年度予算化し更新してはどうか、及び2点目のペットボトルと空き缶の圧縮機を更新すべきではないかのご質問ですが、クリーンセンター内で使用している車両及び圧縮機の機材は複数あり、日々のごみ処理作業に使用しており、議員ご指摘のとおり、相当の年数を経過しているものもありますが、現状では修理、補修を行いながら使用している状況にあります。

更新についてですが、車両及び機材等はどれも高額であり、基本的には使用できるものについては修理を行いながら使用し、緊急度、利用頻度の高いものから計画的に更新を図っている状況にあります。現在作業中の新年度予算案におきましても、限られた財源の中で緊急度や利用頻度を鑑み、現場の意見も十分に酌み取った上で更新を図ってまいりたいと考えております。

また、繰り返しになりますが、相当の年数を経過している機材も多いことから、日々のごみ処理作業に支障が出ないように、更新年度を早められるよう購入以外での運用方法も含め検討してまいりますので、ご理解をお願いいたします。

3点目のグラスウールや石膏ボード等の建築廃材を速やかに撤去処分することを望むのご質問ですが、クリーンセンター内で保管しているグラスウールや石膏ボードにつきましては、災害や火災などにより緊急的に受け入れたものであり、本町最終処分場では処理できないことから、一定程度ため置きした後、釧路市の処分事業所に引き取っていただき処分することとしております。議員ご指摘のとおり、現状、一定程度の量となっておりますので、今後、処分を進めるよう考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） 今、町長の答弁にありましたが、限られた財源ということで、町財政、大変なことはわかっていますが、ただ、現場が非常に困っておると。例えば平ボディー、これは4トン車なのですけれども、初年度登録で言うと平成5年6月なのです。それから、今、僕が指摘したパッカー車、これについても初年度登録は平成5年7月と。平ボディーについては、運転席の外側がもう腐って穴があいてきているという状況にあります。それから、パッカー車については、底の部分が何回も穴があいて、どこが親分だか子分だかわからないぐらい溶接に溶接を重ねていると。そういう、もうかなり努力して使っているという車ですので、何とかこれ、現場をもう一度確かめながら前向きに対処してあげてほしいと。

それと、もう一つお願いしたいのは、2点目のペットボトルと空き缶の圧縮機なのですが、厚岸の処理場にも行ってきました。やはり厚岸も、機種は違うのですけれども、同じように古くなって部品も来ないのだということを訴えていました。ですから、あれから何年とたつのですけれども、機械も相当よくなってきていると思うのですけれども、価格も高くなってきているということも含めて、何かリースであるとか何とか、そういうような方法、ある

いは中古でもいいですから、使って補っていただきたいと。なぜそういうことを言うかというのと、ペットボトルなんか、リサイクル法に基づいて、物すごく今、不足していますし、カーボンゼロで高値取引になっています。釧路市なんかも、そういう筆頭のところに挙がってきているのですね。ですから、そういうものを参考に、皆さんもお勉強されていると思うので、速やかにそういうことの検討に入っていただきたい、こういうふうに思います。

何か、お願いしてよろしいですか。

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） お答えいたします。

先ほど町長が答弁したとおり、優先順位を決めながら更新していくということが基本なのですが、かなりどれもこれも古い状態で、いつ壊れるかわからない状況にあるということも聞いておりますので、できるだけ早く、可能であれば単年度に複数のものでできればいいなとは思っているのですけれども、それに向けて、導入のいろいろな方法とか、あるいは補助金、交付金等の財源になるものがないかどうかとか、その辺、今、調べさせているところでありますので、考え方としては議員のご指摘のとおり、ごみ処理作業が滞ることがないように進めてまいりたいというふうに考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） それでは、最後のところにまいりたいと思います。もう3時半ですね、急ぎます。

3番目の質問は、水道基本料金の年度内無料化をしていただけないかなと、こういうお願いです。

10月の全国消費者物価指数は、前年同月比103.4%の上昇となっております。

（何事か言う声あり）

○2番（櫻井一隆君） 議長、進めていいですか。道内においては、全国最高の104.4%となっております。町も、以前は各家庭に生活支援策として食品応援チケット等を配布していることがありますが、これから本格的な冬を迎えるに当たり、当町は生活物資の高騰のあおりを受けて、少しでも負担軽減をする意味において、目に見える形で全世帯に、ああ、こういうことを町がやってくれたのだということを示す意味においても、上水及び簡易水道の基本料金を年度内だけでもいいですから無料化の方向を検討していただきたいと、こういうことでございます。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 2番、櫻井議員の水道基本料金の年度内無料化をすべきではないかのお尋ねにお答えいたします。

ご案内のとおり、本年度、コロナ禍において原油価格や電気、ガス料金を含む物価の高騰の影響を受けた生活者や事業者の負担の軽減を目的として、第2回定例会において関連する補正予算の議決をいただき、国の地方創生臨時交付金を活用し、町民が利用できる商品券と牛乳贈答券をあわせて1人6,000円分をお配りしているところです。全ての町民へ支援を届けることに加え、町内消費の拡大、牛乳の消費拡大とあわせて町内の好循環が期待できる方法

として進めてまいりました。

10月末現在の本町の世帯数は3,671世帯で、そのうち直近3か月平均の上水道利用者2,187件、簡易水道利用者1,004件、合わせて3,191件で水道水の供給を行っております。差し引きしますと480世帯の方が、それ以外の方法で生活用水を確保されている世帯ということになります。豊富な水資源に恵まれた本町は、水道用水として掘り抜き井戸を利用する世帯のほうが多いという地域の特性があることから、水道料に限定するより、ご家庭の固定費の負担軽減にひとしく公平にということで実施したところであります。

上水道、簡易水道の基本料金を年度内だけでも無料化にしてはどうかのお尋ねですが、各世帯への個別支援の考え方としては前段申し上げたとおりでございますので、現時点で残りの年度内およそ3か月分になろうかと思いますが、水道料金分に特化した無料化は考えておりませんが、今後の情勢により、引き続き幅広い選択肢の中から町民に寄り添った支援について、国の交付金も見据えながら研究してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） 実際に、自分のところでボーリングして自噴させているという世帯が400世帯近いということは自分も承知しております。地域的には、虹別の一部、磯分内、あるいはルラン、この鉏路川水系に近いところは、ここは昔から揚水機も使いながら、二、三十メートルで水が出ますから自噴しているのですよ。ですから、みんな一律に上水道、下水道を使ってくればいいのですけれども、そういう昔からのことで、そういう自然の恵みを甘受しているところというかな、そういうところはあるのです。それはわかっていた上で、何とかそういう自然の恵みを甘受できない一般の家庭に、温かい手を差し伸べていただけないかなと。大変なご苦勞をなさると思うので、広くあまねく公平にとという言葉がありますけれども、そこをまげてとは言わないけれども、次年度においてでも何か、国からのいい支援策でもあれば、そこらも含めて検討していただきたいと、まげてお願い申し上げます。

私の質問は以上です。別に答弁は要らんですわ。もう答弁したって同じことの繰り返しになるでしょう。

（「変わらない」の声あり）

○2番（櫻井一隆君） では、そういうことで、もう時間も押していますので失礼します。

○議長（菊地誠道君） 以上で2番、櫻井君の一般質問を終わります。

鈴木君。

○6番（鈴木裕美君）（発言席） 2点について、通告に従いましてお伺いをいたしたいというふうに思いますが、やすらぎ園の早期充実についてを、まずもって伺います。

佐藤町長は、「もっと元気なしべちゃへ！」をうたい、2期目のスタートをいたしました。町長は、選挙の際、町政に当たる基本方針として、1つ、町民が主役の公平でわかりやすい行政の推進、2つ、環境循環型の元気なまちづくりを目指す、3つ目、元気で創造性豊かな標茶を育むまちづくりを目指すと掲げて、主要な重点政策5点の一つに、安全・安心な暮ら

しを守るため、やすらぎ園の今後のあり方を検討し改築を推進しますと掲げております。

また、このたびの町政執行方針でも多くの課題に取り組むことも明らかにしておりますが、町長がまず最優先課題として取り組む事業は何を考えているのかをお伺いいたします。

本町の人口は、先月11月末では7,182人、65歳以上の人口2,565人、そして高齢化率35.7%、そしてやすらぎ園の待機者は今現在63名になっておりまして、また、さらに職員の要員不足で入所者100床がいつになれば満床になるのか、それらを考えたとき、やすらぎ園の課題を私は最優先に取り組むべきだと考えておりますが、いかがでしょうか。まずお伺いをいたします。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 6番、鈴木議員のやすらぎ園の充実に早急に取り組むべきとのお尋ねにお答えいたします。

お尋ねの1点目、最優先課題として取り組む事業は何を考えているのかについてですが、現在、新型コロナウイルス感染症を初め、ロシアのウクライナ侵攻、円安などにより、エネルギーを初めとするさまざまな生産資材の物価高騰など、酪農・畜産は大変な状況にありますので、まずは関係機関、関係団体と協力しながら、しっかりと支援をしていきたいと考えています。また、並行して町民の生活を守るための経済対策についても、継続して取り組んでまいりたいと考えております。

その上で、議員のご案内のとおり、5つの柱、28項目の公約については、やすらぎ園の改築を含めて、どれもスピード感を持って取り組むべき課題であると認識しております。既に公約で掲げている全ての事業を対象に、関係する課とヒアリングを行い、早期の実現に向けて進めるよう指示したところでありますので、ご理解を願います。

次に、やすらぎ園の充実に早急に取り組むべきとのお尋ねですが、やすらぎ園の現状につきましては、施設の老朽化や介護職員の不足などが喫緊の課題となっておりますが、特に入所定員につきましては、現状の介護職員でこれまでどおり安全・安心で安定的な介護サービスを提供していくため、100名を80名に制限していることはご案内のとおりであります。介護職員の確保につきましては、これまでも町の広報紙やホームページを初め、折り込みチラシ、ハローワークの求人情報を活用するなど人材確保に取り組んできたところですが、残念ながら、いまだ充足するまでには至っておりませんので、引き続き人材確保に努めてまいります。

待機者につきましては、12月1日現在で63名となっておりますが、待機者全員が即入園を希望しているとは限らず、入園の順番が来ても、もう少し在宅で生活したいなどの理由で入園を辞退される方もおります。また、家族の方が病気等で介護が困難になるなど緊急の場合は優先的に入園していただく対応をとっております。なお、直近の2か月で7名の方が入園し、今後3名の方が入園予定となっておりますが、そのうち入園申請から実際の入園まで最も早い方が1か月以内、数か月以上の方が入園申請後半年から1年以上で入園されているのが実態であります。

やすらぎ園につきましては、ご指摘いただいた私の選挙公約や施政方針でも述べておりますとおり、将来人口や今後の高齢者の推移を見据え、改修計画を含む今後のあり方について

総合的に検討してまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

鈴木君。

○6番（鈴木裕美君） 自分も町長の答弁に十分理解をいたしておりますが、いたしておりますが、今、町長が述べられた、1か月以内で入る方もいるし、せいぜい1年待たずで入られているという状況も承知はしておりますが、私としては、やはり家族の苦労を考えたときに、やすらぎ園問題というのは最重要課題だなというふうに思いまして、取り上げてみました。

そして、さらに昨年の12月定例会において、厚生文教委員会が所管事務調査で報告をしております。委員会の所見では、職員の定数は決まっているが、入所希望者が相当数いることから、職員定数を変えてでも定員を維持するべきであり、そのための手だてを早急に検討すべきと所見で述べております。確かに、待機者63名というのは、他の施設に入られていて、在宅での療養生活をされている方というのは少ないかもしれませんが、他町村で療養されている方ではなくて、地元でやはり家族のそばで暮らしたいという状況の中では、早急な取り組みをしていかなければならないのではないかなというふうに私は思います。

介護度につきましても、63名中、3が36名、4が16名、5が11名おりますね。そういう状況を見たときに、介護度5の方々というのは本当に在宅で療養するというのは難しいことで、他の施設を選んで療養されているのではないかなというふうにも感じておりますが、ぜひ、人口の推移を見ていかなければならないことも十分に理解をいたしますが、本町でいつまでも暮らしていきたいという思い、そういう住民の思いを酌み取り、やっぱり先ほど指示をしたということですが、早急に考えていただきたいというふうに思いますので、もう一度伺いたいというふうに思います。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） 先ほども答弁したとおり、状況については十分私も把握していますし、以前、やすらぎ園の福祉担当の課長をやっていたときもございますので、介護の、例えばやすらぎ園の入居者の会議にも出ていたこともあります。ただ、その中では、やはり今、待機者が63名というのが出ていますけれども、なかなか声をかけても次入らないという方が結構いらっしゃるというのも事実でありますし、いろいろな状況があるのかなというふうに思っています。

それと、もう一つは、町外の施設を利用されている方が三十数名いらっしゃるということも皆さんご理解していると思うのですが、その方にアンケートをとった結果も、私、今年の9月ぐらいに見せてもらったのですけれども、実は地域によっては、家族が例えば釧路市内、釧路町に住んでいる方とか、虹別に住んでいる方なんかは、弟子屈に入っている、実は改めてやすらぎ園を望みませんよ、要するに距離的な問題で実はそちらのほうが近かったり便利だよということも含めて、やはり標茶町だけで、やすらぎ園だけで完結するのではなくて、民間の施設、近隣の施設、さまざまな条件がありますので、それらも総体的に考えながら、今後、標茶のやすらぎ園のあり方もしっかり考えていきたい、その中で町民の皆さんが困ら

ないことをしっかり考えていきたいと思っていますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 鈴木君。

○6番（鈴木裕美君） 町長の言うことも十分理解をいたします。

1点だけ、職員の確保について、たびたび広報紙等に、やすらぎ園も含めてほかの部署もそうなのですが、職員の募集についてのチラシが入ってきておりますが、本当になぜ職員が集まらないのだろうというふうに正直に感じております。民間も、最近また本町の中の民間のところでも要員不足で募集をかけているのですが、民間よりはと言ったら語弊がありますか、町の公の施設というのは、労働条件も含めてやっぱり働きやすい環境にあるはずだと私は思っております。ちょっと語弊があるかな。ちょっと言い過ぎだと思えば撤回をいたしたいというふうに思うのですが、そういう意味から、よくやめる方がいるとか、いろいろなことを聞かされますけれども、単なる募集をかけるだけで私は来ないのではないかというふうに思っております。そういう意味では、本当に皆さん、庁舎内も含めて、園だけに任せるのではなくて、庁舎内全てが要員不足に関しての議論をしっかりとしながら、そしてましてや人の命を預かっている職場ですから、手厚い体制、処遇改善をしてあげるべきだというふうに思うのです。職員定数の問題もありますし、厚生文教委員会の所管で取り上げておりましたけれども、やっぱりそここのところというのは待遇改善がまず第一ではないかなというふうに私は感じております。

ただ、残念なことに、町長がある席で、映画の席といたしましたかな、希望があるけれども、そのことによって介護保険料が上がるのだというご挨拶をされたというふうに、私はその映画を見に行けなかったものですから、人から伺って、そのようなことがあるけれども、町民は介護保険料が上がるということをあまりよく理解されていないのですね。と私は思いました、そのお話を聞いて。ですから、そういう部分もしっかりと町民に対して、説明責任みたいなものを果たしていただきたいなというふうに思うのですけれども、その辺、一応伺っておきたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） 私がどこかでしゃべったことに関してのお話を今されたので、そのことについてだけ今お話ししますけれども、やっぱり介護保険料全体で、介護保険料というのは量が拡大すれば当然上がっていくというのは、それをなかなか町民は理解されないのかなというふうに思っています。ですから、例えば100床を維持するとすると、今の80床より20人分の経費がかかって介護保険料に反映される。そこをやっぱり理解していただきながら、介護保険料がどの程度まで上がっても町民の皆さんがそれをよしとして受けるのか、あるいは例えば標茶の本当に介護保険料が上がっても100床を維持したときに、では標茶の将来人口が今よりもさらに少なくなったときに、ではそれに合わせて今の民間の事業所の方々が今と同じように営業できるのかどうか含めて、しっかり考えていかないと、やすらぎ園はそれなりに安い料金設定でやっていますから、やっぱり民間のほうにしわ寄せが行くのではないかと、そんなことも含めて、やっぱりいろいろな選択肢をうまく維持しながら、今ある民間の方々にもしっかり頑張ってください、行政が最低限やらなければならないのはここまでだ

ということも含めて、それは介護保険料もそうですし、実際に例えばやすらぎ園がユニット化になったときに、では1人当たりの施設の利用料が2万円から3万円くらい高くなりますよということもしっかり理解してもらいながらやらないと、実際に新しくなったけれども、こんなにお金かかるのだったら年金生活ではなかなかきついですよという話になってしまわないように、しっかりそういったことも議論しながら、これからの先を検討していきたい、そんな思いで僕はしゃべったのではないかなと思いますけれども、その一部だけ、その辺取られて話をされると非常にどうかと思うのですけれども、一応そういうことですので、よろしくお願ひしたいと思っています。

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） 職員の待遇改善の関係なのですけれども、今までもこの場所で何度かご質問を受けて、お答えをさせてもらっております。そのときにも申し上げているのですけれども、例えばやすらぎ園介護職であれば、夜間勤務手当を創設して、若干ですけれども、待遇改善の一助というふうにさせてもらっております。

過去にこういった質問をいただいたときに現場のほうにヒアリングをして、民間と比べて実際どうなのだろうかという、民間、町内の類似事業所と比べて待遇が劣っているかどうかという、そういうヒアリングをしたことがあるのですが、そのときには現場のほうから、決して劣っているということではないと思いますという返事もらったところでもあります。その上で総体的な、地方公務員法であったりとか、あるいは給与条例等々の条件の中で給料本体を上げるのはなかなか難しいなという判断をして、過去には答弁をしてきた経過があります。会計年度任用職員制度になってもう数年たつわけなのですけれども、今ちょうど配置の検討等を終えたところなのですが、今年度その会議の場において、現状の技術職の給与の水準が果たして適切かどうかということについては、今後の検討課題だということ、これから考えていきたいなというふうに思っていたところでもあります。

ただ、本町の体制からすると、職員の数、それから会計年度任用職員の数等々、総体の人件費が結構な金額、数字になってきているということを見ると、なかなか簡単に答えが出る問題ではないのではないのかなというふうに思いながらであります。具体的な作業については、まだこれからということなのですけれども、検討課題として認識はしているところありますので、ご理解をいただければというふうに思います。

○議長（菊地誠道君） 鈴木君。

○6番（鈴木裕美君） 十分に理解はしているのですが、ただ、同施設内での同じ仕事をされていて、片や正職、片や会計年度任用職員という、そういうのがあって、立場上、任用職員の方々が不満を漏らすとか、そういうことも聞こえてきていますが、この件につきましては本当に難しい状態だというふうにも十分理解しておりますが、ぜひ早急な課題として取り組んでいただきたいということをお願い申し上げて、次の質問に移りたいというふうに思います。

茅沼地区観光宿泊施設についてですが、先ほど同僚議員が質問をされております中で重複する部分があるかと思いますが、通告いたしておりますので質問をさせていただきたいとい

うふうに思います。

町民が早期再開を求めてきた温泉宿泊施設「憩の家かや沼」は大きくさま変わりをし、富裕層を対象としたと思われる施設に改修されました。完成も近いことから町民の関心も高まっていますが、開業予定が遅れる見込みと言われることも、先ほどの同僚議員の質問でも言われております。また、先日の全員協議会の説明でも明らかになっていない点も幾つかありますので、ここでお伺いをしたいというふうに思います。

1つ、指定管理者とした永寿優企画の法人化はいつになるのか。先ほど明らかになりましたけれども、明らかというか、なりましたけれども。

それから1つ、町民以外の方の利用料は示されましたが、町民がこの憩の家かや沼の再開をいち早く求めてきましたので、町民の利用料を早く示すべきではないのかというふうに考えますので、その示す時期はいつごろになりますか。

宿泊施設内の備品購入については、町内業者にすべきではないかというふうにも考えますが、いかがでしょうか。

施設の名称について、「憩の家かや沼」をなぜ変えるのか、正直言って私にはわかりません。そのことを明らかにしていただきたい。

町有施設の営利目的使用として使用料徴収の対象とならないのでしょうか。他の町有施設では営利目的の場合も使用料を徴収されておりますので、この施設については対象とならないのか伺います。

それから、先ほど排水の問題も触れておりましたが、私は温泉排水については環境の状況からも従来の方が最善と考えておりますが、いかがでしょうか。

このことについてお伺いをいたします。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君）（登壇） 6番、鈴木議員の茅沼地区観光宿泊施設についてのお尋ねにお答えいたします。

1点目の指定管理者の法人化はいつになるかのお尋ねですが、先ほど櫻井議員の質問でお答えしたとおり、指定管理者の辞退届の提出があったため、法人化はされないものと理解するところです。

2点目の町民の利用料を示すのはいつになるかのお尋ねについても、1点目と同様、新たな指定管理者との間での協議、決定となることから、しばらく先送りせざるを得ない状況でありますので、ご理解をお願いいたします。

3点目の備品購入は町内業者にすべきではないかのお尋ねですが、備品の選定につきましては、指定管理者と協議しながら行いたいと考えておりますが、購入につきましては、町内から調達を原則としたいと考えております。

4点目の施設の名称をなぜ変えるかのお尋ねであります。また最終決定にしておりませんが、釧路湿原国立公園内にある唯一の宿泊観光施設として新しい名称で再出発をしたいとの思いからであります。

また、新しい名称候補につきましては、憩の家かや沼の再生に当たって必要となるブラン

ド・アイデンティティの形成が不可欠と判断し、デザイン監修業務にかかわっていただいている日本デザインセンターに施設の存在が一目で覚えられる名称について提案をお願いし、幾つか提案があった中から、誰もが覚えやすく言いやすいところということを念頭に3案を選考し、小学生、中学生、高校生にアンケートを実施したものです。

5点目の営利目的使用として使用料徴収の対象とならないのかのお尋ねですが、指定管理者制度は議員ご承知のとおり、2003年、平成15年9月の地方自治法改正により、多様化する住民ニーズにより効果的かつ効率的にお応えするために、民間企業や団体の持つノウハウや能力等を活用し、住民ニーズの向上を実現するとともに経費の削減等を図ることを目的として導入されています。茅沼地区観光宿泊施設においても、民間のさまざまな知見を生かしていただきながら施設の管理運営を行っていただこうと選択したもので、指定管理者制度は施設の管理運営を委ねる行政処分になりますので、使用料に相応する利用料金は利用者であるお客様が納めることとなりますし、現在はいわゆる利用料金制度を適用しようとして考えておりますので、利用料金は指定管理者の収入として処理されることになっておりますので、ご理解をお願いします。

6点目の排水は従来の方法が最善と考えるが、いかがかとお尋ねですが、議員ご指摘のとおり、従来どおりの排水ができることが最善であると考えておりますし、現在、地権者に重ねてお願いしておりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（菊地誠道君） この際、再質問があれば許します。

鈴木君。

○6番（鈴木裕美君） ちょっと順不同になろうかというふうに思いますが、備品の購入に関してなのですが、指定管理者と協議をして町内業者から納入をしたいということなのですが、来年、5、6年度の競争入札参加資格要件についていた、2年以上のその事業を営んでいる者だったというのが、その要件、廃止されましたよね。というふうに私は見ましたけれども、それが廃止されたのはなぜなのか。

多くの地元業者を使うということは当然のことなのですが、例えば備品、物品に当たって、これから納入されるだろうというふうに思うのですが、納入業者が例えば1社しかない場合、だけれども、この廃止されたことによって誰もが、言ってみればそのものの業者さんでない業者でも、結局は指名要件撤廃されるから入札行為ができると。例えば建築屋さんが水道屋さんにも、例えばですよ、備品ですから建築屋さんとかではないのですけれども、備品に関して、今まで納入していない備品の業者さんであっても、結局は納入されるという理解ですよ。私の理解、間違っていますか。どっちに聞けばいいの。そっち、そうか。

○議長（菊地誠道君） 管理課長・山崎君。

○管理課長（山崎浩樹君） 業者の登録の関係の担当課でありますので、管理課からお答えさせていただきます。

業者の登録に関しましては、2年に1度登録をいただいております、今回も令和5年、6年の業者の資格といたしまして、来年の1月20日から2月20日にかけて申請をいただく予定で、今、進めております。今回それに当たりまして、資格の内容が少し変わっており

ます。中身的には、工事ですとか、それから業務に関しましては、本当にその工事をちゃんと行えるのかとかというところが必要ですので、その工事、その業種を2年あるいは1年営んでいることが要件になってございます。

物品に関しましては、今回、議員おっしゃるとおりに、2年間それを販売しているということを条件とすることをなくさせていただきました。というのは、物品に関しましては、物を指定しますので、その物が規格に合わないということがまず考えられないと。登録に関しましては、業者の申請をしていただくに当たりまして、業種でそれぞれの方の取扱品目も申し出ていただくことにしております。その中で、例えば取り扱いに許可が必要なものもあります。例えばでございますけれども、ガソリンであれば業者の登録が必要とか、許可が必要とか、そういうものがありますので、それを確認させていただきながら業種の登録もしていただくと。具体的に買う品目が決まりましたときに、その品目で登録されている業者の中から、これは指名の場合ですけれども、指名をさせていただきまして入札に持っていくということになりますので、今回そういうふうに変わってございますので、ご理解願います。

○議長（菊地誠道君） 鈴木君。

○6番（鈴木裕美君） 何を言いたいのか、おまえは何を聞いているのだというふうに言われるかもしれませんが、確認なのですが、この憩の家、施設の物品納入、予算の中では全ての合計で、物品関係、宿泊施設内備品ということで、これはこの間の2日の日ですか、全員協議会でいただいた資料ですが、9,640万円の予算化になっておりまして、これは令和5年度に物品納入ということで予算化するということなのでしょうけれども、この中に、これ、一等最初の基本計画での資料なのですが、言ってみれば、私が言いたいのは、家具類とかを宿泊施設に納入されるというふうに思うのですね。そういうときに他の業者、要するに家具を扱っている業者以外の方々が、この要件が外されましたから、言ってみれば誰でも、どの業者でも指名に入れるというふうに私は理解をしたのです。それとは違うのでしょうか。

○議長（菊地誠道君） 管理課長・山崎君。

○管理課長（山崎浩樹君） 繰り返しになりますけれども、登録の申請をしていただく段階で取扱品目を書いていただくことになります。家具であれば、家具類を取り扱っているということを最初の段階で申し出ていただきますので、家具を取り扱っているという登録をしていただいた業者様の中から指名をするということになります。

（「わかっていない」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 鈴木君。

○6番（鈴木裕美君） そこはわかるのですが、この要件を外したということは、今まで、今言った家具とか、そういうものを取り扱っていない業者であっても、地元の業者であれば入札要件に合致して入札行為ができるのでないかと、私はそう理解したのですよ。そうではないのですか。もう一回聞きます。

○議長（菊地誠道君） 管理課長・山崎君。

○管理課長（山崎浩樹君） 申しわけありません。議員おっしゃるとおりでございます。

○議長（菊地誠道君） 鈴木君。

○6番（鈴木裕美君） そうすると、私、変に考えてしまったのです。何でもありきになって、本当に地元で小さな小さな業者さんが精いっぱい経営をしてきているのに、この要件が外れることで他の業者さんが入札行為を行って、言ってみれば専門的な業者さんと言いますか、その方が外れるということになると、せっかく町の仕事なのに、頑張っただけで外れる業者さんが外れるというのは、私はいかがなものかというふうに思ったのです、要件が外れたことによって。

その辺と、もう一つは、これは耳に入ってきたことですから確かではないです。でも、言わせてください。他のところからの、言ってみれば備品、物品を入れるのだというふうに聞こえてきた。聞こえてきただけでですから確かなものではないのですが、そういうことで私は疑ったのですよ。要するに、専門の備品の納入業者以外も外したいのかなというふうに疑ったものですから、そういう、特に憩の家に関してですよ。そんなのでちょっと伺ってみたいと思うのですけれども。

町長、地元で小売店もなくなる、商店街、食料品店もなくなるということで、一生懸命に頑張っている業者いますよね、地元の小売店。そういう人たちをやっぱり町が応援するためにも、私は、この要件撤廃というのがいかがなものかなというふうに正直言って思ったのですよ。小さな業者さんが外れるのではないかという心配もあわせて。備品の中には、例えばロビーの家具だとかカーテンだとか、いろいろ憩の家の中の備品がありますでしょう。それが、もし1店舗で頑張っている業者さんがいるのでも、この入札行為によって外れる可能性があるのかなというふうに心配をしたから伺ったのですけれども、地元の業者をあくまでも利用するという観点から、どうなのでしょうね、こういう要件を外すというのは、幅広い考え方で言えば、もっともなのです。でも、そういう小さい業者さんを拾ってあげるというのも、一方では必要ではないかなというふうに思うのですけれども、その辺いかがでしょうかね。

○議長（菊地誠道君） 副町長・牛崎君。

○副町長（牛崎康人君） お答えいたします。

茅沼の施設の備品購入に当たっての基本的な考え方は、先ほど町長から答弁させてもらったとおり、町内業者を優先することを原則的に考えていますというお話です。

今、議員ご指摘の指名登録に当たっての変更については、かや沼のほうとは一切連動している事実はありません。たまたま時期が重なったというだけであります。その上で、仕組みとしてこれまで運用してきた中で、わかりやすさとかそういうところで、あるいはできるだけ排除しないようにしようというような、たしかそういう観点で変更したというところがあります。

ただ、これまでもそうなのですけれども、指名登録についてはあくまでもスタートラインで、そこから各担当が業者を選定して、最終的には指名委員会で選定をして、そして町長に答申をするような形をとっております。ですので、例えば町内に10のお店屋さんがあって、いろいろなお店屋さんがあって、10のお店屋さん全部が家具を登録しているから10を全部指名するかというと、必ずしもそうではありません。その時々々の情勢、状況によって、それは

いろいろ考慮しながら最終的な判断、決定になっていくというところであります。

議員のご心配は、ごもっともだと思います。私たちも常々、業者さんの選定に当たっては、そういった町内の方の、餅は餅屋という言葉があるとおり、実際に納品される物の、納品の精度とか、そういったものが担保されるかどうかということも含めて適切に行われるように、これからもやってまいりたいというふうに考えております。

○議長（菊地誠道君） 鈴木君。

○6番（鈴木裕美君） 指名要件については理解をいたしました。

それで、名称の関係ですけれども、先ほどの答弁で再出発したいから、新しい施設として再出発をするから、だから名称も変えるのだということですが、以前に同僚議員が一般質問の中でも、なぜ全町民から公募しなかったのだというご質問がありましたよね。私は、町民が求めてきたのは、やっぱり憩の家かや沼なのです。それがなくなる。条例をこれから提案されるのですけれども、そこにも今のところ憩の家かや沼という名前は全く載っていないので、町民の皆さん、納得するかなと私は思うのです。町民がいち早く求めたのは、前のような旧憩の家の施設であって、名称についても、憩の家かや沼というのは町民誰もが、あるいは憩の家かや沼を利用されたお客様、道内外の方々も、この名称に関しては、やっぱり愛着を持って今日まで来たのではないのでしょうか。それが先般の全員協議会のときにも、憩の家かや沼という名称にどこにも触れなかったですよ、町長ね。とても残念です。再出発したいから、それはわかりますよ。だけど、なぜデザインの総合研究所ですか、をお願いをしなければならなかったのか、そのところが私は理解ができないのですよ。

例えば憩の家かや沼、私、ぼんぼんというのは好きではないのですけれども、例えばですよ、メインが憩の家かや沼、そこに何かをつけるとかというのなら、まだわかります、正直言って。でも、全く憩の家かや沼という名称をなくするということは、町民の皆さんが、あるいは道内外のお客様たちも、どのように思うのかなと。何ぼ新しい施設にしたといえ、あそこに改修されたのですよ。あそこを望んだのですよ。だとすれば、憩の家かや沼という名称は残すべきだというふうに思うのですけれども、ここで町長が、いえ、残しませんと言えばそれまでなのですが、ぜひその辺も含めて考えていただきたいというふうに思うのですけれども、いかがですか。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） 名称については、前回からいろいろな方にいろいろなご意見をいただいておりますので、また慎重に検討していきたいと思うのですけれども、ただ、私自身の思いとしては、やはり憩の家かや沼はいろいろな問題があっても実は閉じなければならない、いろいろな不祥事やら入浴券の問題やら、さまざまなことを私、耳にしたり聞いたりしています。そこを実は新しい指定管理の人に、それも背負いながら新しい施設をやってくださいというのは、私はどうかなというのは思っていました。それで、全く新しい名称で再出発をしたほうがいいのか、それで今回、デザイン関係の方の協力を得ながら、子供たちの意見を聞きながら作業を進めてきたということですので、まだ最終決定はこれからもう少し皆さんの意見を聞きながら調整していきたいと、そんなふうに思っていますので、ただ、

私の思いはそういうことですので、再出発するためにはやっぱり新しいステージ、新しい場所、たまたま同じ場所でやっていますが、実は今までのかや沼とは少しイメージを変えながら、視点を変えながら、そういう方向性、しっかり提案していかないとなかなか厳しいのではないかと。私、負の遺産とは言いませんけれども、やっぱりゼロからの出発だと思っています。そこをしっかりと皆さんの、さらにご意見を聞きながら、最終決定、少し時間かけながら決めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○議長（菊地誠道君） 鈴木君。

○6番（鈴木裕美君） 町長の思いというのは伝わってきました。でも、町民の思いはそうではないのですよ。そこを申し上げておきたいと。再検討といいますか、決定ではないと今お答えいただきましたので、ぜひ町民の思いを酌んでいただきたいということを申し上げたいというふうに思います。

最後に、排水問題です。ずっと地権者との話し合いをされてきたというふうに思うのですが、私は町民から言われました。正直言って、副町長が一人で苦勞していると、そう言われたのです。町長が地権者のところに何回行ったのだろうというふうに言われました。私自身は聞いておりませんでしたので、いや、わかりませんと答えましたが、また、一方では、これだけの施設をつくって、先ほど同僚議員言いましたけれども、後戻りはできないのですよ。私もずっと基本設計以外は反対してきましたけれども、出来上がってしまったのです。議会も結局、多数決で通ったのです。

（「そうだ」の声あり）

○6番（鈴木裕美君） うん、そうだ。だから、これだけ財政を投入してできたものを、失敗は許されないのです。そのことは私も重々理解しておりますし、オープンされれば本当に協力をしていきたいなど。前回も言いましたけれども、塘路のような二の舞は踏みたくないということもずっと言ってきました。それで、本当に副町長が、ここで言うのはおかしいかもしれないかもしれませんが、汗をかいてきたけれども、町長は地権者とどのように接触をしてきましたか。一方では、議会だって同じだぞと。議決をして事業を通したのだから、議会もやっぱり協力して、町長と一緒に地権者に当たるべきだというふうにまで私は言われました。

そういう意味からすると、これからも排水問題に関しては地権者と協議を続けていくというふうに言われておりますから、町長、町長が努力をする姿勢、副町長に伝えているのも十分わかりますよ。だけれども、あなた自身がやっぱりみずから汗をかくべきだというふうに言われましたし、それは地権者でないですからね。私、誤解されているのです。地権者と身内になるということで、おまえが反対してるべとまで言われました。

（何事か言う声あり）

○6番（鈴木裕美君） そうまで最近言われてしまったので情けなくて、私は一度も接触していません。身内だからこそ接触もしていませんし、何にも地権者に対して申してはしません。やっぱり町長がトップセールスとして、汗をかくべきだというふうに思うのですけれども、いかがですか。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） この件につきましては、先ほど最初の答弁の中の6番目の中でお答えしたとおり、副町長を先頭にやっていますけれども、最善を尽くしていきたい、そういう気持ちについては一切変わっておりませんので、引き続き鈴木議員の協力も得ながら、身内だということのみずから表明されましたので、全議員の皆さんと一緒に、やはり議決いただいて、一定程度、建物が目の前にできているという状況の中で、それは町民の皆さんからしても、一日も早く町民の皆さんにオープンしていただきたいということの思いは、日に日に増しているというふうに感じていますので、引き続き最善の努力を重ねていきたいということをお約束したいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

○議長（菊地誠道君） 鈴木君。

○6番（鈴木裕美君） 私は、先ほど申したように、身内だからこそ動かないのですよ。そう思っておりますし、町長、さっき何回も、さっきどなたか手をたたいてくださいましたけれども、トップセールスですよ。やっぱり一生懸命に、副町長に思いを伝えて、おまえやってこいというふうに、それもわかります。でも、町長がみずから汗をかいて現地に行く、その方にも会う、そのような努力というのはやっぱり町民見ているのです。ぜひ足を運んでいただきたいというふうに思いますが、排水問題、いかがですか。もう一度聞いて終わらせたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 町長・佐藤君。

○町長（佐藤吉彦君） 先ほどお答えしたとおり、最善の努力を尽くしていきたいというふうに思っています。

（「終わります」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 以上で6番、鈴木君の一般質問を終わります。

以上をもって、一般質問を終了いたします。

◎延会の宣告

○議長（菊地誠道君） お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会いたしたいと思っております。

これに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） ご異議ないものと認めます。

よって、本日はこれにて延会することに決定をいたしました。

本日の会議は、これにて延会いたします。

（午後4時20分延会）

以上、会議のてん末を記載し、その相違ないことを証するためにここに署名する。

標茶町議会議長 菊 地 誠 道

署名議員 2 番 櫻 井 一 隆

署名議員 3 番 長 尾 式 宮

署名議員 4 番 松 下 哲 也

令和4年標茶町議会第4回定例会会議録

○議事日程（第2号）

令和4年12月7日（水曜日） 午前10時00分開会

- 第 1 議案第71号 標茶町個人情報保護に関する法律施行条例の制定について
第 2 議案第72号 令和4年度標茶町一般会計補正予算
議案第73号 令和4年度標茶町国民健康保険事業事業勘定特別会計補正予算
議案第74号 令和4年度標茶町下水道事業特別会計補正予算
議案第75号 令和4年度標茶町簡易水道事業特別会計補正予算
議案第76号 令和4年度標茶町病院事業会計補正予算
第 3 議案第77号 教育委員会委員の任命について
第 4 議員提案第3号 標茶町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について
第 5 議員提案第4号 標茶町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について
第 6 意見書案第8号 国の支援を強め、必要な介護を受けられるように制度の改善を
求める意見書
第 7 意見書案第9号 インボイス制度導入の延期（中止）を求める意見書
第 8 閉会中継続調査の申し出について（総務経済委員会）
閉会中継続調査の申し出について（厚生文教委員会）
閉会中継続調査の申し出について（広報委員会）
閉会中継続調査の申し出について（議会運営委員会）
追 加 議案第72号 令和4年度標茶町一般会計補正予算
議案第73号 令和4年度標茶町国民健康保険事業事業勘定特別会計補正予算
議案第74号 令和4年度標茶町下水道事業特別会計補正予算
議案第75号 令和4年度標茶町簡易水道事業特別会計補正予算
議案第76号 令和4年度標茶町病院事業会計補正予算
(議案第72号・議案第73号・議案第74号・議案第75号・議案第76号審査特別委員
会報告)

○出席議員（13名）

1番 渡邊定之君	2番 櫻井一隆君
3番 長尾式宮君	4番 松下哲也君
5番 熊谷善行君	6番 鈴木裕美君
7番 齊藤昇一君	8番 深見迪君
9番 本多耕平君	10番 黒沼俊幸君

11番 鴻池 智子 君

12番 後藤 勲 君

13番 菊地 誠道 君

○欠席議員（0名）

なし

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した人

町 長	佐藤 口彦 君
副 町 長	牛崎 康人 君
総 務 課 長	齊藤 正行 君
企画財政課長	長野 大介 君
税 務 課 長	齋藤 和伸 君
管 理 課 長	山崎 浩樹 君
農林課長兼 農委事務局長	村山 尚 君
住 民 課 長	村山 新一 君
保健福祉課長	浅野 隆生 君
建 設 課 長	富原 稔 君
観光商工課長	三船 英之 君
水 道 課 長	油谷 岳人 君
育成牧場長	若松 務 君
病院事務長	伊藤 順司 君
やすらぎ園長	穂刈 武人 君
教 育 長	青木 悟 君
教委管理課長	常陸 勝敏 君
指 導 室 長	秋山 豊 君
社会教育課長兼 中央公民館長	服部 重典 君

○職務のため出席した事務局職員

議会事務局長	中島 吾朗 君
議事係長	中嶋 禎之 君

(議長 菊地誠道君議長席に着く。)

◎開議の宣告

- 議長(菊地誠道君) 昨日に引き続き、本日の会議を開きます。
ただいまの出席議員13名であります。

(午前10時00分開議)

◎議案第71号

- 議長(菊地誠道君) 日程第1。議案第71号を議題といたします。

本案について提案理由の説明を求めます。

総務課長・齊藤君。

- 総務課長(齊藤正行君)(登壇) 議案第71号の提案趣旨並びに内容についてご説明申し上げます。

本案につきましては、デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律が令和3年9月1日に施行され、個人情報の保護に関する法律も改正されました。

この個人情報の保護に関する法律の改正は、これまで、国の行政機関は行政機関個人情報保護法、独立行政法人等は独立行政法人等個人情報保護法、民間事業者は個人情報保護法、地方公共団体等は個人情報保護条例とそれぞれの法律や条例などで個人情報保護制度を運用してきました。

今後ますますのデジタル社会の進展に伴い、より厳格な個人情報保護とデータ利活用の両立が求められている中、各種団体が先ほど紹介したそれぞれの法律・条例を運用してきたことによる課題、いわゆる個人情報2000個問題などを解決するため個人情報保護制度を1本化するなどの改正がなされ、令和5年4月1日から個人情報の保護に関する法律において全国的に統一されたルールが設けられることになりました。

今後、町などの行政機関や教育委員会などの行政委員会が取り扱う個人情報に関する事務は、この法律に基づき、引き続き適切に行うこととなります。一部、法律に基づき条例で明記しなければならない箇所について、今般、新規条例として提案するものであります。

議案書1ページをご覧ください。

議案第71号 標茶町個人情報の保護に関する法律施行条例の制定について

標茶町個人情報の保護に関する法律施行条例を別紙のとおり制定するというものでございます。

なお、お手元の議案説明資料は、新規で制定させていただく規則案となっております。規則の大部分は、これまで本町が個人情報保護条例、個人情報保護規則に基づいた取り扱いを定めていたものを、その根拠が法律に基づいた内容となるため、規則として新たに定めているものでございます。ただし、議案説明資料4ページの規則案第11条についてですが、先ほど説明申し上げた、条例で明記しなければいけないとされる開示請求の際の費用について、今般、新規条例の第3条を受けて規則で定めておりますので参照していただければと存じま

す。

議案書の2ページに戻ります。

標茶町個人情報の保護に関する法律施行条例

第1条は制定趣旨です。個人情報の保護に関する法律、または番号法で規定されている個人情報保護法の特例等による施行に関する事項についても、本条例に含めて規定することを明らかにしたものでございます。

条文にまいります。

(趣旨)

第1条 この条例は、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号。行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）第30条第1項又は第31条第1項の規定により一部の規定が適用されず、又は読み替えて適用される場合を含む。以下「法」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条は、この条例の適用となる町の執行機関あるいは行政機関を定めたものです。それぞれの自治体で組織されているものが違うため、条例で定めなければならないこととなっております。また第2項では、本条例で使用する用語は、法律等と同じとする旨を定めています。

条文にまいります。

(定義)

第2条 この条例において「実施機関」とは、町長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、農業委員会、固定資産評価審査委員会及び公営企業の管理者をいう。

2 この条例で使用する用語は、法及び個人情報の保護に関する法律施行令（平成15年政令第507号。以下「令」という。）で使用する用語の例による。

第3条は、個人情報を開示請求する場合、その手数料等については、法律第89条第2項で地方公共団体の機関に対して開示請求する者は、条例の定めるところにより、実費の範囲内において条例で定める額の手数料を納めなければならない、とされていることから条例で定めるものです。なお、手数料などの費用についてですが、手数料は無料とし、コピー代などの写しの作成に係る費用は請求者の実費負担とするもので、これまでの条例と同様とするものです。

条文にまいります。

(開示請求に係る手数料)

第3条 法第89条第2項の規定により納付しなければならない手数料の額は無料とする。

2 法第87条第1項の規定による写しの交付（開示される保有個人情報が電磁的記録に記録されている場合において、実施機関が定める開示の実施の方法として、複製したもの又は出力したものの交付が定められているときは、複製したもの又は出力したものの交付。以下この項において同じ。）により保有個人情報の開示を受ける者は、当該写しの交付に要する費用を負担しなければならない。当該写しの交付を令第28条第4項の規定により送付により受ける場合における当該送付に要する費用についても同様とする。

3 前項の規定により納付しなければならない費用の額、次ページにまいります、は標茶町手数料徴収条例（平成12年標茶町条例第5号）に定める額とする。

次に附則でございますが、この条例の施行日、これまでの標茶町個人情報保護条例の廃止、そして、標茶町個人情報保護条例が廃止されても一定の効力を残すなどを経過措置として定めているものです。

本文にまいります。

附則

（施行期日）

第1条 この条例は、令和5年4月1日から施行する。

（標茶町個人情報保護条例の廃止）

第2条 標茶町個人情報保護条例（平成17年標茶町条例第12号）は、廃止する。

（標茶町個人情報保護条例の廃止に伴う経過措置）

第3条 次に掲げる者に係る前条の規定による廃止前の標茶町個人情報保護条例（以下「旧条例」という。）第7条の規定によるその業務に関して知り得た、旧条例第2条第1号に規定する個人情報（以下「旧個人情報」という。）の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない義務については、この条例の施行後も、なお従前の例による。

（1） この条例の施行の際、現に旧条例第2条第5号に規定する実施機関（以下「旧実施機関」という。）の職員である者又はこの条例の施行前において旧実施機関の職員であった者のうち、この条例の施行前に、旧個人情報の取扱いに従事していた者

（2） この条例の施行前において旧実施機関から旧個人情報の取扱いの委託を受けた業務に従事していた者

2 この条例の施行の日前に、旧条例第15条、第27条第1項若しくは第2項又は第34条第1項、若しくは第2項の規定による請求がされた場合における旧条例において規定する保有個人情報の開示（これに係る手数料を含む。）、訂正及び利用停止については、なお従前の例による。

3 次に掲げる者が、正当な理由がないのに、この条例の施行前において旧実施機関が保有していた個人の秘密、次ページにまいります、に属する事項が記録された公文書であって、一定の事務の目的を達成するために特定の旧保有個人情報を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したもの（その全部又は一部を複製し、又は加工したものを含む。）をこの条例の施行後に提供したときは、2年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処する。

（1） この条例の施行の際現に旧実施機関の職員である者又はこの条例の施行前において旧実施機関の職員であった者

（2） 第1項第2号に掲げる者

4 指定管理者が行う公の施設の管理に係る業務に従事している者若しくは従事していた者又は指定管理者から委託された個人情報取扱事務（公の施設の管理に係るものに限る。）に従事している者若しくは従事していた者が、正当な理由がないのに、この条例の施行前に保

有していた個人の秘密に属する事項が記録された公文書又は指定管理者が管理している文書等（当該指定管理者に管理を行わせる期間の満了後又は当該指定管理者に係る指定が取り消された後において、当該指定管理者であったものが管理しているものを含む。第6項において同じ。）であって、一定の事務の目的を達成するために特定の個人情報を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したもの（その全部又は一部を複製し、又は加工したものを含む。）を提供したときも、前項と同様とする。

5 第3項各号に掲げる者が、その業務に関して知り得たこの条例の施行前において旧実施機関が保有していた旧条例第2条第1号に規定する個人情報をこの条例の施行後に自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

6 第4項に掲げる者が、この条例の施行前においてその業務に関して知り得た公文書又は指定管理者が管理している文書等に記録されている個人情報を自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用、次ページにまいります、したときも、前項と同様とする。

7 第3項各号に掲げる者が、その職権を濫用して、専らその職務の用、以外の用に供する目的でこの条例の施行前において旧実施機関が保有していた個人の秘密に属する事項が記録された文書、図画、写真又は電磁的記録をこの条例の施行後に収集したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

8 前5項の規定は、町の区域外においてこれらの項の罪を犯した者にも適用する。

9 附則第2条の規定により旧条例の規定がその効力を失う前にした違反行為の処罰については、その失効後も、なお従前の例による。

以上で、議案第71号の提案趣旨並びに内容についての説明を終わらせていただきます。

○議長（菊地誠道君） 本案の審議に入ります。

これより質疑を行います。

ご質疑ございませんか。

深見君。

○8番（深見 迪君） この個人情報保護条例、これは平成27年9月に改正法が公布されて、29年5月30日から全面施行されたものなのですが、私はいくつかこの点について質問したいのですが、一つは、旧条例という言葉を使いましたよね。旧条例では目的というものがあつたのですよ、この条例に対する。個人情報の開示、訂正及び利用停止等を請求する権利を明らかにすることにより、個人の権利利益を保護するとともに、公正で民主的な町政の推進に資することを目的とするというふうに、町民の側に立ったというか、本当に個人情報を保護する立場に立った条文になっていました。従前の例によるという経過措置が出ていますけれども、それが今回はあまり見られないというふうに思うのです。経過措置については後で質問しますが、個人情報のこの目的の部分がかなり薄まるのではないかという心配をしているのですが、これは保障されるのでしょうか。

二つ目に、そういう意味では自治体が条例で国より強い規制をする、今まではそうだった

のですよね。全国の都道府県、市町村が独自の個人情報保護条例、これをつくって、自治体は住民の福祉を守るというのが一番の目的ですから、そのためにこの個人情報を得て、そして同時に得た個人情報を保護するという形でしっかり規制がかかっていたのだけど、これがちょっと崩れていくのではないかとこの心配があります。それから、地方自治が侵害されるということになるのではないかと。今までは全国都道府県、市町村が、それぞれがそれぞれの独創的な、もとになる法律は決まっていますのですけど、いろいろな条例ができていたのですが、これがこの国の法律でスパッとこういうふうに、短い時間で短い文言で決められるという。国が地方自治の条例をこういうふうにつくりなさいと言って、これ全国都道府県、市町村、全部同じ条例になるわけですよね。これ地方自治の侵害になるのではないかとこの心配があります。

これはもちろん国会で参考人招致をして、意見を聞いているのですけれども、その中でこの法案は、個人情報の保護よりも利用が優先されているのではないかとこの意見を述べた方もいました。この利用が優先されるというのは、もちろん企業とか、個人情報を大量に得て優先されていると。保護が、ちょっと置かれているのではないかとこのことと、それから先ほどの一定の経過措置というのは期限があるのでしょうか。なお従前の例によるということがいくつか出てきているので、ちょっとここは安心かなというような気がしたのですけど、でも一定の経過措置ですからね、これはいつか消えてしまうのかなと。

最後ですが、自治体が定める個人情報の、本人からの直接収集の原則、思想、信条、病歴などのいわゆるセンシティブ情報、この収集禁止の原則がなくなるのではないかとこの心配があります。

いくつか質問しましたけれどもお答え願いたいと思います。

○議長（菊地誠道君） 総務課長・齊藤君。

○総務課長（齊藤正行君） お答えしたいと思います。答弁漏れがあったらご指摘ください。

まずは最初は、条例での趣旨の部分がなくなったのではないかとこのようなご質問だったと思いますけれども、今般、冒頭説明申し上げました、議員から利活用が優先されているのではないかとこの関連するのかもしれないけれども、一番はこれからデータの利活用、これは法律の範囲内でデータを利活用するときに、各自治体の条例等々が、それぞれやはり取り扱いの細かい部分までいくとちょっと違っているというのが弊害になっている、それはどこの自治体も法律の範囲内で条例で定めているので、違反とか何とかという話ではなくて、これから正しく使っていくための弊害になっている可能性もあるということが、以前からこれは指摘されていた課題であります。これは議員御存じだと思いますけれども、長らく、それもいろいろなところから課題だよということがあった。それを町村の、私どもも含めて個人情報の取り扱いというのは慎重にしなければならないという中で、やはり取り扱いに迷うことというのは多々あります、実際の話。

ただ、個人情報を守るという趣旨のところから、出さないことが一番いいのでしょうけれども、やはりこれからそういった正しい利活用をしていく中で、いわゆる2000個問題、各条例等々がいっぱいある中で横の連携を含めていくと、やはり弊害になる部分もあった。それ

が長らくの課題としてあったのを、今回、法律に基づいて条例を定めて運用していきましようという形に変わったということが、今回の法律改正の大きな柱だというふうに認識しています。

ただその中で議員ご指摘の、さらに網をかけていく、横出しとか、そういったことは否定するものではないということと言われていますので、各地方公共団体等も含めて、さらに網をかけるということも可能だというふうに説明は受けているところでございます。

というところでいきますと、基本線の趣旨というのは個人情報保護法の総則の第1条に目的ということが書かれておりますので、そこを法律に基づいて運用されることとなりますから、基本線、個人情報を守るという趣旨については、決して条例で明記されていなくても、法律で明記されていることを含めれば、個人情報の保護は、私どもは決して薄まっていくとか、軽視されるような話ではないのではないのかなというふうに考えていますし、これからも条例が変わったからといって、個人情報を軽視するという考えは全く持っていません。

利活用も含めて、どういった形が正しい個人情報の取り扱いかということは、これからは横と同じ取り扱いになりますから、市町村間でとか、北海道のほうに意見を聞きながら、正しい個人情報の、より正しい個人情報の運用が期待できるのではないかなというふうに、実務的には思っているところでございます。

ですので、利活用が優先されているというのは、これはいわゆるマイナンバー法ですとか、そういったことも含めて、これからデジタル社会において、その利活用を進めていくということが背景にあるものですから、利活用のほうが優先されていて、個人情報のほうがないがしろにされるのではないかという、議員、今年の第1回の定例会の中でも、自治体DX（ディーエックス）の中でもご質問いただいた事項だと思うのですが、その中でやはり個人情報というのは保護されるべきだという基本線に立ち返りますと、出している部分、出していない部分というのは、きちんと線引きされなければならないですし、我々もその中で技術面ですとか法律面ですとか、職員の意識の徹底を含めて、守るという立場は崩さない、しっかりこれからも守らなければならないというふうに認識しております。

それから経過措置の部分ですけれども、これは基本線は、新しい条例は法律に基づいて令和5年4月1日から施行する、それに伴って旧条例は廃止する。令和5年4月1日以前に起きたいろいろな事案については、令和5年4月1日以降も廃止される前の規定に従って4月1日以降も手続をしていくのだよというようなことが、大きく言うとそういうふうに経過措置でされていますから、4月1日以降に起きたことについては経過措置は適用されない、というふうに理解していただいていると思います。あくまでも4月1日以前に起きたいろいろな事案については、4月1日以降で旧条例がなくなっても旧条例の規定が適用されるというふうに、経過措置はご理解いただいているというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（菊地誠道君） 深見君。

○8番（深見 迪君） ちょっとあの、わからないけどわかりました。

ちょっと見解の相違というか、私心配、心配心配という言葉でくったのですが、今のご

答弁で心配は払拭されたわけではありません。多分、旧条例が極めて具体的で、そしてわかりやすく、これで個人情報保護するのだなということがよく見えるのですよ、旧条例は。今回は見えない。そういう心配があったものですから、質問をしました。でも総務課長が大丈夫ですよと、安心ですよと言うので、そこは信頼して、質疑はやめたいというふうに思います。

○議長（菊地誠道君） ほかにご質疑ございませんか。

櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） ちょっと語句について説明を求めたいのですが、2ページの2、この平成15年政令第507号、これについてどういうことを言っているのか、内容についてお知らせください。

（何事か言う声あり）

○2番（櫻井一隆君） いや、ごめんなさい、もう一度。資料の2なのでですけど、ごめんなさいね、議案書の2ページ、第2条の2、これについてちょっと内容を、507について、お願いいたします。

○議長（菊地誠道君） 休憩いたします。

休憩 午前10時27分

再開 午前10時30分

○議長（菊地誠道君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

総務課長・齊藤君。

○総務課長（齊藤正行君） 大変申しわけございません。

個人情報の保護に関する法律施行令（平成15年政令第507号）ですけれども、今回の条例の第2条で、これを法律施行令で使用する用語の例によるというもので参照しているものでございます。

使用する用語の定義、例えば個人、施行令第1条では、施行令ですので、町で言うと条例の規則のようなものだというふうに理解していただいて結構だと思うのですが、個人識別符号が第1条で書かれておまして、個人識別符号とは何ですか、どういうものが当てはまりますかというのが政令第1条で定められています。それから法律で定められている要配慮個人情報の定義は何ですか、例えば身体障害者、身体障害の情報ですとか、そういうものがこの要配慮個人情報に当てはまりますよというのが、定義づけされているところです。

いわゆる用語の定義づけ、難しい法律用語の定義づけを法律では書いてはありますが、その細かい部分の定義づけを政令でもって定めているというのが、法律施行令第507号でございまして、それ以後にもかなりのボリュームがありますので、全部というのはちょっと難しいですけれども、基本線、そういった用語を政令と同じ解釈で使っていきますよということで、定めているというふうにご理解いただきたいというふうに思います。

○議長（菊地誠道君） 櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） ですから、その507号なるものの内容は何だと、こういうことでしょうか。

○議長（菊地誠道君） 総務課長・齊藤君。

○総務課長（齊藤正行君） お答え申し上げます。

施行令第507号につきましては、法律を施行するために必要な用語の説明を、法律の施行令としてうたっているというふうに認識しております。

法律を施行するために必要な用語の説明を、法律施行令で定めているというふうに認識しております。

○議長（菊地誠道君） 櫻井君。

○2番（櫻井一隆君） それはわかったのですよ。だからその法律で定めている、その条文としてこういう、何ですか、施行令第507号というのがあるのですけど、この507号の内容ですよ、どういうことを言っているのだということなのですよ。わからないなら……

○議長（菊地誠道君） 総務課長・齊藤君。

○総務課長（齊藤正行君） 説明不足で大変申しわけございませんが、法律施行令、全部で21条の条文から成っております。法律を施行するために必要な用語、第1条では個人識別符号という言葉の定義の説明が書かれてあったり、そういったこと、法律を施行するための用語、なかなか法律は用語として定義づけされているのが具体性がないものですから、法律に基づいた用語の説明を、法律施行令として21条の条文でもって説明を加えているということでございますので、法律の趣旨を運用するためですので、用語の説明が主に記載されているというふうに理解しております。

○議長（菊地誠道君） ほかにご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 質疑はないものと認めます。

質疑は終結いたしました。

これより討論を行います。

討論ございませんか。

（「議長」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 討論がございますので、まず本案に反対者の発言を許します。

深見君。

○8番（深見 迪君）（登壇） 私は議案第71号、標茶町個人情報の保護に関する法律施行条例の制定について、反対する立場から討論に参加します。

議案第71号は、昨年の通常国会でデジタル改革関連法が強行され、9月にはデジタル庁が発足し、年末にはデジタル社会の実現に向けた重点計画を閣議決定したものであります。このデジタル関連法に基づき、個人情報の保護に関する法律の施行に必要な事項を定め、行政機関等匿名加工情報に関しては、その利用にかかわる手数料を定めるものです。デジタル関連法は、首相のもとに強い権限と予算を持ち、国や地方自治体のシステムや規定を標準化、

共通化して、個人情報を含むデータの利用を強力に進めるものです。

このことで地方自治体を持つ大切な個人情報を、匿名の加工をすることを条件に営利企業が利用できるようになると私は思います。私は今回の条例制定の最大の目的は、匿名の加工情報として、それを営利企業に売り渡すことにあるのではないかと危惧しています。

行政機関等匿名加工情報制度は自治体にとっても負担になり、個人情報を匿名加工するために、その作業を外部に委託をすることになるのではないのでしょうか。膨大で詳しい加工前の個人情報が、委託先の外部の民間会社に渡る心配もあります。本当に個人情報が守られるのか、大変疑問です。これまでも国内はもとより、日本の個人情報が海外にまで漏れていた事実があります。背景に経済界の要望があることは、言うまでもありません。これは自治体独自の運用の余地を狭め、国の個人情報保護委員会に自治体の条例づくりにも口を挟める仕組みが盛り込まれたものです。これは地方自治体、地方自治の根幹である条例制定が否定されかねない、地方自治への介入とも言うべきものです。

以上のことから、議案第71号、標茶町個人情報保護に関する法律施行条例の制定について、反対といたします。

以上で、反対討論を終わります。

○議長（菊地誠道君） 次に、本案に賛成者の発言を許します。

ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） これで討論を終わります。

討論がありましたので、議案第71号は起立により採決いたします。

議案第71号を原案可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（菊地誠道君） 起立多数であります。

よって、議案第71号は原案可決されました。

◎議案第72号ないし議案第76号

○議長（菊地誠道君） 日程第2。議案第72号、議案第73号、議案第74号、議案第75号、議案第76号を一括議題といたします。

議題5案の提案理由の説明を求めます。

企画財政課長・長野君。

○企画財政課長（長野大介君）（登壇） 議案第72号の提案趣旨についてご説明いたします。

本案につきましては、令和4年度一般会計補正予算（第11号）であります。

本格シーズンを迎えた除雪対策、その他事務、事業等についての補正を見込み、歳入歳出それぞれ9,840万1,000円を追加し、総額を126億7,580万1,000円としたいというものでございます。

歳出の主なものを申し上げますと、増額では、北海道知事・道議選挙費143万円、常設保育園会計年度任用職員報酬304万2,000円、ふれあい交流センター暖房機器補修工事費103万

4,000円、農山漁村振興交付金補助金3,118万4,000円、育成牧場経費4,270万5,000円、除雪対策費1億3,609万2,000円を追加し、減額では、中山間地域直接支払交付金事業7,251万2,000円、農地費223万5,000円、道路新設改良費6,766万3,000円の減額などとなっております。

他会計への繰出金については、下水道事業特別会計で180万円を追加しております。

歳入につきましては、それぞれの特定財源を見込み、地方交付税の追加及び前年度繰越金などを充当し、収支のバランスを図ったところであります。

また、継続費1件、債務負担行為1件、地方債で2件の提案をいたしております。

以下、内容についてご説明いたします。

補正予算書1ページをお開きください。

令和4年度標茶町一般会計補正予算（第11号）

令和4年度標茶町の一般会計補正予算（第11号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第1条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ9,840万1,000円を追加し歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ126億7,580万1,000円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

（継続費の補正）

第2条 継続費の補正は、「第2表 継続費補正」による。

（債務負担行為の補正）

第3条 債務負担行為の補正は、「第3表 債務負担行為補正」による。

（地方債の補正）

第4条 地方債の補正は、「第4表 地方債補正」による。

以下、内容について、歳入歳出補正予算事項別明細書に従いご説明いたします。

13ページをお開きください。

（以下、補正予算説明書に基づき説明のため、記載省略）

なお、2ページ、3ページの「第1表 歳入歳出予算補正」につきましては、ただいまの説明と重複いたしますので説明を省略いたします。

4ページをお開きください。

「第2表 継続費補正」でございます。

8款土木費、2項道路橋りょう費、事業名、標茶中茶安別線道路改良事業、補正前の総額1億6,500万円、年割額で3年度2,930万円、4年度1億3,570万円を補正後の総額1億6,491万2,000円、年割額が3年度2,930万円、4年度1億3,561万2,000円とするものです。

23ページをお開きください。

「継続費についての前々年度末までの支出額、前年度末までの支出額又は支出額の見込み及び当該年度以降の支出予定額並びに事業の進行状況等に関する調書」でございます。

8款土木費、2項道路橋りょう費、事業名は標茶中茶安別線道路改良事業、全体計画の計で申し上げます。補正前の年割額1億6,500万円、財源内訳であります、国道支出金1億

1,550万円、地方債4,940万円、一般財源10万円。前年度末までの支出（見込）額は2,930万円、当該年度支出予定額1億3,570万円、当該年度末までの支出予定額1億6,500万円、継続費の総額に対する進捗率につきましては令和3年度17.8%、令和4年度82.2%、計で100%を、補正後、年割額1億6,491万2,000円、財源内訳は国道支出金1億1,543万8,000円、地方債4,930万円、一般財源17万4,000円、前年度末までの支出（見込）額2,930万円、当該年度支出予定額1億3,561万2,000円、当該年度末までの支出予定額1億6,491万2,000円、継続費の総額に対する進捗率につきましては補正前と同じであります。

5ページにお戻りください。

「第3表 債務負担行為補正」でございます。

新規の設定でございます。

事項は畜産特別支援資金（令和4年度）、補正後の期間は令和5年度から令和29年度、限度額、融資金6,291万4,000円に対する利子補給（年0.18%）171万6,000円とするものです。

24ページをお開きください。

「債務負担行為で翌年度以降にわたるものについての前年度末までの支出額又は支出額の見込み及び当該年度以降の支出予定額等に関する調書」です。

事項が畜産特別支援資金（令和4年度）、補正後、債務負担行為の限度額、融資金6,291万4,000円に対する利子補給（年0.18%）171万6,000円、当該年度以降の支出予定額、期間が令和5年度から令和29年度、金額が171万6,000円、財源内訳ですが、国道支出金114万4,000円、一般財源57万2,000円とするものです。

合計では、債務負担行為の限度額5億6,704万6,000円、前年度末までの支出（見込）額3億1,858万2,000円、当該年度以降の支出予定額2億4,846万4,000円、括弧内の6,221万9,000円は令和4年度の支出予定額であり、当初の予定額と変更はございません。財源内訳ですが、国道支出金2,062万9,000円、その他5,990万7,000円、一般財源1億6,792万8,000円とするものです。

6ページをお開きください。

「第4表 地方債補正」でございます。

1 過疎対策事業、標茶中茶安別線道路改良から建設機械整備まで、補正前の限度額2億5,210万円から2,450万円を減額し、補正後の限度額を2億2,760万円とするものです。起債の方法、利率、償還の方法につきましては、補正前に同じであります。

4 公共施設等適正管理推進事業、補正前の限度額1億1,250万円から240万円を減額し、補正後の限度額を1億1,010万円とするものです。起債の方法、利率、償還の方法につきましては、補正前に同じであります。

合計では、補正前の限度額12億5,960万3,000円から2,690万円を減額し、12億3,270万3,000円とするものです。

25ページをお開きください。

「地方債の前々年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書」でございます。

合計で申し上げます。当該年度中起債見込額、補正前の額12億5,960万3,000円から補正額2,690万円を減額し、補正後の額12億3,270万3,000円とするものです。当該年度末現在高見込額、補正前の額137億6,300万8,000円から補正額2,690万円を減額し、補正後の額137億3,610万8,000円とするものです。

以上で、議案第72号の提案趣旨並びに内容説明を終わります。

○議長（菊地誠道君） 住民課長・村山君。

○住民課長（村山新一君）（登壇） 議案第73号の提案趣旨並びに内容についてご説明いたします。

本案は、令和4年度標茶町国民健康保険事業事業勘定特別会計補正予算（第2号）で、内容につきましては、1点目は、未就学児均等割保険料負担金の創設に伴い、北海道国保本体のシステム改修費用を負担金として追加し、当該費用については北海道の令和4年度保険給付費等交付金に係る特別調整交付金として100%道より交付されることから、同額を歳入として追加するものです。

2点目は、令和3年度国民健康保険災害等特例補助金の精算額が確定され、返還金が生じたので、当該必要額について予算化するものであり、歳入においては繰越金をもって所要の調整を行ったところです。

なお、本案につきましては、令和4年11月9日開催の、標茶町の国民健康保険事業の運営に関する協議会に諮問し、答申をいただいていることを申し添えます。

以下、補正予算書に基づき説明いたします。

別冊補正予算書1ページをお開きください。

令和4年度標茶町国民健康保険事業事業勘定特別会計補正予算（第2号）

令和4年度標茶町の国民健康保険事業事業勘定特別会計補正予算（第2号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ22万3,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ11億7,888万1,000円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

以下、歳入歳出補正予算事項別明細書に従いまして説明いたします。

8ページをお開きください。

（以下、補正予算説明書に基づき説明のため、記載省略）

なお、2ページ及び3ページの「第1表 歳入歳出予算補正」は、ただいまの説明と重複しますので、説明を省略させていただきます。

以上で、議案第73号の提案趣旨並びに内容説明を終わらせていただきます。

○議長（菊地誠道君） 水道課長・油谷君。

○水道課長（油谷岳人君）（登壇） 議案第74号、令和4年度標茶町下水道事業特別会計補正予算（第2号）の提案趣旨並びに内容についてご説明いたします。

本案は、歳出につきましては、電気料金の値上げによる需用費の精査による増額及び執行精査に伴う補修工事請負費の減額、公共下水道整備費の執行精査に伴う減額及びそれに伴い、歳入の国庫支出金の減額補正を行うものでございます。

以下、内容についてご説明いたします。

1 ページをお開きください。

令和4年度標茶町下水道事業特別会計補正予算（第2号）

令和4年度標茶町の下水道事業特別会計補正予算（第2号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ135万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ4億8,135万円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

以下、内容について歳出補正予算事項別明細書に従い説明いたします。

8 ページをお開きください。

（以下、補正予算説明書に基づき説明のため、記載省略）

2 ページをお開きください。

2 ページ、3 ページの「第1表 歳入歳出予算補正」でございますが、ただいままでの説明と内容が重複いたしますので、説明を省略させていただきます。

以上で、議案第74号の説明を終わります。

引き続き、議案第75号、令和4年度標茶町簡易水道事業特別会計補正予算の説明をいたします。

議案第75号、令和4年度標茶町簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）の提案趣旨並びに内容についてご説明いたします。

本案は、歳出につきましては、電気料金の値上げによる需用費の精査による増額と、歳入では、簡易水道事業費道補助金の精査による減額及び前年度繰越金による増額、それに伴い町債の減額補正を行うものでございます。

1 ページをお開きください。

令和4年度標茶町簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）

令和4年度標茶町の簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第1条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ160万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ2億160万2,000円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

（地方債の補正）

第2条 地方債の補正は、「第2表 地方債補正」による。

以下、内容について歳入歳出補正予算事項別明細書に従い説明いたします。

9ページをお開きください。

(以下、補正予算説明書に基づき説明のため、記載省略)

2ページをお開きください。

2ページ、3ページの「第1表 歳入歳出予算補正」でございますが、ただいままでの説明と内容が重複いたしますので、説明を省略させていただきます。

4ページをお開きください。

「第2表 地方債補正」

起債の目的、1簡易水道事業、補正前の限度額3,610万円に2,030万円を減額し、補正後の限度額を1,580万円とするもので、起債の方法、利率、償還の方法はいずれも補正前と同じです。

10ページをお開きください。

「地方債の前々年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書」です。

変更合計で申し上げます。当該年度中増減見込み、補正前の額3,610万円に2,030万円を減額し、補正後の額1,580万円。同じく当該年度末現在高見込額は、補正前の額3億58万7,000円に2,030万円を減額し、補正後の額2億8,028万7,000円です。

以上で、議案第75号の説明を終わります。

○議長（菊地誠道君） 病院事務長・伊藤君。

○病院事務長（伊藤順司君）（登壇） 議案第76号の提案趣旨並びに内容についてご説明申し上げます。

本案は、令和4年度標茶町病院事業会計補正予算（第3号）でございます。収益的収入支出それぞれ935万2,000円を追加し、総額を13億5,325万9,000円にしたいというものでございます。

収益的収入及び支出補正の主なものを申し上げますと、収入で、PCR等検査無料化推進事業費補助金161万3,000円、感染症病床確保促進事業費補助金773万9,000円、ともに北海道の補助事業でございますが、見込額としまして合わせて935万2,000円の追加補正を行うものでございます。

支出では、これら事業にかかわる経費としまして、薬品費140万8,000円、診療材料費389万2,000円、また、光熱水費105万2,000円、修繕費300万円を、それぞれ追加補正するものでございます。

以下、内容につきまして補正予算書1ページからご説明申し上げます。

予算書1ページになります。

令和4年度標茶町病院事業会計補正予算（第3号）

（総則）

第1条 令和4年度標茶町病院事業会計補正予算（第3号）は、次に定めるところによる。

（収益的収入及び支出）

第2条 令和4年度標茶町病院事業会計予算（以下「予算」という。）第3条に定めた収益的収入及び支出の予定額を、次のとおり補正する。

収入、第1款、病院事業収益、補正予定額935万2,000円を追加し、13億5,325万9,000円に。

第2項、医業外収益、補正予定額935万2,000円を追加し、6億3,267万7,000円に。

支出、第1款、病院事業費用、補正予定額935万2,000円を追加し、13億5,325万9,000円に。

第1項、医業費用、補正予定額935万2,000円を追加し、13億3,196万9,000円とするものがございます。

（たな卸資産購入限度額）

第3条 予算第8条中「1億1,790万円」を「1億2,320万円」に改める。

次に補正予算説明書によりご説明いたします。

3ページをお開きください。

（以下、補正予算説明書に基づき説明のため、記載省略）

次に2ページでございますが、こちらは補正予算実施計画で、ただいまの説明と内容が重複いたしますので省略させていただきます。

なお、本案につきましては11月9日開催の第2回標茶町立病院運営委員会において、承認されておりますことをご報告申し上げます。

以上で、議案第76号の提案趣旨並びに内容について説明を終わります。

○議長（菊地誠道君） お諮りいたします。

ただいま議題となりました議題5案は、直ちに議長を除く12名で構成する「議案第72号・議案第73号・議案第74号・議案第75号・議案第76号審査特別委員会」を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思っております。

これに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） ご異議ないものと認めます。

よって、議題となりました議題5案は、議長を除く12名で構成する「議案第72号・議案第73号・議案第74号・議案第75号・議案第76号審査特別委員会」に付託をし、審査することに決定をいたしました。

休憩いたします。

休憩 午前 11時33分

再開 午後 2時32分

○議長（菊地誠道君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

◎議案第77号

○議長（菊地誠道君） 日程第3。議案第77号を議題といたします。

本案について提案理由の説明を求めます。

町長・佐藤君。

○町長（佐藤口彦君）（登壇） 議案第77号の提案趣旨並びに内容についてご説明申し上げます。

本案につきましては、令和5年2月27日をもって任期満了となります教育委員会委員の任命についてであります。

以下、内容についてご説明申し上げます。

議案第77号 教育委員会委員の任命について

下記の者を教育委員会委員に任命したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第4条第2項の規定によって、議会の同意を求めるものであります。

住所は川上郡標茶町桜4丁目4番地、氏名は山林幹雄、生年月日は昭和37年4月4日、職業は自営業であります。

山林氏の経歴については、議案説明資料により省略をさせていただきますが、平成31年2月に教育委員に就任されて以来、真摯に職責を果たされておりました、継続してお願いしたくご提案するものであります。

ご審議いただき、ご同意を賜りますようお願い申し上げ、議案第77号の提案趣旨並びに内容の説明を終わります。

○議長（菊地誠道君） 本案の審議に入ります。

これより質疑を行います。

ご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 質疑はないものと認めます。

質疑は終結いたしました。

お諮りいたします。

本案については、討論を省略し、直ちに採決をいたしたいと思っております。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） ご異議ないものと認めます。

よって、直ちに採決いたします。

本案は、起立により採決いたします。

本案に同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（菊地誠道君） 起立全員であります。

よって、議案第77号は原案同意されました。

◎議員提案第3号

○議長（菊地誠道君） 日程第4。議員提案第3号を議題といたします。

本案について提案理由の説明を求めます。

本多君。

○9番（本多耕平君）（登壇） 標茶町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について、提案理由並びに内容を説明いたします。

本案につきましては、昨日、調査報告書が提出されました。「標茶町議会議員定数等調査特別委員会」において検討した結果を踏まえて、現行の議員定数13名から1名減の定数12名へ改正するものであります。

以下、内容について説明いたします。

議員提案第3号 標茶町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について

標茶町議会議員定数条例の一部を改正する条例を別紙のとおり制定する。

標茶町議会議員定数条例の一部を改正する条例

標茶町議会議員定数条例（平成14年標茶町条例第21号）の一部を次のように改正する。

第2条中「13人」を「12人」に改める。

附則といたしまして、この条例は、次の標茶町議会議員の一般選挙から施行するものであります。

以上で、議員提案第3号、標茶町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について、提案理由並びに内容の説明を終わります。

○議長（菊地誠道君） 本案の審議に入ります。

本案については、会議規則運用細則第40項の規定により、質疑を省略したいと思います。

これに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） ご異議ないものと認めます。

よって、質疑は省略することに決定をいたしました。

これより討論を行います。

討論ございませんか。

（「議長」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 討論がございますので、まず本案に反対者の発言を許します。

深見君。

○8番（深見 迪君）（登壇） 私は、議員提案第3号、標茶町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について、反対の立場から討論に参加します。

反対の理由の第1は、議論の時間が極めて短かったことです。7月22日、9月2日の勉強会を経て、特別委員会を設置し、この件についての具体的な審議が始まったのは、第1回目は9月7日で、この日は委員長、副委員長を決めるだけでした。第2回特別委員会11月14日、第3回特別委員会は12月6日で、実質的に特別委員会で審議したのは2回だけでした。

全国町村議会議長会では令和4年2月に、住民福祉の向上を実現する町村議会のための条件整備という副題で報告書を作成していますが、この中に、議員報酬と議員定数は住民と考えるとあります。そして、住民に周知する十分な時間が必要として、遅くとも選挙の1年前には周知できる準備を進めるべきであるとまとめています。この点で、議長の諮問とそれに

対する議会の議論は住民不在であったのではないかと思いますし、その期間が選挙直前という極めて短期間で提案であったと思います。また、報告ではこれまでの経過を見ると、中央の集権化が進められると議員定数が減じられ、地方自治の発展した時期には議員定数は増員される傾向があった点に留意すべきであるとも述べています。そして、じりじりと議員の定数減が繰り返される現状は、好ましいものではないとも述べています。

第2に、議員の定数は民意の反映に必要なさまざまな集団、階層、職業、性別などからの代表選出可能性にかかわるものであり、多様な民意、町民の皆さんの思いを的確に反映するために、必要な定数を確保することが求められると思います。

削減を主張する意見の中には、不幸にも任期途中で亡くなられた議員の方がいて、13名の定数が1人欠員になり12名で議会運営を余儀なくされたことを取り上げ、「12名でもやってこられたのではないか」というご意見を述べられた方もいました。しかし、それは本来の議会のあり方とは無縁の意見であると思います。本町は人口減の問題もありますが、都市とは違って多くの集落が存在しており、それぞれ本町発展のために欠かせない歴史もあります。初めから定数削減ありきではなく、本来の自治体議会の機能を維持することが可能な定数について、慎重な議論を重ねていく必要があると思います。

第3に、議員定数は一度削減すれば増加は不可能に近いと私は思っています。

私は住民に見える議会、開かれた議会など、議会報告も含めて、議会が改革すべき課題が数多くあると思います。住民の皆さんが議会の議論や力を頼りにしていけるような、議会改革の課題がたくさんあると思います。住民の皆さんのさまざまな形での参加を豊富にし、それを踏まえて町長と政策競争をする、そのことが今、一番重要であると思います。議会に対する不満や多様な要求が、住民の皆さんにはあると思います。定数削減の声があることも承知しています。しかし、少数になったからといって、住民の期待する議会になるという保障はありません。住民の皆さんが望む議会づくりが、定数よりも大切なことであると思います。

以上の点から、私は今回の条例の一部改正に反対するものであります。

以上で終わります。

○議長（菊地誠道君） 次に、本案に賛成者の発言を許します。

長尾君。

○3番（長尾式宮君）（登壇） 私は、議員提案第3号、標茶町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の立場から意見を申し上げます。

先ほど反対意見にもございましたが、3年前、痛ましくも同僚議員が亡くなっております。それから13名のところを12名で、我々、3年間活動してきたわけでございます。その中において、我々は常に、1人足りないけど、「だから議会がうまく機能していない」、そう言われないうちに、常日ごろから議会運営にどのようにかかわっていったらいいのか、同僚議員と議論を交わし、そして活動してまいりました。今期はたまたま偶然かもしれませんが、非常に、定例議会のほかに委員会活動、そしてその他の会議等も多い、そういった任期であったと思います。その中で、定例議会、臨時議会のあるなしにかかわらず、我々は顔を合わせ、常に情報交換し、そして議論を重ねてまいりました。その中において、我々は今回、特別委

員会で議員定数削減、1減を提案しておりますが、その根拠であります、この3年間、我々は常に議会改革、言葉に出して言わずとも、12人で頑張ってやっつけていこう、そういった気概のもとにこの3年間やってまいりました。

そして町の有権者の皆さんに聞きますと、やはりこの町の規模を考えると12人が妥当ではないか、そういったお話もいただいております。また、厳しい方のご意見では「働かない議員がいるのだったら、もっと減らしたほうがいいのではないか」、そういった厳しいご意見の有権者の方もいらっしゃいました。ただ単に数を減らせばいい、私もそういった意見は持ち合わせておりません。やはり議会というのは、いろいろな立場、いろいろな意見があって、そこでまちづくりがなされる、それが理想だと思っております。

ただ、今の標茶町の状況を考えれば、このたび議会定数の中では、やはり一部付随する話題として、将来の議員のなり手の話なども出ましたが、そういった中において町民も12名が妥当だ、そして我々も12名で、これからももっともっと精力的な活動をやっつけていこう、その思いから今回の1名減の結果に至りました。提出者を初め賛成者皆が、我々議員がみずから律する、そういった思いをもとに今回臨んでおります。その中で我々が、これから選挙を間近に控えあえて厳しい道をとるとするのは、町民を初め皆様の期待に応える、その一つの思いあつてのことでございます。

以上をもって討論を終わります。

○議長（菊地誠道君） ほかに討論ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） これで討論を終わります。

ただいま討論がありましたので、議員提案第3号は起立により採決いたします。

議員提案第3号を原案可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（菊地誠道君） 起立多数であります。

よって、議員提案第3号は原案可決すべきものと決定されました。

◎議員提案第4号

○議長（菊地誠道君） 日程第5。議員提案第4号を議題といたします。

本案について提案理由の説明を求めます。

本多君。

○9番（本多耕平君）（登壇） 議員提案第4号、標茶町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について、提案理由並びに内容を説明いたします。

本案につきましては、さきに議決されました標茶町議会議員定数条例の一部改正に伴い、総務経済委員会の委員定数を現行の議員7名から、1名減の定数6名へ改正するものであります。

以下、内容について説明いたします。

議員提案第4号 標茶町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について

標茶町議会委員会条例の一部を改正する条例を別紙のとおり制定する。

標茶町議会委員会条例の一部を改正する条例

標茶町議会委員会条例（昭和37年標茶町条例第19号）の一部を次のように改正する。

第2条第1号中「7人」を「6人」に改める。

附則といたしまして、この条例は、令和5年5月1日から施行するものであります。

以上で、議員提案第4号、標茶町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について、提案理由並びに内容の説明を終わります。

以上です。

○議長（菊地誠道君） 本案の審議に入ります。

本案について、会議規則運用細則第40項の規定により、質疑を省略いたしたいと思います。

これに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） ご異議ないものと認めます。

よって、質疑は省略することに決定をいたしました。

これより討論を行います。

討論ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 討論はないものと認めます。

これより本案を採決いたします。

本案を原案のとおり決定してご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） ご異議ないものと認めます。

よって、議員提案第4号は原案可決されました。

◎意見書案第8号

○議長（菊地誠道君） 日程第6。意見書案第8号を議題といたします。

お諮りいたします。

議題となりました意見書案については、会議規則運用細則第40項の規定により、趣旨説明と質疑を省略したいと思います。

これに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） ご異議ないものと認めます。

よって、意見書案については、趣旨説明と質疑を省略することに決定いたしました。

これより討論を行います。

討論ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（菊地誠道君） 討論はないものと認めます。

これより、意見書案第8号を採決いたします。
意見書案を原案のとおり決定してご異議ございませんか。

(「異議あり」の声あり)

○議長(菊地誠道君) ご異議がありますので、本案は起立により採決いたします。
意見書案第8号を原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(菊地誠道君) 起立少数であります。
よって、意見書案第8号は原案否決されました。

◎意見書案第9号

○議長(菊地誠道君) 日程第7。意見書案第9号を議題といたします。
お諮りいたします。

議題となりました意見書案については、会議規則運用細則第40項の規定により、趣旨説明と質疑を省略したいと思います。

これに、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(菊地誠道君) ご異議ないものと認めます。
よって、意見書案については、趣旨説明と質疑を省略することに決定をいたしました。
これより討論を行います。
討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(菊地誠道君) 討論はないものと認めます。
これより、意見書案第9号を採決いたします。
意見書案を原案のとおり決定してご異議ございませんか。

(「異議あり」の声あり)

○議長(菊地誠道君) ご異議がありますので、本案は起立により採決いたします。
意見書案第9号を原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(菊地誠道君) 起立少数であります。
よって、意見書案第9号は原案否決されました。

◎閉会中継続調査の申し出について

○議長(菊地誠道君) 日程第8。閉会中継続調査の申し出を議題といたします。

総務経済委員会、厚生文教委員会、広報委員会、議会運営委員会の各委員長から、会議規則第73条の規定により、閉会中継続調査の申し出があります。

お諮りいたします。

各委員長から申し出のとおり、いずれも閉会中の継続調査としてご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(菊地誠道君) ご異議ないものと認めます。

よって、総務経済委員会、厚生文教委員会、広報委員会、議会運営委員会の各委員長から申し出のとおり、閉会中継続調査と決定をいたしました。

◎日程の追加

○議長(菊地誠道君) ただいま、議案第72号・議案第73号・議案第74号・議案第75号・議案第76号審査特別委員会委員長から、審査報告書が提出されました。

これを日程に追加し、直ちに議題といたしたいと思えます。

これに、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(菊地誠道君) ご異議ないものと認めます。

よって、議題5案を日程に追加し、直ちに議題とすることに決定をいたしました。

◎議案第72号ないし議案第76号

○議長(菊地誠道君) 議案第72号、議案第73号、議案第74号、議案第75号、議案第76号を議題といたします。

お諮りいたします。

本案に関し、付託をいたしました議案第72号・議案第73号・議案第74号・議案第75号・議案第76号審査特別委員会委員長から、会議規則第75条の規定により、審査報告書が提出されております。会議規則第39条第3項の規定により、委員長の報告を省略いたしたいと思えます。

これに、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(菊地誠道君) ご異議ないものと認めます。

よって、委員長の報告は、省略することに決定をいたしました。

これより、委員長報告に対する質疑を行います。

ご質疑ございませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(菊地誠道君) 質疑はないものと認めます。

質疑は終結いたしました。

これより討論を行います。

討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(菊地誠道君) 討論はないものと認めます。

これより本案を採決いたします。

本案に対する委員長報告は、いずれも原案可決すべきものであります。

本案を委員長報告のとおり、決定してご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(菊地誠道君) ご異議ないものと認めます。

よって、議案第72号、議案第73号、議案第74号、議案第75号、議案第76号は、委員長報告のとおり原案可決されました。

◎閉議の宣告

○議長(菊地誠道君) 以上で、本定例会に付議された事件の議事は全部終了いたしました。

これで本日の会議を閉じます。

◎閉会の宣告

○議長(菊地誠道君) 以上をもって、令和4年標茶町議会第4回定例会を閉会いたします。

(午後3時00分閉会)

以上、会議のてん末を記載し、その相違ないことを証するためにここに署名する。

標茶町議会議長 菊 地 誠 道

署名議員 2 番 櫻 井 一 隆

署名議員 3 番 長 尾 式 宮

署名議員 4 番 松 下 哲 也